

北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 二年  
大家 健太郎

エコノミクス甲子園全国大会、本当に楽しく本当にあっという間の三日間でした。この大会で僕は数多くの素晴らしいことを手に入れる、経験することができました。プレゼンクイズでは仲間を作ることが出来ました。正直プレゼンクイズは上手くやれるか不安だったのですが、僕らのグループはとてつもなく雰囲気が良く、そんな不安もすぐに吹き飛びました。結局他校の方々に頼ってばかりでしたが、好成績を取ることが出来ました。このグループでなかったら準優勝という結果は得られなかったと思います。本当にありがとうございました！

前夜祭ではとても貴重な経験が出来ました。普通の高校生活を送っているだけでは決してお会いすることのできないような方々がたくさんいらして、とりあえずすごかったです。

ペーパークイズや準決勝、決勝では答えられない問題も多く、自分がまだまだだということを自覚させられました。来年は受験なのでもうエコノミクス甲子園に出ることはないと思いますが、出る出ないに関わらずこれからも経済を勉強して行きたいと思っています。

そして準優勝という結果。先輩方のためにも決勝に進出し、優勝することを目標に日々勉強してきましたが、まさか本当に決勝に進出、そして準優勝までできるとは…。最後「マーケットリーダー」と答えられたらカッコよかったなあ、という悔しい気持ちはもちろんありますが、自分としては納得のいく結果だったと思います。

これらの経験、そして身につけた金融知識をこれからの人生に活かしていきたいと思っています。エコノミクス甲子園を企画・運営して下さった方々、本当にありがとうございました！

北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 二年  
田村 麟太郎

「こんなじゃ来年は誰に託せばいいんだよ。」それは二年連続で全国大会に出場し、準優勝の経験もある先輩の言葉だった。北海道大会は全国へと進出するためにまず地区予選大会を勝ち抜け、北海道大会で優勝しなければならないのだが、一年前の僕は、北海道大会にすら、出場することができなかった。「今年は絶対に優勝しろよ。」同じ先輩に全国大会二日前に言われた一言がとてうれしかった。

大会二日目のプレゼンクイズでは、千葉大会代表のチームが中心となってくれたおかげで、非常に良い内容のプレゼンができたと思っている。三日目に予選通過できたのも、プレゼンの功績が大きかったと感じている。

大会三日目、決勝の舞台へ上がったときは最高の気分だった。表彰式のスピーチで印象に残っていることは、知識を持っている人間が必ず勝つとは限らない。それをどのように使うかで結果は決ま

る、ということだ。僕は優勝した金大附属高校に、すべてを手のひらで転がされていたように感じた。優勝と準優勝では言葉の響き以上に意味が違うようだ。

来年は受験勉強のため、おそらく出場することができないだろう。だから僕は後輩に言いたい。「来年は絶対に優勝しろよ」と。

今回の大会は僕の人生においてとても価値のある三日間だった。



青森大会代表 青森県立弘前高等学校 一年  
石郷岡 隼

一日目、東京行きの飛行機の中、飛行機慣れしていなかった私は重力の恐ろしさを体感する羽目になりました。オーディオの落語の音声でかろうじて正気に保たれていた気が…。それだけ人生初の「全国大会」のプレッシャーは大きいものでした。

その後行われたエコノミクス大会は筆舌に尽くしがたいほど白熱したもので、カードゲーム歴8年の私ですが、独特なルールを読みきれず惨敗。いやあ、凄いやつが揃ったものです。同部屋の三重代表の方には大変お世話になりました。県外、それもはるか遠くの地方のメンバーとの会話は今までにないくらい面白く、興味深いものでした。

二日目、壮大なプレゼンテーション。2位にはなりましたが他チームの方々についてきた感じです。頭上がりません。はい。ただ、そのおかげでプレゼンラウンドが優位に進み、結果本選でものすごく有利になりました。ありがとうございました。本当にプレゼン大事です。次回は議論を先導していかなくては。もし出られたらですが。さて、前夜祭で豪華な夕食を頂き、私たちが待っていたのは…おっと、尺が足りませんね。これは割愛させていただきます。ただびっくりした、ということだけ付け加えておきます。

さて、運命の三日目。第1ラウンドの早押しが原因でシードを獲得できなかったで第2ラウンドから。正直なところまさか勝ってしまうとは。ナイス相手。その後の昼食時間に三重代表の方からエールを頂き、元気付けられました。準々決勝では序盤の誤答が響き、前一步及ばず敗退。でも、とっても楽しかったです。

次回は実力で、もちろん勝利できるよう、更にレベルアップしてこの舞台に帰って来たいです。

これからの精進をここに誓って。ありがとうございました。

青森大会代表 青森県立弘前高等学校 二年  
阿部 瑞樹

今回エコノミクス甲子園に出場して、たくさんの経験ができました。なかでも各都道府県代表の人たちと交流ができたことはとても貴重な経験だと思っています。同年代のほかの地域の人たちと交流でき

たのはとても新鮮でした。そして僕が一番思い出に残っているのはプレゼンです。僕はパソコン操作が苦手なので、アイデアをたくさん出してグループに貢献できたらいいなと思っていました。始めは、話し合いが活発になるのか不安だったのですが、それは杞憂でした。自己紹介から始まり、みんなが意見を出して話し合うたびにどんどん打ち解けて行くような感じで、とても意見を出しやすい雰囲気でした。グループで役割分担が出来ていて、僕もアイデアをしっかりと出し、情報収集などの役割もしっかりと行うことができました。グループは2位になることができ、何よりも楽しく活発に話し合いができたこのグループで良かったと思いました。3日目の本戦は問題の難易度が高く、とても難しかったです。僕たちは、準々決勝敗退だったのですが第2ラウンドの時、最後まで粘ることができたので良かったです。決勝、準決勝の問題はわからないものばかりで勉強不足を痛感せざるをえませんでした。しかし、この体験をきっかけに金融の専門用語などを勉強し、多少ですが知識を身につけることができたと思っています。普段はできない自分たちが企業の経営を考えるプレゼンは本当に自分たちが社員になったつもりで一生懸命に考えることができた事も楽しかったです。これからは毎日のニュースの見方も今までとは違う目線から見られるのではと期待しています。このエコノミクス甲子園に出場出来た事を糧に様々な知識を増やし、また来年も出場出来るように努力したいと思います。



岩手大会代表 盛岡中央高等学校 二年  
細川 駿平

私が今回の大会に参加しようと思ったきっかけは内野澤君でした。彼がこの大会のパンフレットを持っていたのを私が興味を示してタッグを組んだのが始まりでした。

県大会では予想以上に健闘し、優勝して全国大会への切符を手に入れました。それから二ヶ月が過ぎて遂に全国大会への時が巡ってきたのです。

今回の大会に参加して感じたことは三つあります。

一つ目は、このエコノミクス甲子園の目的である「大会を通じて経済に親しむ」ということが私はできたと思います。なぜならば事前資料や教科書類などから経済の様々な事を学ぶことができ、また時間がある時は日経新聞を読むなど日頃から経済に親しむようにしていたからです。今まで興味はありつつもあまり知らなかった世界に足を踏み入れる良い機会となりました。

二つ目は、この大会で全国の高校生達のレベルの高さを知った事についてです。県代表になったのはあくまで始点であり終点でないという事を実感しつつ私は勉強に励んでいました。そして三日目の大会で競争相手達を見ると自分達よりも早押しやクイズで好成績を取っているのを見て愕然としました。これからも全国の高校生達に負け

ないように努力しようという気分になりました。

三つ目は、全国の高校生達と交流できたことです。私たちは競争相手であり、仲間でもあるわけです。二日目の夜には前夜祭を行い普段では会えない様な人達と親交を深める事ができました。私も機会があればエコノミクス甲子園のスタッフをやってみたいとそのときふと思いました。

今回の大会では普段では出来ない貴重な経験が出来ました。本当にありがとうございました。

最後に、関係者、スタッフの皆様ありがとうございました。

岩手大会代表 盛岡中央高等学校 二年  
内野澤 安紀

私内野澤は今大会で多くのことを学び、多くの人と出会い、成長することができた。このような体験は、今までの人生の中でもほとんどなかった。これからも、ほとんどないと思う。

大会前、エコノミクス甲子園全国大会についての情報が少なかつたため、全体像があまりよくつかめず苦労した。大会に来てみると、早押しクイズだけではなく、エコノミクス大会、プレゼン大会などもあり全体を通して三日間楽しむことができた。

「JAL×はじめて」をテーマとしたプレゼン大会では、今まで会ったことのない全く知らないグループのメンバーと、短い時間でプレゼンを作った。大変だった。こういう場面は、これからの人生でも多くあるのではないと思う。このような場面では、いかに自分の意見と相手の意見を組み合わせ、双方がWin-Winの関係になるようにするかが重要である。自らの意見のトップとボトムを設定し、妥協点を何とか見つけなければならない。

率直に言うと、私たちのグループのプレゼンはほかのグループにも負けにくい独創性があり、社会への貢献度もあり、かつ独創性もあったと思う。それではなぜ、入賞できなかったか。それは、自分自身がほかのメンバーとうまく意見の共有ができずベンチワークが足りなかったこと、必要以上にテーマを深追いしすぎたことの二点にあるとみている。

私たちは、来年度早くも三年生となる。そうなるとうちはかなり厳しくなると推測する。だからこそ私は退いて、ここは有能な後輩に託したい。

そのためにエコノミクス甲子園の存在を後輩にアピールし、来年度も岩手県代表を私の高校から出したいと思う。

周りとのレベルの差は大きい。三日間、朝から晩まで考えていたかもしれない。私のレベルが低いだけなのだろうが、最後まで勝ち進んでいった高校生のみなをみて、私は感嘆の声を漏らさずにはいられなかった。どこからそのような知識が湧き出てくるのだろうか。これまでどれだけ努力してきたのだろうか。そう考えると、自分のレベルはどれだけ低いか。地に墮ちたような気分がした。努力の差。継続の差。

あの時ああしておけばよかった、こうしておけばよかったというのはとてもかっこ悪いので控える。

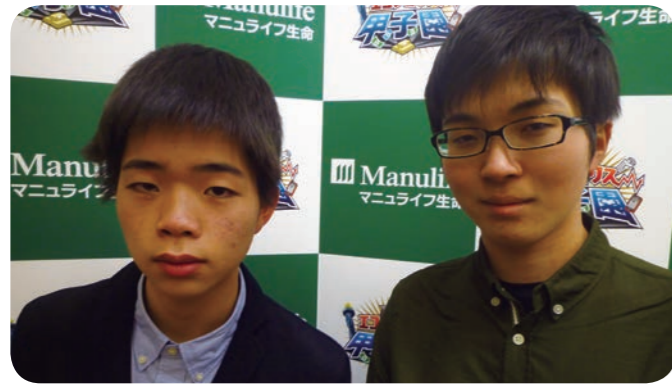
こんなことは岩手県大会で優勝したから言えることなのかもしれないが、一応言っておく。岩手県大会のレベルは、もっともっと上がってほしい。参加チームも9チームと、他県と比較してかなり少なかった。はっきり言って私のチームが優勝できるとは思っていなかった。事実、内閣総理大臣を全国で二番目に輩出している県である。来年度はもっと参加者が増えて、ハイレベルの優勝争いがなされることを期待している。

予選ラウンドすら通過できなかったのは、はっきり言って私のせいだ。この悔しさを胸に、一層励みたいと思う。ペアの細川の努力無くして、県で優勝することはあり得なかった。そうでありながら、最後は自分のミスで敗退を決してしまい、申し訳なく思う。ぼくを全国に導い



てくれて、ありがとう。

おわりに、本大会を運営して下さったみなさま、岩手県大会から本大会まで私たちを励まし、導いてくださった北日本銀行の職員の皆様に感謝を申し上げます。



宮城大会代表 宮城県仙台第一高等学校 二年  
佐藤 太一

エコミクス甲子園を終えて。内容を具体的に書いてしまうと、これを読む人に呆れられてしまいそうなので、個人的な感想を中心に綴ろうと思います。

宮城県予選はルールを上手く扱って勝ち進んだため、全国もこのように感じだと思っていました。しかし、実際はそんなことありませんでしたが、高校の「政治・経済」で対処できた予選とは大きく異なり、送られた教材・教材外からたっぷり出てしまい、政経で対処しようとした僕の目論見は大きく外れ、木っ端微塵に。見当が外れてしまった以上、どうしようもないので一緒に出た後輩には申し訳ないが戦力外となってしまいました。後輩はクイズが強いと自負していたので、運命を託すのは道理に当たってははずだろうと今さらながら言い訳します。教材は偉大です。本当に。

エコミクス甲子園全国大会は、さすが全国大会と言ったところでしょうか、一度は聞いたことあるような名門高校の生徒が多かったです。そのような彼らと接することが出来たのは、今振り返ると貴重な体験でした。良い刺激になりました。

貴重な体験といえば、JALによるプレゼンテーションを挙げずにはいられません。日本を代表する超大手企業のJALを相手に、自分たち高校生のアイデアを披露できるというのは、やりがいがある、素晴らしい体験でした。結局何位にランクインしたのかは不明のままでしたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。

さて、戦力外になってしまいましたが、今回を踏まえて後輩達がこの全国の舞台で活躍できるよう、経験者として一助になりたいと思います。

宮城大会代表 宮城県仙台第一高等学校 一年  
佐々木 洸輔

私自身、この全国大会に行けるなんて思うわけがなかった。ただ、勝ってしまったのだ。思い返せばもうその時点で驚きの連続になっていくことは当然のことなのだろうかとは今は感じる。

私は、その予想外に1日目に宿舎に着いてからようやく気がついた。当然ながら周りに知り合いはほとんどいない。自分の中でだが、よく緊張せずに多くの人と話ができたと感じる。個人的には冷淡な態度をされるのではないかと、相手は嫌がっているのではないかと考えてい

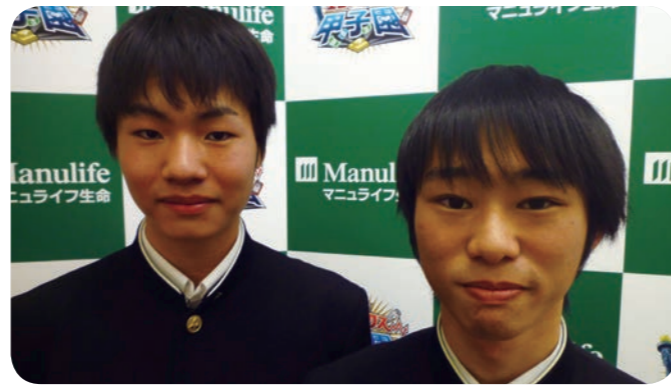
たが、それをいい意味で裏切ってくれた。クイズも確実に自分より強そうで、相手にされないのではとも感じたが、その壁は部屋に行くと早々に無くなった。

2日目のプレゼンでも、相方の先輩や同じグループの人の意見をまとめる力、プレゼンで話す時の話の出来上がり具合は自分の非力さを痛感した。まだまだ学校でプレゼン力や人前で提案の形で話す力が足りず、その点もこれからの学校生活や1年後の大会のために努力が必要だと感じた。そんな課題が見つかった中では、全グループの中で最も仲が良いグループだったと感じ、本当に「4番目」であるとも確信している。

2日目という、有り得ないほどの予想外が起こったのは印象深すぎた。前夜祭で盛り上がった中で突然の筆記クイズ。その前のドッキリから少しは察していたが、問題用紙を開くと見える更なる予想外が。勉強不足だった上、もっと真剣に勉強していればよかったとの後悔も感じた。

さて、本番の3日目。筆記クイズの始まり方がかなり予想外だったためもう何がきてもおかしくない覚悟でいた。ただ、自分がクイズをするために来たはずのところクイズに答えられないという痛々しい思いが心を埋めた。自分はどのように会場に来たのかと疑っていいくらいでもあった。運要素はあったが、私の場合、確実に実力不足だと見えているのだ。

このように、「楽しい」と、「辛い」という二つの面での予想外が重なって、まだまだ金融や経済を学びたい、次回大会では自分の足でさらに良い結果を残してやろうと思ったのでした。



秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 二年  
豊田 瑛

申し込み締切日当日の夜に、突然先輩から「エコミクス甲子園にでないか」と連絡がきて、正直なところ最初はあまり乗り気ではなくとりあえずでるか、という程度でした。しかし先輩との勉強や大会を通して『経済』が好きになりました。僕はこの「エコミクス甲子園」にでれて本当に良かったと感じています。

1日目  
学校を早退し、飛行機で東京に向かい午後4時過ぎ宿舎に着いた。「エコミクス大会」では全くエコミクスの練習をしてこず、オリジナルデッキを持つ人がたくさんいるなかで勝てるとはまったく思っていなかった。

しかし運が良かったのか結果は5勝0敗で全国第5位に見事入賞!さらには次回大会(今年の夏開催予定)のシード権を手に入れることができた。幸先よくスタートをきれたエコミクス甲子園であった。

2日目  
学校を早退し、飛行機で東京に向かい午後4時過ぎ宿舎に着いた。「エコミクス大会」では全くエコミクスの練習をしてこず、オリジナルデッキを持つ人がたくさんいるなかで勝てるとはまったく思っていなかった。



午前中から「JALラウンド」が始まり、この結果が最終日の全国大会に影響する、ということもあり不安と緊張が大きかった。

12チームにわかれる団体戦的なものであり、プレゼンを作る。結構うまくできたのではないかと考えていたが、結果は上位入賞ならずであった。

前夜祭ではたくさんの食事とビンゴ大会がありたいへん楽しかった。他県の方との交流もでき、またエコミクス甲子園の後援をされている方々ともお話ができ、良い経験となった。

ビンゴ大会ではぎりぎりビンゴを勝ち取り、鹿児島県の景品をもらうことができた。

エコミクス大会やビンゴで見事良い結果を残せたので、明日もこの調子でいけるのではないかと期待の中、突如(予想はしていた)筆記試験が始まり、対策はしていたものの難しく、最終日の全国大会で予選突破が危なくなってしまった。(ペアの人はかなり解けており、私がものすごく足を引っ張ってしまった…)

3日目、最終日  
ついに全国大会当日!よく眠れてあとは実力を発揮するのみ!と全国大会に挑んだ。

1ラウンド目の早押しクイズではおしくも先を越されてしまい0点におわり、この時点で上位12チームに入らず、敗者復活戦に挑むことになった。

2ラウンドではペアでわかれてまるばつクイズだった。1問目のマネタリーベースの問題で勉強していたにも関わらず間違えてしまい、悔しい思いをした。

3ラウンドが最後の敗者復活戦!さらに復活できるのは4チームのみ!という高倍率のなか、相場操縦、ナッシュ均衡、ベティ、クラークの法則を答えられ、秋田県勢初の予選突破となった!

準々決勝では4択クイズで上位8チームに入らなければならなかったが、ここで敗退してしまった。

先輩と僕の甲子園はこれで終わってしまった。先輩との甲子園は最初で最後であり、自分の無知さにほぞを噛むこととなった。

エコミクス甲子園は僕の人生にとって、忘れられない、大切な経験となりました。経済にまったく興味がなかった僕を誘ってくれた先輩には感謝してもきれません。

この「エコミクス甲子園」での思い出を、この感動を他の人と共有し、1人で多く「経済友達」を増やし、金融知力の向上に努めてきたいと思えます!

エコミクス甲子園を主催、後援、運営して下さったたくさんの方々にへの感謝の意を表して終わらせていただきます。

本当にありがとうございました!

秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 三年  
伊藤 悠斗

私は2年生であった昨年も全国大会に出場し今回は二度目の出場となった。正直今年は受験の関係で出場できるとは思っていなかったが、とある大学の経営工学部に縁あって推薦で合格することができ、またテニス部の後輩である豊田君が快くOKしてくれて3年生で出場した。恐らく全国大会の振り返りや感想は皆さんが書いてくれると思うので私はこれから経営学の世界に携わっていく人間として自分にとって経営学とは何なのかということについて書いていきたいと思う。

経済が略語であるということを皆さんは知っているだろうか? 経済は漢文の「経世済民」という言葉が語源といわれていて「世を経(おさ)め、民を済(すく)ふ」という意味である。経済=お金儲けの方法というイメージを知らず知らずのうちに持っていた私にとって経済が人を救うものだという発想に驚きを覚えた。さらに経済学の定義を調べ

ると「限りある資源(お金のみならず時間、労働力、食料など)を人々が幸福になれるように最も効率的に分配するための学問」ということらしい。どうやらお金儲けとは真逆で富の再分配、貧困の解決という概念のほうが近く、しかも扱うものはお金だけではないらしいと知った。

私は中学生の頃から経済学や経営学に興味を持っていたがそれは漠然としたものだった。高校で毎日のように大学受験の話や、将来のことをぼんやりと考えていた時も経営学に興味はあったが経営学とはなんなのか、経営学が社会とどう関わっているのか、自分と経営学がどう関わっていけば社会の役に立っているのかという問いに答えることは全くできなかった。経営学に興味はあったので経営学を経営学部で4年間学ぶということはきっと楽しいことなんだろうが、だからと言ってその後の自分の人生がどうなっていくのかは想像もつかなかった。いろんな大学のオープンキャンパスに参加しても、どこかしくり来ないようなそんな気がしていた。そんな自分とは裏腹に地元の友人や部活動の大会で会う他の高校の人たちはだんだんと自分の将来の方向性を見つけていっている人、まだまだ決まっていないうことと素直に向き合っている人がたくさんいた。またyoutubeやテレビを見ていて同世代の芸能人やスポーツ選手で第一線で活躍している人もたくさんいた。それに対して自分には何も無いなあ〜と思って、焦りとやるせなさを感じていた。そんなことばかり考えて勉強しなくなっていった。自分の18年間の人生の中でも最もうだつの上がない毎日だったと思う。しかしそんな毎日の中でも自分で納得できる将来を歩んでいきたいという気持ちと経営学へのわずかな興味だけは残っていた。そしてyoutubeで数えきれないほどの動画と何冊かの本を読んで今は経営学が大きな変化を遂げているということ、またそのスピードはこれまでの常識が通用しないほどに速いものであるということが分かった。最近経営学界隈の一部で言われている「資本の時代からアイデアと行動力の時代になった」とか「モノではなく体験を売る」などの考えである。これにはいくつかの根拠があると個人的には思っている。まず日本などの比較的豊かな国では「モノ」が溢れている状態になったこと。そのため他の商品との差別化を図る必要が出てきた。長期のデフレにあった日本においては差別化の方法として値下げが行われ、熾烈な値下げ競争が繰り広げられたが、それには様々な問題や限界があり、また根本的な解決にならないため商品に何らかの付加価値を付けて売るという企業も増え始め、今もなおこの傾向は続いているように思われる。またインターネットやSNSの普及も大きな影響を与えていると考えている。現在では画一的なものだけでなく大量かつ多様な情報を手に入れられるようになったり自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになったりして情報の受け手側の力が強くなった。このことによって経営の透明性の重要性は高まり、企業と消費者の関係性も企業が一方的に与えるという従来の形から一緒に作っていくという形にしていけるようになってきている。そのため企業の商品開発や経営方針はもろもろのことマーケティング方法や広告の仕方も変えていくべきだと考えている。またインターネットの普及は新規ビジネスをスタートするリスクを低減させるということにも繋がった。新規ビジネスを始めるにあたって資本金の調達やもし商品が売れなかった場合の在庫などは大きなリスクとなっていたがインターネット関連のビジネスでは在庫なしでスタートアップの費用もかつてでは考えられないほどに低くすることができる。また現在は最低資本金制度も見直され1円からの起業もできるようになったこともあり新規ビジネスを起こしやすい環境が整っている。ここまでで現在特有の経営の実情について書いてきたが、研究や学問としての経営学、経済学にも変化がある。かつての経済学においてはすべての人間は常に合理的な判断をするという仮定の基に進められていたが、やはり実際はそんなことはなく人間は感情や気分などの曖昧で不確定な要素によって非合理的な判断をしまくっている。そこでより実用的なものにしていくため厳密な論理的思考、数学



的思考や消費者心理なども考慮した考え方なども取り入れられるようになっており、実際にゲーム理論関連の研究や金融工学、経営工学などが盛り上がりを見せている。

以上の理由から経営学の考え方が新しい社会を創っていくことと非常に相性がよいと考え経営学の将来は可能性に満ち溢れているという希望を見出した。経営学には自分の好きな事、やっていて楽しい事を生かして何かを形にしていく、そしてそれを社会に還元していきけるような力があるというような気が漠然とだが確信を感じた。今このような考え方はおそらくまだ広くは浸透していないと思われるがこのような考えをもった人が増えていけばもっとも時代の流れに合ったクリエイティブな未来が創っていけるんじゃないかという気がしている。そのためにも経営学や経済学はただの知識や机上の空論で終わってはならず、他の様々な分野と融合したり、実践を通して社会に影響を与えていく必要があると考えている。個人的には情報メディア学に興味があり、この分野は自らの考えを実践するのみならずその結果を広く伝えていくことができるし、またここでは書ききれないが自分自身大きな変化が求められている分野だと考えているので大学ではこの辺りについても考えを深めていきたいと思っている。

最後に、自分がこのような考えを持つことができたのは他人に流されずに好きなことを好きという気持ちや自分の「何か違う」という感覚的な気持ちを大切に続けられたからだと思う。これからも自分の考えをしっかりと持ち続けることを大切にしていきたい。そして自分で選んだ道で出会う様々な出会いに感謝しながら今描いている将来を実現していきたいと思う。



山形大会代表 山形県立鶴岡南高等学校 二年  
山口 百合花

高校二年生の冬、私は行く日来る日を経済に捧げた。そう、経済をした!朝起きたらニュースと新聞を用いて情報収集、学校でも事前教材をめぐり、家に帰ったらまた事前教材とにらめっこ。

昔から銀行員である父の影響で経済に興味はあったが、なかなか深く学習をするきっかけを掴めないまま高校生活を終えようとしていた。それでいいの!?

エコノミクス甲子園は、経済の基礎を学ぶにはとても良いきっかけである。将来いつ使うかもわからないトレミーの定理を学ぶよりかは、実生活に根ざし、役に立つ知識を一つ得た方が、私にとっては遥かにエキサイティングだった。

地方大会まではまず事前教材(特に小冊子)を完璧にすることをお勧めする。その際大切なのは、学校の定期テストでもないのだから、どうせなら一生使える学習にすることだ。用語暗記に努めず、歴史的背景、なぜそんな用語が生まれたかをスマートフォンなどで調べること、より体系的な有意義な学習となるだろう。要は効率を求

める必要はない。個々の知識が増えていさしずつ繋がりをもちネット状になったとき、ああ経済って結構面白いじゃんという実感をもらえるだろう。

つまり私が伝えたいことは、「エコノミクス甲子園に出てみよう!」ということだ。

なんだか感想というよりは合格者体験記のようになってしまったが、これを読んで私にもできるかも...!とってもらえたら嬉しい。

山形大会代表 山形県立鶴岡南高等学校 二年  
佐藤 楽夏

全国大会に出場させて頂いて、とても充実した3日間を過ごせたと思います。1日目はエコノミクスに参加していないので本格的な活動としては2日目からになりましたが、色々な経験ができたり交流が出来たりして楽しかったです。

2日目のプレゼンテーションでは、経験があまり無かったのでとても新鮮でした。初めは午後4時までと聞いて長いなあと思っていたのですが、いざやってみると案が決まらなかったり、スライドを作るのに時間がかかったりして、意外と時間が足りませんでした。他校の生徒さんが仕切ってくれたり、案を出してくれたりして、チームワークの大切さを感じました。私はおんぶに抱っこ状態だったので、ただただメンバーに感謝したいです。その後の筆記試験では地方大会とはレベルが違い過ぎて全然解けなくて、勉強不足を痛感しました。だからこれからもっとニュースを見ていきたいです。

3日間の本番はあまり緊張しませんでした。このようなステージに立てることが嬉しかったです。問題も色々な形での出題で、やっても見てもとても面白かったです。聞いたことのないようなものも多くとても勉強になりました。準決勝、決勝と勝ち進んでいくチームの皆さんとはレベルが違い過ぎて、3日間一緒に過ごせたことがとても嬉しいです。

まさかと思っていた全国大会にまで出場出来て、とてもいい思い出になりました。ペアの人や他都道府県の方、そして計画して頂いた大学生の方に感謝したいです。ありがとうございました。



福島大会代表 福島県立福島高等学校 二年  
福原 諒

今回のエコノミクス甲子園を通して、普段の学校生活では経験できないことをたくさん経験できました。

まず一つ目として、クイズを通して「金融知力」を身につけることが出来たことです。

ニュースを見ていて、この経済のニュースはどんな内容について言っているのか分かり、家族に説明することが出来るようになりました。



た。今までは何となく見ていたニュースでも、知識を得るとより知りたいと思えてきて、昼休みに図書室で日経新聞をペアの高橋と読んだり、金融・経済に関する本を借りたりするようになりました。

二つ目は、全国の高校生と交流することが出来たことです。自分は以前まで、面識のない人と話すのが苦手な話しかたが出来ませんでした。

他の学校の人と班を作り、プレゼンテーションを行うと聞いた時からとても不安でした。

ですが、実際班を作って話し合ってみるとみんな優しく、すぐ打ち解けることが出来ました。宿舎の部屋でもすぐに打ち解けることが出来ました。今までは、自分はコミュニケーション能力が乏しいと思っていました。ですが、機会を与えられれば、一歩踏み出すチャンスがあれば、面識のない人と話すことも出来る事が分かりました。

東邦銀行の担当者の石井さんやその他金融機関のみなさん、顧問の宮武先生の手厚いサポートのおかげで全国6位という素晴らしい結果を残せたと思います。また、大学生スタッフのみなさんのおかげで大会期間中もストレスなく、大会に臨むことが出来ました。

エコノミクス甲子園全国大会中は高校生活で一番充実した2日間でした。とても楽しかったです。ありがとうございました。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 二年  
高橋 昂汰

この大会は私の人生を変えました。

大袈裟かもしれませんが、そのくらいエコノミクス甲子園は私に多くのことを学ばせてくれたのです。

今回はその中でも3つのことについて記したいと思っています。

まず第一に、「伝わらなければ意味がない」ということです。2日目のプレゼンラウンドでのことなのですが、私たちのグループは早い段階から多くのアイデアが飛び交ったこともあり、予選通過は間違いないと高を括っていました。しかし結果は予選敗退。決勝進出チームのプレゼンを見ればその理由はすぐにわかりました。確かにアイデアについてはそこまで差はないように思いましたが、彼らはしっかりと台本を練っていて、スライドも見やすく、客観的なデータも効果的に用いていたのです。スライド作り時間にあまりかけなかった私たちのプレゼンよりも「分かりやすさ」という点において圧倒的に優れていました。どんなに素晴らしい独創的なアイデアを持っていても、それが理路整然としたものでなければ相手にうまく伝わらない。そうやってまわってはアイデアそのものが無駄になる。その事を強く実感しました。

第二に、「ハングリー精神の重要性」です。3日目の本番で私たちは敗者のラウンドからなんとか勝ち上がることができ、県勢初の準決勝進出を果たしました。その過程が劇的だったこともあって、準々決勝終了後に多くの方から賞賛を受けました。そこで上手く決勝進出に向けて切り替えができればよかったのですが、あろうことか私は心のどこかで「ここまでこれたからもう十分だろ」と思ってしまったのです。その気持ちの緩みが原因で、英語のリスニングでも聞き取りに失敗。結果6位で決勝には進めませんでした。

帰宅後、リスニング問題を確認したら確かにfinancial, technologyとロビンソン社長ははっきりと発音なさっていたし、そもそもその問題を聞き取れていた決勝に進めていました。そのようなこともあり、何故あそこで気持ちを切らしてしまったのか、と後悔は尽きません。しかしこの経験のお陰で、どんなときも妥協しないよう意識する癖が付いたように思えます。

第三に「アウトプットの必要性」です。「知識はないよりはあったほうがいい。でも、あるだけでは意味がない。」

この言葉は大会の最後に、金融知力普及協会の野中ともよ理

事が仰ったものです。

今回の全国大会に向けて、私たち二人は優勝を目指して必死に金融経済の知識を蓄えてきました。しかしこの言葉を聞いて、それがあくまでも過程に過ぎないということを知った私の背筋は自然と伸びました。これから私たちに求められるのは、今回学んだ知識を活かして、日々変動する社会を自分なりのアイデアでより良くしていくことである。知識をひけらかすだけでは不十分だ。その事を思い知った私は、最近ではニュースなどを見ていてもなるべく自分なりの意見を持つように意識し始めました。今はまだ他人の考えの受け売りかもしれませんが、いずれは自分自身で建設的な考えを導き出せるよう精進していきます。

このように自分の未熟さをこの大会では何度も実感しました。しかしそれらはこのエコノミクス甲子園全国大会に出場しなければ気づけなかったことです。もし気づけないまま大人になってしまったら...本当にこの大会には感謝の気持ちしかありません。

最後に、このような素晴らしい大会を用意して下さいました。スタッフの皆さん、こちらが申し訳なく思うくらいに何度も稽古をつけて頂くなど全力でサポートしてくださった石井さんをはじめとする東邦銀行の皆さん、プレゼンと同じ班として協力しあった宮崎第一、浦和、仙台一高のみんな、6位入賞まで共に頑張ってくれたペアの福原、応援して下さいました地元の皆さん、そしてこの大会に関わった全ての方に感謝申し上げます。

無事第一志望の大学に合格したら、今度は私も学生スタッフとして、私を変えてくれたエコ甲に恩返しをしたいと思っています。この大会の更なる発展を祈っております。



茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 二年  
岡野 智大

私は今大会がエコノミクス甲子園二度目の挑戦で初めての全国大会でした。三日間を通して様々なことを学ぶことができました。

全国大会の初日は、エコノミクス大会でした。ここで私はたくさんの他校の生徒と交流を取ることができました。知らなかった日本全国の都道府県の事情についてその地元の生徒たちから様々な話を聞くことができました。

二日目ははじめに日本航空の方にご講演いただきました。価格競争の激しい航空業界のなか、今日日本航空がどのような経営理念でどのような事業を展開しているのかを知ることができました。その後、グループに別れて『JAL×はじめて』という題でマーケティングプランを考えることとなりました。打ち出したアイデアの一部が既出であるなど途中厳しい局面もありましたが、全体三位という好成績を収めることができました。その後、前夜祭に参加しました。普段お話しできない方々との会話は新鮮で刺激的でした。そんな充実した一日の最



## 全国大会感想 Final tournament report



後になんと筆記クイズが待っていました。手応えはまずまずといった感じで、長い一日は終了しました。

そして最終日。オープニングクイズ後の途中経過で上位であったため、一気に準々決勝にまで駒を進めることができました。その準々決勝、順調に正解をしていき、準決勝まであと一步というところで進んだところで勉強不足が露呈し、悔しくも敗退となりました。

思えばあつという間の三日間でしたがここで得た経験をこれからの自分の成長へ生かしていきたいと思えます。

今回参加するにあたって学校や地元の筑波銀行のたくさんの方々に協力して頂きそして応援して頂いたことをこの場を借りてお礼をさせていただきます。本当にありがとうございました。

茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 二年  
小松 祥大

昨年度は茨城県予選であつと一問が分かれれば優勝というところで準優勝という結果に終わり悔しい思いをしたが、今年度は雪辱を果たして優勝し、この全国大会に挑んだ。

2日目に課せられたプレゼンは2人では挫折していただろうが同じグループの高校に助けられ3位という好成績を取ることができた。筆記クイズは地方大会より本質的なことを問われ難しかったが感触は悪くなかった。その結果、大会当日である3日目では、2日目の成績を加味して決められる予選順位が4位と好成績で、準々決勝進出を果たすことができた。しかし、進んだ準々決勝ではあと一問正解すれば準決勝というところで勉強不足の問題が出て痛恨のミスをし、準決勝進出を逃してしまった。学校の先生や筑波銀行にいる並木のOBが見に来てくれたのでとても悔しく不甲斐なく、観客席に戻ってから人知れず悔し涙を流した。しかしその後観戦した準決勝、特に決勝で見つけられた知識量は凄まじいものがあり、負けるべくして負けたのだと悟った。彼らが行ってきたであろう自分の想像をはるかに超える努力の結晶を目の当たりにし、自分の小さな世界が広がったような気がした。

エコノミクス甲子園は多くのものを与えてくれた。金融知識はもちろん、仲間と昼休みの限られた時間で工夫して勉強した経験、そして大会を通じて様々な人と関わって気づいた世界の広さ。全国大会で優勝するという夢は叶わなかったが、かけがえのないものを得ることができた。一緒に戦ってきた相手には本当に感謝しても足りない。夢の続きは後輩に託したいと思う。



栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 二年  
伊東 丈太郎

私のエコノミクス甲子園との出会いは1年生の時でした。その時

は地方大会準優勝に終わってしまいました。そして、2年目の今回は地方大会で優勝し、全国大会に出場することができました。

前置きはこれまでにして、ここからは全国大会について時系列で記していきます。

1日目。エコノミクス大会には参加せず、オリエンテーションから参加しました。その夜は勉強などをした後、翌日以降の戦いに備えて早目に就寝しました。

2日目。日中はJALラウンドというラウンドでした。グループごとの活動でしたが、トピックは難しく、話し合いは難航しました。私は社会で活躍するために必要な力が自分自身に不足していることを痛感しました。午後になり、テーマがようやく定まり、急いでプレゼンを仕上げました。しかし、12グループ中3グループが残る決勝プレゼンには進めませんでした。それでも、長時間に及ぶ討論や他グループのプレゼンを通じて、何か大きなものを学び、経験できたように思われます。

夕方からは前夜祭という、立食形式のパーティーがありました。普段はお話する機会がない年代の方々とは有意義な話ことができました。

その後待ち受けていたのはペーパークイズ。地方大会のそれよりも格段に難しいという印象を受けました。

3日目。いよいよ全国大会も本番。しかし、早押しクイズでは躊躇して押せなかったこともあり、12校には残れませんでした。その後の敗者復活(のようなもの)でもあと1問正解すれば、という時に正解できず、敗退しました。

4校が進出した決勝は、問題のレベルの高さとルールの複雑さに驚きました。そして、改めて金融・経済というものの奥深さに感銘を受けました。このようにして濃密な3日間は幕を閉じ、私は帰路につきました。

第11回エコノミクス甲子園は、私にとって大きな糧となる大会でした。このような経験ができたことは、偏に今大会を開催して下さった関係各所のご尽力によるものであります。ありがとうございました。

栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 二年  
田島 祐也

エコノミクス甲子園で体験したこの3日間はとても刺激的で生涯忘れることのないであろうものであった。

まず高校生という多感な時期に津々浦々の同世代の人たちと交流する機会というのは滅多にないものである。しかもみな程度の差はあれど、経済や金融に興味を持っている人たちなのである。こういった人たちとの出会いはかねてから経済学部を志望している私には大きな刺激となった。更に同じ大学の同じ学部を志望する同学年の人と出会うことができ受験への大きな活力となった。このような体験をすることができるのもエコノミクス甲子園の醍醐味の一つであろう。また、経済学に関する刺激だけではなく、プレゼンテーションの技術のように社会人として欠かせない能力を勉強することができた。

近江商人の活動理念に「三方よし」というものがある。「買手よし、売り手よし、世間よし」を重視するというものだ。この言葉には経済学の真髄があると思う。経済というものとは誰か特定の1人だけが関わっているのではなく、多くの人が複雑に関係することで成り立っている。売り手、買手だけではなく、世間の老若男女が経済を取り巻く一つの主体なのだ。だからこそ、自分には関係のないものと断定して切り捨てるのではなく、経済、金融について学ばなければいけない。その学習の第一歩としてエコノミクス甲子園は素晴らしい機会となった。

最後に大会を支えて下さった全ての方々へ深く御礼申し上げます。

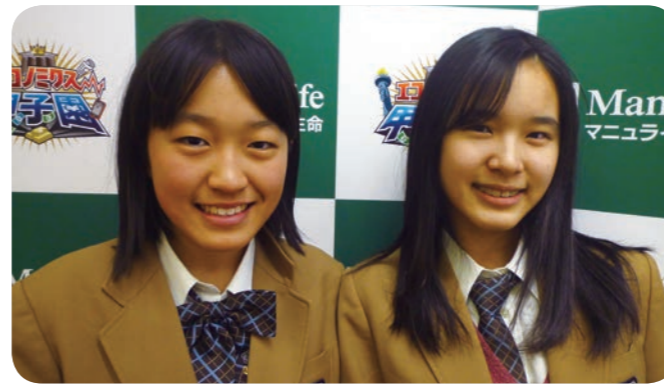


## 全国大会感想 Final tournament report



全国各地から集まった人々と過ごす機会は今まで何度かありましたが、毎回自分のことを客観的に見るきっかけになります。

3日目は地方大会と一緒に戦った友達や群馬銀行の方がわざわざ応援に来てくれてとても頼もしく、うれしかったです。「クイズ研究部でバリバリに傾向対策してきた」とか「将来は経済学部に行きたい」なんて言う人もたくさんいて、私たちは場違いのような気もしました。私が足を引っ張った場面ももちろん多かったと思いますが、全てのクイズが面白いルールだったので毎回楽しく挑むことができました。これからはもし私が開業することになったら、もちろんエコノミクス甲子園で身につけた知識や人望を活用していこうと思えます。



群馬大会代表 ぐんま国際アカデミー高等部 二年  
橋場 芽衣

群馬から東京に向かっている間、私の胸の中には背反する2つの感情が存在していた。これから先待ち受けている3日間に対しての不安と期待だった。私たちのレベルでは全国大会に通用しないのではないかと不安と、予選を勝ち抜いてきた全国の高校生に挑戦できるという期待だった。会場に着いた瞬間、全国の強豪たちの姿が見えた。自分もその中に混じって戦うのだと思うと不思議だった。翌日からの活動に備え、その日は早くベッドに入った。

2日目、4校でチームを組みJALからの課題に取り組んだ。全国の高校生と協力し、創造力を働かせてプランを考えるのはとても楽しかった。限られた時間の中、昼食の間もチームで集まってプランを練りなんとか時間内にプランを作り上げた。ベスト3に入賞することはできなかったが、高校生らしい斬新なプランだったと思う。

3日目、いよいよエコノミクス甲子園の本番だった。今まで勉強してきたことを発揮したいと望んだいた予選。私たちは丸バツクイズで間違え、準決勝に駒を進めることができなかった。最後の希望だった、敗者復活戦。そこでも正解することができず、私たちの全国大会は幕を閉じた。学校の友達や群馬銀行の方が見に来て下さったのに、結果を残すことができず申し訳なさを感じた。

しかし、全国大会に出場する過程で本当にたくさんのことを学べたと思っている。金融に関する知識が深まっただけでなく、一つのことによって一生懸命になることの面白さを感じた。

全国大会に出場できて本当に光栄だった。たくさんの人のおかげで私は本当に濃い3日間を送ることができた。エコノミクス甲子園に携わった人全員に感謝している。ありがとうございました。

群馬大会代表 ぐんま国際アカデミー高等部 二年  
和賀 莉緒菜

エコノミクス甲子園全国大会は、高校生としての大切な思い出の一つになりました。1日目宿舎に着いてすぐに行われたエコノミクス大会ではルールもよくわからず連敗していましたが、横で相方がどんどん勝つ姿を見て才能を感じました。その日はその後部屋に戻るだけだったので大分県の頼もしいルームメイトと、同じ田舎者同士、学校や日常の話をしました。初日から思っていたよりも時間や行動がキチキチ決められていることに驚きました。

2日目はほぼ一日中JALラウンドでした。グループの皆が最初は少しシャイだったようですが、時間が経つごとに活発に意見を出して楽しく発表を迎えられました。夜の前夜祭では、私たちだけ明るい茶色の制服で浮いていたと思いますが、たくさん変わった人々と話せて新鮮な話題が盛りだくさんでした。マニユライフ生命のCEOの方と直接お話しできて、英語をやっている良かったと思います。こうやって



埼玉大会代表 埼玉県立浦和高等学校 一年  
鷲澤 隼

私はエコノミクス甲子園で、普段の学校生活では決してできない様々な貴重な経験をする事ができました。1日目、期待と不安を胸に宿舎に到着しましたが、到着した時間の都合により1度もゲームの練習を行わないままエコノミクス大会に参加することになりました。初めはルールも詳しくわからず、対戦相手の方に迷惑をかけないかどうかただただ不安でした。しかし、大会中に何度も対戦するうちにだんだんとゲームのコツをつかむことができ、最後には勝つための戦略までいろいろと考えられるようになりました。初めて会う全国の高校生の方々と一緒にエコノミクスを通してたくさん交流することができ、とても楽しい1日となりました。2日目に行ったプレゼンでは、問題について話し合っ意見を出しそこから1つの案にまとめる、という発表までの一連の作業がとても難しいことなのだと身に染みてわかりました。今回のプレゼンではテーマ自体が企業のビジネスプランにまつわるもので、高校生の私たちにとってはあまり馴染みがなく大変難しかった。しかしグループで話し合いをしていると様々な意見が飛び出してきて、最後には審査員である企業の方々にも納得してもらったような良いプレゼンを行うことができました。3日目のクイズ本番では、自分の勉強不足もあり結果を残すことはできませんでしたが、いろいろなクイズを通して改めて経済の奥深さを感じる事ができました。大変なこともありましたが、多くの貴重な経験をすることができた充実した3日間でした。

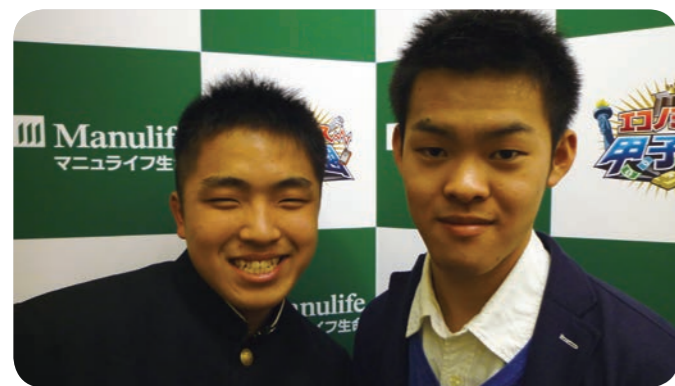
埼玉大会代表 埼玉県立浦和高等学校 一年  
土井 悠斗

僕はこのエコノミクス甲子園をクイズ研究会の部活の先輩から聞きました。そして経済は全然なじみがなかったけれど、これを機に少し知りたいと思い参加することに決めました。地方大会前に教材が届き相手と一緒に学校で放課後一緒に勉強しました。また図書館など





で本を借り勉強に励みました。中学の時に公民で習ったものから保険、金融、株などいろいろな知識が必要とされるエコノミクス甲子園の勉強は大変でしたが、新しい知識をどんどん吸収することがとても楽しかったです。地方大会は予想以上の参加人数で驚きました。本番は緊張してしまい実力が全部出せませんでした。相手と協力し合い何とか代表になる事が出来ました。全国大会の前には地方大会以上の教材が配られ大変でした。全国大会1日目は「エコノミカ」というカードゲームの大会がありました。事前に配られていたのですが、ルールが難しく他県の皆さんに助けられました。試合中にも学校の事や県の事を話したりして大変面白かったです。部屋は他県の方と相部屋で少し緊張しました。2日目は主にプレゼンでした。僕はこの日が一番楽しかったです。JALの今北さんの貴重なお話を聞いた後、複数の県の方とグループになり一緒にプレゼンを考えました。その時の他県の皆さんが積極的に意見を出したり、意見をまとめたり、1年生の僕たちを気づかせてくれる姿には大変感銘を受けました。またこの日にはご来賓の方々と一緒に夕食会もあり、学校では学ぶことのできないお話を聞く事が出来ました。3日目はクイズ大会がありました。力及ばず敗退してしまいましたが、とてもいい経験が出来たと思います。エコノミクス甲子園を開いてくださった皆様本当にありがとうございました。



千葉大会代表 千葉県立東葛飾高等学校 三年 大日方 究

僕がエコ甲に出たのは相方の岡田がエコ甲に1,2年生時と連続で出場し、最後の年なんとしても全国へ行きたいからということで、大学受験に向け政治経済を勉強している僕に声をかけてくれたことがきっかけでした。

実際、県大会は僕が受験向けにやっていたことと、岡田がエコ甲に向け対策したことがバッチリ噛み合い同じ高校のチームとの接戦を制し全国大会へ出場することが出来ました。

全国大会へ向けて受験生でありながらセンター後の期間に集中的に勉強と対策をしたことは今となってはいい思い出です。

いよいよ当日を迎え、2日目のプレゼン発表では、初めて会った他の3チーム、6人と協力し全12班のうち2位をとることが出来ました。このことは僕にとって3日間で1番良い経験となりました。

3日目のクイズでは1日目のプレゼンの得点が効いてストレートに準々決勝へ進むことが出来ました。準々決勝では誤答を重ね準決勝進出には程遠い結果となってしまいとても悔しい思いをしました。

言い訳になりますが、席について観覧した準決勝では単独正解1問を含み1番正解できていただけに本当に悔しかったです。

結果は思わしくないものとなってしまいましたが、最後に準優勝となった灘高校の北口君が「優勝は出来なかったが、僕は優勝を目指

して勉強してきた過程でエコノミクス甲子園から大切なものを沢山貰えたから満足だ」と話すのを聞き、僕も同様に勉強の過程で様々な知識や経験を手に入れることが出来たことを思い出し、僕の中では満足することが出来ました。

エコノミクス甲子園は金融力だけでなく、すばらしい経験や、ペアを組んだ仲間との思い出、大会を通して知り合える全国の高校生の友人など、本当に掛け替えのないものを手に入れることが出来ます。ぜひ参加してみてください、後悔はしないはずです。

千葉大会代表 千葉県立東葛飾高等学校 三年 岡田 真輝

3年間出場し続けたエコ甲、1年生では県大会予選敗退、2年生では県大会決勝にあがるも敗退、そしてついに三年生になって悲願の県大会優勝、全国大会出場を相方とともに果たした。しかし全国大会はセンター試験、そして私立や国立大学の入試に挟まれていくこともあり周囲の人々からとても進路を心配されるという状況下での出場となった。

一日目のオリエンテーションを終え、迎えた2日目のプレゼンクイズ。同じプレゼンチームの札幌南高校の二人から「実はプレゼンの配点はとても大きいので、なんとしても頑張らなくてはならない」と聞いて俄然、気合が入る。札幌南、弘前、甲陽、そして我々の面々は皆、初対面ながらすぐに打ち解けあい、プレゼンの題材であるビジネスプランについて活発に議論ができた。スライドの完成が終了時間ぎりぎりになってしまい、プレゼンターであった私は本番までに発表の練習が二回しかできなかったが、メンバーが作ってくれた原稿と自分の海外研修の経験を活かして、予選を三位で通過。決勝では一つ順位を上げ、2位という好成績をおさめることができた。とてもうれしかったし、自分の自信にもつながった。ただ、事前にプレゼンクイズの配点を知らせてほしかったなという思いはあった。

2日目の夜に筆記を終え、翌日。遂にいつもの「エコ甲」が始まった。やはり、プレゼンのアドバンテージが大きく、予選通過10位で準々決勝を迎えることができたが、振るわず敗退。とても悔しかった。自分の実力、努力の不足を呪った。大学受験、そしてエコ甲を経験して、やはり思うことは「努力の大切さ」である。

これからも「努力」を積み重ね、受験に向かい、そして大学生になったら、今度はスタッフの立場からエコ甲を支えたいと思った。かけがえのない体験をさせてくれた運営のみなさん、受験期なものにもかかわらず出場を許してくれた両親と先生方、そして全国の舞台上に上がらせてくれた相方の大日方に感謝をして、この感想の結びとさせていただきます。



東京大会代表 お茶の水女子大学附属高等学校 一年 綾田 早希

エコノミクス甲子園に参加した三日間の中で、最も印象に残っているのは意外にも2日目のプレゼンテーションクイズだ。プレゼンに関する資料は事前に配られていた上、直前にJALの今北さんが現状を詳しく教えてくださったので皆ある程度の知識は持っていた。

「ここからは、普段どれだけプレゼンを作っているかだ。普段から学校でプレゼンをよく作る私はきっと有利だろう」

そう思った。が、それは買いかぶりであったことをすぐに知る。4チーム1グループの個室に分かれ、プレゼンの内容について話し合い始めたときにそれを思い知らされた。

「格が違う。知識量が違う。そしてなにより、多方面から物事を見る力の差が歴然だ。」

同じグループの同年代の人達は、私と同じ話を聞きながら、こんなことを考えていたのかと驚いた。そして、自分のことを過大評価していた自分を恥じた。普段から学校で「あなたたちには論理的思考力が足りない」と言われてもピンと来なかったが、その意味がやっとわかった。これからは自分も論理的思考力、課題を発見し解決していく力を身に付けていく必要があるのだと心に強く刻み込んだ。

そんな出来事もありつつ、私たちのグループはプレゼンテーションクイズで見事に1位を獲得できた。そのおかげか、私たち東京大会代表は7位に入賞することもできた。入賞も素晴らしいことであるが、今回の大会ではそれ以上に価値のあるものを得た。

スタッフの皆さん、先生、銀行の方々、そしてスポンサーの皆様、貴重な体験をありがとうございました。

東京大会代表 お茶の水女子大学附属高等学校 一年 外和田 百花

本当に充実した三日間でした。相方に誘われてなんとなく参加した今大会でしたが、今は参加してよかったと心から思っています。

地方大会終了後、渡された資料を見て逃げ出したくなったのを覚えています。経済に全く興味がなく、遠出できる!というモチベーションも皆無だったからです。恥だけはかかれないよう学習を済ませ、大会の日を迎えました。

そんな心持で臨んだ今大会でしたが、プログラムが充実していてあっという間に時間が過ぎてしまいました。エコノミカ大会や前夜祭は、大会であることを忘れるほど楽しかったです。しかしその分突然の筆記テストは大爆死。思うように解答できず、半ば諦め気味でした。そして大会当日の三日目。会場の雰囲気は圧倒されながらも、運にも仲間助けられ、七位入賞という結果を残すことができました。

私は今大会で、多くの出会いを経験しました。普段は出会えないような方々とお話ができて、自分がどんな大人になりたいのかを考える

きっかけになりました。また同世代の仲間との出会いもあり、知識のみならず、統率力や思考力、協調性など、自分の未熟さを痛感させられました。あと一、二年で自分はこんな高校生になれるのだろうか。今は到底そうは思えません。感じた衝撃を動力にして、仲間の影を追いかけながら努力していきたいです。

最後に金融知力普及協会の皆様、並びにこのような素晴らしい機会を与えてくださった全関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。そして参加者の皆様。素敵な時間と経験と感動を、ありがとうございました。



神奈川大会代表 聖光学院高等学校 二年 新保 裕太郎

エコノミクス甲子園には二つの顔があると思う。「クイズ大会」としての面と、「全国の高校生の交流の場」という面である。この二つの視座に立って、私が大会を通して考えたことを記していきたい。エコノミクス甲子園という「クイズ大会」から私は二つのことを学んだ。私たちのチームはクイズ研究会では無いため、初めて「クイズ大会」に参加して得たものは大きいといえるだろう。まず、「勝負は運」であるということだ。クイズ素人の私たちがまさかの全国5位までいけたのは運という要素が大きかったといえるだろう。準決勝であと一步で敗退してしまった点も含めて、勝負は「運」に左右されることを痛感した。次に、「運も実力」であるということだ。今回は「運」と「実力」の関係性についても多くのことを学んだ。クイズ大会では多くの出場者の中から勝ち上がらなければいけないため、「チャンスを結果に繋げる」ことが必要で、そのためには事前準備が不可欠であるということが分かった。クイズ大会を通して「運も実力」というのは「運も結果に繋げる実力をもってこそその幸運」という意味だと確信した。やはり、幸運の女神には前髪しかないのだ。そして、高3への進級を控えたこのタイミングで努力の重要性を改めて実感したのも、受験に向けて大きな収穫だ。

エコノミクス甲子園という「交流の場」から私が得たのは「人との縁」である。性格が社交的ではない私は、今回多くの人と接する中で、素晴らしい経験ができた。

まずは、この場を借りて今回本当に世話になった予選Hチームの灘・お茶の水大附属・羽水の3校のメンバーとの縁に感謝を述べたい。全国5位という成績を手に入れることができたのは、自分たち自身の準備に勝るとも劣らず、彼らと同チームを引いたという要素が大きいためである。JALプレゼンで優勝できたからこそ予選をスムーズに通過できたのは事実だし、みんなと声を掛け合って全員で準決勝まで進むことができたのは嬉しかった。改めて、本当に良いメンバーに恵まれて刺激的な経験ができた。また、数年来の友人の高木君と共に準備や本番で汗を流せたのもいい思い出だ。そして「人との縁」



## 全国大会感想 Final tournament report

の重要性が実感できたのは私の財産である。ただ、夜に筆記テストが控えているにも関わらず、前夜祭で今後の質問をした私に「今日はもう予定はないよ」と嘘をついた学生スタッフなどの運営陣には困惑した部分もある。いままでの大会の資料からしてこの手の「イタズラ」はやってきたようだが、今後の大会の成功を祈念しているからこそ、「ドッキリ」などという不要で幼稚な嘘は慎むべきであると感じる。そして、この文章を読んでいるかもしれない次回大会以降の参加者のみなさんは、こういう「フェイク」が毎年のようにあることを留意すべきである。おっと、こういうのは嘘ではないのだった。最近「オルタナティブファクト」「ポストトゥルース」というのを失念していた。エコ甲運営の豪快さには海の向こうの大統領もビックリだ。

最後に、運営陣や横浜銀行の小泉さんなどのすべての大会関係者の皆さん、Hチームの3校や同部屋の広島代表をはじめとする各代表、大会を紹介してくれた学校の先生、家で支えてくれる家族、そして何より誘ったら快諾して参加してくれた友人の高木君に感謝の念を表して私の提出作文とさせていただきます。

神奈川大会代表 聖光学院高等学校 二年  
高木 祐輔

思えばもう半年近く前。学校の社会の先生に授業でこの大会のことを紹介され、相方の新保君と一緒に出不いかと誘われて出場することにしました。どうせ勝てないだろうと思っていた地方大会でしたが、何かの間違いかというほどの奇跡が起きて優勝してしまい、全国大会でもまた奇跡の連続で5位になることができました。十分決勝進出のチャンスがあっただけにとても悔しくはありますが、それでも大健闘だったと満足しています。この総合5位という成績ももちろん嬉しいですが、出ていなければ絶対に出会うことのなかったであろう人たちと出会えたこと、特に2日目の予選のプレゼンラウンドで同じチームになった灘、お茶の水、羽水のみんなや相部屋になった広島の二人と仲良くなり楽しい時間を過ごせたのが、僕にとって一番の思い出です。

プレゼンやディベートはまったくやったことがなかったので、始まる前はとても憂鬱でしたが、それは杞憂で、8時間はとても楽しくあっという間でした。チームの仲が良かったことが何よりの勝因だと思っています。この大会中、場所を移動するときやクイズとクイズの合間の待ち時間などの空き時間にみんなとしゃべっていたのが一番楽しかったし、僕にとっては総合5位よりもプレゼンラウンド優勝のほうが嬉しかったです。

広島の人には、夜遅くまで勉強していたり、たくさん迷惑をかけてしまいました。でも、他愛のない話からクイズ研究会の話など、たくさん話せてとても楽しかったです。

最後に、僕が素晴らしい経験ができたのはこの大会を通じて関わった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。



新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 二年  
加嶋 颯太

エコノミクス甲子園への参加は、今年で二回目となりました。去年は、地方大会の予選で敗退してしまいましたが、今年は全国大会に出ることができたので、入賞に向けて頑張りました。

JALラウンドのプレゼンテーションでは、同じグループのメンバーと意見を交わしてビジネスプランについて考えることができました。活発に意見交換がされて、最終的に一つの案にまとまった時には達成感を感じました。残念ながら決勝には進むことができませんでしたが、決勝グループのプレゼンの発想の高度さに驚かされました。日頃ニュースで目にしそうなリアルで緻密な案が次々と発表されて、レベルの高さを感じました。

3日目の全国大会では、問題の難しさが予想以上で、早押しクイズではボタンを押すことさえできませんでした。その結果、予選勝ち残りチームには入れませんでしたが、2Rの敗者復活戦で2問連続正解でき、なんとか準々決勝に進むことができました。準々決勝では、1問目からさっそく誤答して、いきなり最下位になってしまいましたが、その後運良く勝ち残ることができました。準決勝では戦略が功を奏し、3位通過することができました。こうして順調に決勝に進むことができましたが、そこまで甘くありませんでした。決勝では問題にほとんど正解できず4位になってしまいました。残念でしたが、決勝まで進めるとは思ってもみなかった4位という結果はとても嬉しいものでした。

全国大会を通して、各県の経済を学んでいる高校生と会うことができ、貴重な体験になりました。当日参加した高校生や運営してくださったスタッフや銀行員の皆さん、ありがとうございました。

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 二年  
森田 大智

1日目のエコノミクス甲子園に向けて東京への新幹線移動の時ですえ経済の勉強をしました。消灯時間になるまで部屋でも勉強をしました。2日目になり、6時間ほどかけてプレゼンをするという課題が出されました。ちゃんとしたプレゼンというものを今までしたことがなく、どうなることかと心配しましたが、仲間となった人たちとディスカッションをしていく中で、色々アイデアを出し、なんとかギリギリで完成させることができました。結果は優れませんが、高校生のうちにこういう体験ができたことは有益なことだと思います。その後は前夜祭がありました。ご来賓の方々の貴重なお話を聞くことができ良かったですし、山口県の物産も手に入れることができとても満足でした。その後、予想通り筆記クイズがありました。筆記クイズで自分の知識の穴が分かり、3日目の本大会までの弱点の克服につながりました。2日目の夜も消灯時間まで勉強をし、3日目の大会で万全を尽くせるようにしました。3日目の大会では、プレゼンの結果が優れな



## 全国大会感想 Final tournament report

かったことが原因で下位グループから始まりました。なんとか準決勝に進出できることになり、ホッとしました。私が3日目の大会で1番楽しかったのは、準決勝のエコノミカを使ったゲームでした。金の価値が上がりやすいのではないかと予想し、それが見事に的中した時はとてもうれしかったです。そのおかげでゲームがうまくいき、決勝進出することができました。決勝では結果がひどいものでしたが、表彰の時にとってもいいことがあって幸せでした。全国大会に向けて金融の勉強をして感じたことは、経済および金融は面白いということです。「金融」や「経済」というものは堅苦しい感じがしますが、勉強してみると、ニュースの内容がスッと頭に入ってきたりしてニュースが面白くなりました。また、経済の基本的な原理は日本史や世界史にも役立つ、他の分野での理解も深めることができました。また、全国大会で、将来国際舞台で活躍するであろう、全国の優秀な方々と交流することができてとてもよかったです。



富山大会代表 富山県立富山高等学校 二年  
脇田 直樹

出発の日、2016年2月3日金曜日、朝登校すると相棒の平本君がなんと体調不良で欠席していました。しかしその日の夕方、彼は体調を万全に整えて富山駅に時間通り来てくれました。こうして慌ただしく僕たちのエコノミクス甲子園全国大会は始まりました。

翌4日朝、いったい何の味なのかわからない黄色のゼリーを朝食に食べたのちJALラウンドに挑みました。茨城、富山、奈良、沖縄と普段ほとんど関わりのない地域の方と同じチームになりました。ブレンストーミングをするために付箋をわざわざ準備してきた奈良県代表の方を見て開始早々全国大会メンバーのレベルの高さを実感しました。プレゼンが煮詰まってくると同時にチームメイト8人は打ち解け、いつの間にか椅子に座らず自由に立って話し合っていました。今までエコ甲に関して消極的だった相棒の平本君が自分からプレゼン資料作成役を買って出てくれたことも嬉しかったです。我々富山高校は埋もれてしまうかもしれない、と最初は心配していましたが発表が終わったころには達成感で心は埋め尽くされていました。前夜祭は人生初の立食パーティーということもあって前から楽しみにしていました。航空会社や銀行、証券会社などで働いている方が沢山来ておられましたから、自分の興味のある業界の人とお話させてもらいました。専門的な話を沢山聞くことが出来、刺激になりました。そしていきなり訪れた筆記クイズ。しかし天が我々に味方してくれたのか、記述問題のうち一問は朝読んだ某紙朝刊の解説欄そのまま。普段からメディアに敏感になっておくことが大事だと実感しました。

迎えた本戦の朝、同室だった徳島県代表の方と共にシーツたたみと格闘し無事に返却してから会場に向かいました。JALラウンドの

順位がよかったことや筆記クイズで運に恵まれたこともあり、8位で後半のラウンドに進むことが出来ました。しかし運で進めたのはそこまででそのあとは自分たち勉強不足がそのまま誤答につながりベスト8には進出出来ませんでした。

大会結果は決して良いと言えるものではありませんでしたが、JALラウンドや前夜祭、宿舎で様々な人と交流を持てたことは普段学校では味わえない大きな刺激になりました。また、ニュースや時事にも敏感になりました。地方大会から経験した全てのことは確実に人生の糧になっていると思います。そして大会に関わって下さった全ての方、ありがとうございました。

富山大会代表 富山県立富山高等学校 一年  
平本 舜

先輩に誘われて参加したエコノミクス甲子園。最初はどんな大会なのかよく分かっていませんでした。

そんな最中に届いた山のような資料や教材。はっきり言ってとても驚きました。エコノミクス甲子園は、金融、経済、保険などのお金に関する事、すなわち金融知力が問われる大会です。金融や経済の分野には多少の自信がありましたが、保険の分野は知らないことばかりで、ほぼゼロからのスタートでした。先輩と一緒に雑談を交えながら勉強した時間はとても楽しく充実したものでした。その成果が実を結んだからか、県大会では優勝することができ、僕たちは全国大会への切符を手に入れました。

追加で届いた資料や教材でさらに勉強を重ねて挑んだ全国大会。ここでは、上には上がいるということ強く感じました。僕たちの知らない事を知っている人、僕たちには思いつかないような考えを思いつく人、たくさん的高校生との出会いはとても刺激的でした。特に印象に残っているのは、やはり「JAL×はじめて」のプレゼンです。初めて会う人とたったの5時間で考えを出し合い、プレゼンを完成させることには本当に苦労しました。ですが、完成した時に分かち合った喜びや達成感は何事にも代えられない大切なものになりました。

エコノミクス甲子園で学んだことは、一生の財産になると思っています。今回の経験を無駄にせず、将来、少しでも社会に役に立てるような賢い大人になりたいです。



石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 二年  
直江 綾太郎

僕達は昨年のリベンジを果たすために、この全国の舞台に帰ってきました。昨年も全国大会に出場したものの結果はもちろん満足のいくものではなく、何より自分が積極的な行動をすることができなかつ





たことを悔やんでいます。全国大会に出場ただけで充分だと思っていた自分がいました。

しかし地方大会が始まる前はかなり早い段階で相方が全国大会を見据えた勉強を始めたのを見て、自分ももっと頑張る必要があると強く感じました。思えば去年は相方におんぶに抱っこ状態で、自分はほとんど役に立つことが出来ませんでした。このペア内格差を覆してやろうという気持ちが昨年とは大きく変わった結果をもたらしてくれたと思います。結局全国大会の最後の方は頼ってばかりだったのがほんとに悔しいです。しかし相方には本当に感謝しています。

そして全国大会では他の学校の優秀な方々と交流ができて充実した時間を過ごすことができました。例えば自分にはないアイデアを思いつく発想力、それを聞いている人にうまく伝えるプレゼン力。自分はまだまだだと改めて実感しました。このような経験はこれからの人生のモチベーションになります。

地方大会は最後の10問目でギリギリ逆転し、全国大会で準々決勝へのシード権は上位12位中12位、決勝進出は4位とほとんどが危ない戦いでした。勢いが自分たちに味方してくれました。このような素晴らしい大会に参加し、優勝までさせてもらった自分は本当に幸せ者だと思います。間違いなく、この大会は僕の人生の中の大きな転換点です。大会に関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 二年

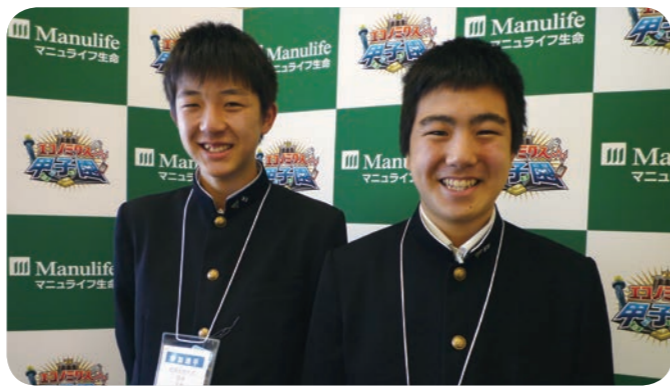
小菊 聡一郎

去年、相方の直江とペアを組み、全国大会出場をしたが、途中のステージで敗退。準決勝、決勝と戦う姿を客席で見て、悔しさを味わった。閉会式で野中さんがおっしゃっていた、「なんで運要素のあるクイズで自分たちが負けなきゃなんないのって思っている人もいると思うけど、実力をつけてない人に運は巡ってこないの」という言葉を聞いて、はっとさせられた。

それから一年、ベストを尽くせたかと言われたら自信をもっては言えないが、ニュースもチェックして、学校で行う新聞のテストをきちんと取り組んで、経済に関する本を買って勉強した。そうして臨んだ地方大会の決勝の最後の一問、自分たちが一年間（しかも最近一か月）の間に勉強した内容が出て逆転優勝。野中さんの言葉を信じて頑張ってきたよかったと実感した。それから全国大会の日まで、さらに細かい話を調べていった。全国大会では、プレゼンでは上位に入れなかったものの（グループの人たち、力になれなくてごめんさい）、筆記で得点を稼いで12位までに入ることができた。なんとか勝ち残って迎えた決勝では、灘・札幌南の膨大な知識量の前に劣勢になりながらも、相手の動きを先読みすることでなんとか知識不足を補った。普段の自分はゲームの駆け引きがとても下手だが、あの決勝だけは覚醒して打つ手打つ手が有効になった。これもやっぱり努力が運を呼び込んだのだと感じた。優勝した後で直江や灘の子に「NYやな」と言われてやっとNY行きに気づくくらい優勝そのものの嬉しさが圧倒的だった。

今回のNYは二年かけて手に入れたものなので、出来る限り多くのことを学んで、将来の自分、そして何より日本に還元できるようにしたいし、しなければいけないと思っている。

最後に、共に戦った47チーム、疑った問題を作って大会を盛り上げてくださった大学生スタッフの方々、金融知力普及協会をはじめとする主催者・スポンサーの皆様、本当にありがとうございました。



福井大会代表 福井県立羽水高等学校 一年

高塚 幸治

地方大会で勝つことができ、全国への切符を手にした翌日から少しずつ勉強して全国大会を迎えました。初日のJALラウンドでは名だたる高校と同じチームで、最初は話し合いについていくのが大変でしたが、地方視点の意見を言ったり地方の高校ならではの発表ができました。チームの皆さんには驚かせられることばかりでしたが、多くの刺激をいただき、ひとまわりもふたまわりも大きくなった気がします。チームだった灘、お茶の水、聖光学院の皆さんには感謝してもしきれませんが、前夜祭が終わった流れからの筆記はとても驚きました。あまり手応えがなかったので不安でしたが、予選を5位で通過でき自信を持つことができました。4択クイズやエコノミカのクイズもとても楽しむことができました。ですがまだまだ勉強不足だと感じましたし、もっと舞台慣れしなければならぬとも思いました。結果はギリギリ入賞できる8位でしたが、過去の我が県の代表の中で最高レベルまで達することができたので十分です。いつか福井大会代表の中から優勝チームが出て来ることを楽しみにしています。

今回の機会を得た金融知力は一生僕の中で生き続けます。これからはそれらをアップデートしていき、地元や国に貢献していくことができるような人間になれるよう努力していきます。

最後になりますがプレゼンで同じチームだった、灘・お茶の水・聖光学院の皆さんや、相部屋だった佐賀の致遠館高校の皆さん、そして地方・全国大会でともに競い合った皆さん。ありがとうございました。

福井大会代表 福井県立羽水高等学校 一年

田中 勇稀

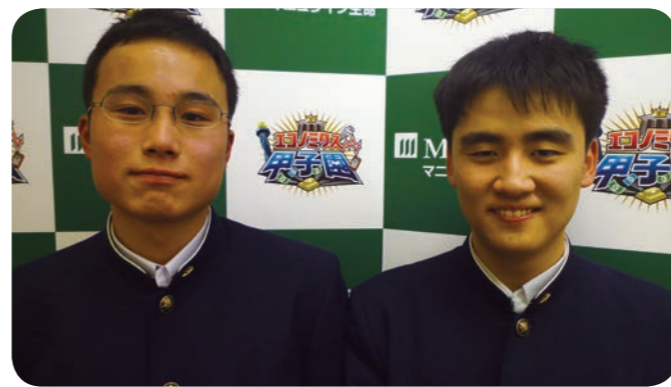
今回エコノミクス甲子園に出場し、いまでも経済や金融に興味がありましたが、より一層興味が増しもっと深く学んでみたいと思うようになりました。行動中などに銀行員の方々からお話を聞く機会があり、大会期間中はとても充実した時間になりました。また機会があれば出場したいと思います。

また、全国のいろんな地方から来た人たちとの交流の機会もあり、たくさんのお話を聞くことができとても楽しかったです。このような経験はしたことがなかったのでとても良い機会になりました。

このエコノミクス甲子園で学んだことをこれから先の学習、もっと先の人生に生かしていきたいです。

最後にこのエコノミクス甲子園を通して自分は大きく成長できたと思います。このような充実した貴重な場を設けてくださり、本当にありがとうございました。今回はスタッフの方々にも助けていただいたので、次は自分がスタッフになり、後輩のお手伝いをしたいです。

エコノミクス甲子園、とても楽しくて充実していました。



山梨大会代表 北杜市立甲陵高等学校 二年

林 陽平

エコノミクス甲子園に山梨代表として参加させて頂いた林陽平です。山梨県は代表が選出されるようになってからずっと他校がその座を占めており、今回初めて私の高校から全国大会に行くこととなりました。そのため、全国大会はどのようなレベルでどんな問題が出るのかなどのノウハウが全くなく、不安要素がかなり残ったまま出場ということになってしまいました。そうした状況の中で行われた2日目の筆記試験及び3日目のホールでの大会は予想を上回る難易度で、相方も私もわからない問題が多くこれが全国のレベルなのかと痛感しました。その中でせっかく全国大会に出たのにと悔しく感じ自分の努力の不十分さが情けなく思いました。

そのような悔しい経験もありましたが、2日目のJALのプレゼン、そして夜の交流会を通して他県代表者、金融業などの第一線で働かれる企業の方々と交流し直接お話を聞いたことは経済の世界に身を置きたいと考えている私にとってとても貴重な体験であったと思います。残念ながら来年の大会には受験生であるため出場はできませんが、できることならもう一度体験してみたいです。

前述した通り来年の出場は難しいですが、来年の全国大会も私の高校から出ることができるよう今回得た経験を後輩にしっかりと伝えたいと思っています。

最後になりますが、今回このような貴重な経験をさせてくださったエコノミクス甲子園の運営の皆さん、スポンサーの方そして東京まで同行して下さった山梨中央銀行の鈴木さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

山梨大会代表 北杜市立甲陵高等学校 二年

小澤 公弥

エコノミクス甲子園には昨年、参加したいと考えていましたが昨年は日程が合わず参加することができませんでした。今年は、部活も忙しく当初は参加を見送る予定でしたが、林君の相方が家庭の事情で参加できないということで、代理で出るということになりました。林君とその相方はいつも政治について議論していたので、自分が代わりに大丈夫かという思いもありましたが、林君をサポートすること第一として参加することに決めました。

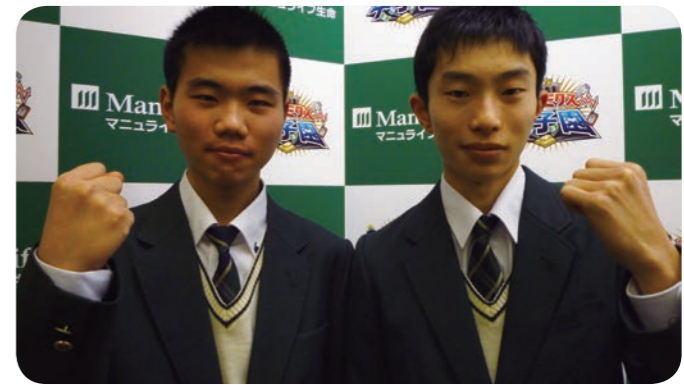
予選は二人一組で解答する問題だったので良かったのですが、全国大会の序盤は個人の力が試されるもので、苦戦を強いられました。それでも、何とか運も味方してくれて、準々決勝までは残ることができました。そこでは、自分達のチームだけが解答を間違えたりと散々な結果となりましたが、ここまで来ることができたので、林君にはとても感謝しています。

また、同郷出身ということで松本深志のお二人とプレゼンで一緒

の班だった大阪星光のお二人には仲良くさせていただきありがとうございました。

私達は今回甲陵高校の代表として、初めて全国大会に出場しましたが、これを機に後輩達にも積極的にエコノミクス甲子園に参加してもらえよう、特に同じ部員の人たちには部活動の一つの取り組みとして薦めていきたいと思います。

最後になりましたが、今回運営してくださったスタッフの皆さん、山梨中央銀行の皆さん本当にありがとうございました。また、甲陵高校の代表が今後エコノミクス甲子園で活躍することを願っています。



長野大会代表 長野県松本深志高等学校 二年

青柳 智也

エコノミクス甲子園全国大会は私にとってとても貴重な経験でした。

1日目、エコノミカ大会に出場するために午前だけ授業に出てから東京へ出発。会場に着くと全国の高校生も集まり始めており、始めて全国大会の実感がわきました。お互いまだ緊張している中でも、楽しくエコノミカができました。

2日目、この日はプレゼンがあると去年出場した先輩から聞いていましたが、パソコン一台だけで自分たちでやらなければならないというのは驚きました。それに、グループのメンバーは、この日初対面の人ばかり。時間だけが過ぎて行ってしまうのではないかと不安もありました。テーマは、「JAL×はじめて」私たちのグループでは、始めからお互いに意見をぶつけ合い、とても良い思いつきもあり、一つのプランにたどり着いたのですが…なんと、そのプランはもうJALにあったのです。時間がなくなりとても焦りましたが、なんとかプレゼンができました。前夜祭では、様々な県の方々話し、友達も出来ました。その後の、抜き打ちペーパーテストは精神的にきつかったです。

3日目、オープニングクイズは一問だけでしたが、知識不足で解答できずスルーとなってしまったのは、押し負けるよりも悔しかったです。その後も互いにふるわず、何回もあった準決勝へのチャンスを逃してしまいました。地方大会とのレベルの差に圧倒されているうちに終わってしまいました。

このエコノミクス甲子園がなければ、高校生でこんなに経済について考えることはなかっただと思います。経済は複雑で、それが理解できたときの爽快は今まで味わったことのないものでした。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 二年

齋藤 巨佑

全国大会に出場できたことは喜ばしいことであり、不安なことでもありました。今まで経済についてがっつり勉強してきたこととはほ





## 全国大会感想 Final tournament report



とんど無く、地方大会の後にもらった資料を見ても分からないことだらけで、日々資料を読みながら頭を抱えていました。とはいえ、エコノミクス甲子園に参加しなければそれこそこの先ずっと勉強しなかったかもしれないことを勉強できたということはとても意義のあることだと思います。考えることに時間を費やせる今だからこそやるべきことだと感じました。

さて、実際の大会がどうだったかという、あまり満足できる結果ではありませんでした。昨年の先輩方がよい成績を残しているということもあり、先輩方に結果を知られたらきっとがっかりされるだろうなあと考えています。しかし、事前の勉強量からして先輩より少ないのに去年と同じくらいの成績を残すのは無理なことです。こんな風に思うのであれば、もっと勉強するべきだった、なんて終わってから後悔しました。相方にも迷惑をかけてしまったことも悔やまれてなりません。

ずいぶんマイナス思考になってしまったので、各日の感想を書こうと思います。まず一日目のエコノミカ大会。他のチームの方との交流の場となったので参加して本当によかったです。二日目のプレゼンでは、他チームに積極的に話を進めてくれる方がいて、このようなことに慣れていない僕にとって大変ありがたいことでした。また、前夜祭では、ここで運を使い果たしたのだろうと思っています。続くペーパーテストでは地方大会のものとのレベルの違いに驚きました。地方大会ではペーパーはそれなりの得点だったのですが、全国大会では全く点数を取れている気がしません。そして三日目は、決勝に進んだチームの知識の多さがすごいと思いました。子どもっぽい感想ですが、実際にそう思いました。

ありきたりでつまらない文の羅列になってしまいました。もう少し文章をうまくまとめる力がほしいものです。多くの素晴らしい感想文中で、ここだけ駄文のような気がします。

このような機会が無ければ、全国大会に行けてうれいと思うことも、全国のレベルを知ること、他校の方と交流することはありませんでした。エコノミクス甲子園を開催して下さったすべての皆様、本当にありがとうございました。



岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 二年  
坂 駿之介

エコノミクス甲子園に参加して、経済についてより深く知ることができたのはいうまでもありません。

僕はこの大会に参加するのは2回目、去年は準決勝まで行きました。

しかし、勉強不足というのもあり、自分の力不足を感じたのを覚えています。

そのため、今年こそはと準備をして臨みました。

実際分かる問題というのは増えたように感じました。しかし、早めに

脱落してしまい、解答権がある問題が少なく、力を発揮することができなかったように思います。もっとボタンを押したりボードで答えたりしたかったというのが正直なところです。

結果は全然良くはありませんでしたが、それでも身につけた知識等は糧になったことと思います。

また、今回はエコノミカ大会などもあり、楽しんで参加することができました。

去年は一年というのもあり、緊張してばかりであまり交流できなかったのですが、今年は多くの人と、親睦を深めることができたのではないかと思います。全国の皆さんと触れ合える貴重な機会を味わうことができました。

エコノミクス甲子園を通して、理系の自分に経済に触れさせていただき光栄に思います。

必要になるがあまり学ぶ機会のない分野にこれ程深く関わることができ、嬉しく思います。

ありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 二年  
三林 彪気

私がエコノミクス甲子園に参加したのは今回で二回目になります。そもそものきっかけは、私が所属しているクイズ研究部の活動の一環として参加するというだけであって去年はあまり勉強することもなく地方大会で敗退してしまいました。その時に「もっと勉強しておけばよかった。」とひどく後悔したのを覚えています。なので、今年勉強した成果もあり全国大会への出場が決まった時はとてもうれしかったのです。

全国大会一日目には、エコノミカ大会がありました。先輩方の残してくれたカードを使い組み立てた自分のデッキで全国の猛者達とカードバトルするのはとても楽しかったです。二日目はJALのプレゼンテーションがありました。普段このような活動することはあまりなく、社会に出てからのいい経験になると思います。そして前夜祭の後、もうお開きかと思っただけ集められ、まさかの筆記クイズ。ただの知識問題だけではなく、それらを応用した記述式の問題など本当の理解力を問われるような問題が多かったのが印象に残っています。三日目の本戦では、筆記・プレゼンテーション大会に続き、趣向を凝らした問題・ルール設定で難しいながらもとても面白かったです。

また、大会全体を通して、宿舎やプレゼンテーション企画、前夜祭など様々な人たちとかわる機会があり交流を深める事が出来ました。エコノミクス甲子園という場で様々な高校生と関わったというのは今後の私にとって大変有意義な時間になったと思います。

最後に大会を運営していただいた関係者・大学生の皆様、大会全体を通して僕達の面倒を見ていただいた十六銀行の皆様、貴重な三日間をありがとうございました。



## 全国大会感想 Final tournament report



静岡大会代表 知徳高等学校 二年  
森田 健斗

私が今回出場しようと思ったのは、まわりから「お前なら全国にいけるんじゃない?」と言われたのがきっかけでした。そして大方の予想通り静岡大会を勝ち抜いて全国大会に出場することになりました。

一日目は移動が主でした。学校が午前中に終わる日だったのでそのまま駅に向かい出発しました。新幹線と在来線で約一時間半の移動でした。かなり早く到着してしまい、受付は二番目でした。しばらくしてエコノミカ大会が始まり、交流を深めました。始まる前はそんなに盛り上がりただろう...と思っていたのですが全くそんなことはなく、全員本気でかなりの盛り上がりでした。そして何だかんだで夜も更け一日目が終わったのでした。

二日目は朝からJALの方の講演を聞きプレゼン作成に入りました。プレゼンのテーマは「JAL×はじめて」。はじめて会う人と、もちろんはじめてこのテーマについて考える...

どうなることか...この考えはすぐに吹き飛ばされました。香川代表を中心に多く出てきたアイデアをまとめた結果、「JALで空コン」ということに決まり、スライドもまとまり仰せつかった役割は「質問対応」でした。結果は予選落ちでした。決勝プレゼンに進出したグループのプレゼンはさすがと思わせる見事なプレゼンでした。その後、前夜祭が行われました。その中で行われたビンゴ大会は各地の名産品が当たるということでかなりの盛り上がりを見せていて、私も大変楽しめました。ですが私は揃う気配さえありませんでした。そのあと事件は起きたのでした。

「ハッピーバースデートゥーユー」その直後スクリーンに映し出された文字は忘れません。「筆記クイズ」...ということで夜9時近くになってから筆記クイズが始まりました。

終わった頃にはクタクタで入浴後すぐに寝落ちてしまい二日目が終わったのでした。三日目は朝からぐちゃぐちゃしていて何がなんだかわからないまま本番になりました。私たちは敗者復活できずに、ずっと観戦していましたが、さすがと思わせる知識量と頭の回転の速さでした。そして優勝したチームも運と実力を兼ね備えたニューヨークにふさわしいチームでした。

最後に今回運営に携わって下さった協会、大学生スタッフ、スポンサー、金融機関の皆様にお礼を申し上げますと共に私もいずれは何らかの形で携わることが出来たらとの思いを新たにしました。本当にありがとうございました。

静岡大会代表 知徳高等学校 二年  
杉山 峻平

僕は相方に「一緒に出ないか」と誘われたのがきっかけでこのエコノミクス甲子園に出場しました。もともとあまり経済学に興味があ

ったので地方大会で負けると思っていたけれど、相方の活躍により大方の予想を裏切って優勝してしまいました。全国大会に出場が決まってから、静岡の代表として恥じないようにと少しずつ勉強しました。

だけれど、全国はそんな甘い所ではありませんでした。1日目のプレゼンでは、テーマの「JAL×はじめて」JALを利用したことのない人にJALを選ばせるビジネスマーケティングプランを考えろ」では、みんなが意見を出し合って議論をしていたけれど、自分ではよく理解できないという所もありました。やっぱり地方大会と全国大会ではレベルが格段に高くなっているとはだに感じました。決勝プレゼンには行けなかったけれど、あのチームでプレゼンができてよかったです。

僕はこのような大会に出場するのははじめてで、しかも全国なんて思ってもいませんでした。でも今は、この大会に出られてとても良かったです。自分より高いレベルの人と議論をし、クイズで対決して見て刺激を受けました。

刺激を受けられただけでもこの大会に出場できて良かったです。この大会に参加できたのも、誘ってくれた相方、お世話になった先生、そして運営スタッフの方々や大学生のみなさんの力がなければ出場出来ませんでした。本当にありがとうございました。



愛知大会代表 滝高等学校 二年  
野田 雅寛

全国大会が終わってまず感じたことは「もっと勉強すればよかった」という後悔と「ここまで頑張ってきてくれた相方に申し訳ない」という後ろめたさでした。

思い返せば、地方大会が終わったときも勉強不足だったなと感じていました。昨年の地方大会は問題が簡単だったので、「地方大会の難易度はあの程度だったし、そんなに勉強しなくても大丈夫そうだな」という甘い考えを持っておりました。しかし現実には甘くなく、問題は難化し、自分が分からない問題は全て相方が回収してくれました。地方大会を勝ち抜くことができたのは相方の圧倒的な知識量のおかげです。だから相方にはものすごく感謝しています。

地方大会が終わって新たな教材が配られたとき、自分は「今度はちゃんと勉強して、相方の足を引っ張らないようにしましょう」と決心しました。そして、毎日コツコツと教材を読んでいました。しかし、モチベーションの低下などによって、次第に教材を手取る機会が減っていき、何もしない日が増えていきました。こうして振り返ってみて、自分の意志の弱さを感じました。一度悔しい思いをしているにもかかわらず、同じ過ちを犯してしまっている。本当に情けないです。

しかし、全国大会でホールの座席から観た、他校がクイズをしている姿はしっかりと脳裡に焼き付いています。そして、それがエコ甲に対するやる気へと変わっていきます。だから、今ではいつでもモチベー







ションを保てる自信があります。

うちの相方は来年もエコ甲に出るそうなので、自分も出ようと思っています。次こそは相方の力だけでなく自分の力も使って、優勝とかしてみたいです。

愛知大会代表 滝高等学校 二年  
西脇 遼

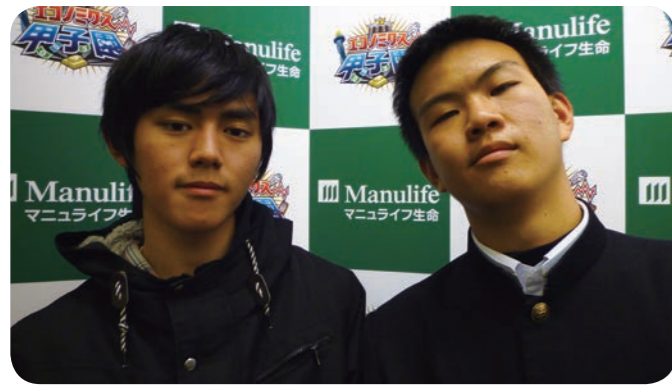
僕は去年もエコノミクス甲子園に出場することができました。その時は当時高3の先輩と一緒に参加したので、愛知大会も優勝し、また全国大会でもいい方の成績で終わることができました。

そして、今年も出場することになりました。何回か不安になるようなところもあり、決勝のルールは少し計算をするところがありましたが、野田君のおかげで無事に優勝することができました。そして、愛知大会と全国大会の間にも、暇な時間があれば全国用や事前学習教材を見たりしました。政治経済の資料集もエコノミクス甲子園に役に立つと思ったので、それも時間があるときに見ました。

そして、エコノミクス甲子園当日になりました。そのために学校を早退するのは新鮮な感じがしました。そして東京につき、その日はエコノミクスを楽しみました。

二日になって、「JAL×はじめて」ということで、プレゼンを発表することとなりました。僕は、もっと発言した方がよかったと思います。大学や社会に出てから、このような話し合いの機会は増えると思うので、慣れなければいけないと思いました。また、ビンゴ大会で最後から二番目くらいに上海の参加者から景品をいただきました。来年以降も外国の高校が来ると思います。

本戦では、野田君のおかげもあって準々決勝まで行くことができたのですが、自分の勤がごとく外れ、準決勝に進むことはできませんでした。とても残念だったです。去年出場した先輩もとても残念そうにしていました。でも、三日間エコノミクス甲子園を楽しむことができて良かったです。次以降の大会でも、滝高校の人に出場して、楽しんでほしいです。



三重大会代表 三重大立四日市商業高等学校 三年  
能仁 良明

今回、全国大会に参加できたことは、私の人生において重要なことの一つでした。他県の人とふれあう機会が今までにほとんどなかったので大変多くの刺激を受けました。特に同室であった青森代表の弘前高校の二人とはいろいろ話したくさんの刺激を受けました。

今回参加した高校で唯一の「商業高校」とついていた学校でしたが、商業高校のアドバンテージなど微塵もなく、ただただ、自分たちの力不足を実感しました。また、3年生の出場者が少なかったことにも驚

きました。

3日間を通して、スタッフの大学生の皆さんの企画力でハードスケジュールではありましたが、楽しむことができました。特に3日目の全国大会本戦は、1回戦、2回戦、敗者復活戦、準々決勝、準決勝、決勝と問題はもちろんのことルールも多種多様で見ているだけでも楽しめるものになっていました。大学生スタッフの皆さんありがとうございました。そして、おつかれさまでした。

灘高校の方もおっしゃっていましたが、私もエコノミクス甲子園を通して、ニューヨークに行くのと同じくらいのものを得られたと思います。

私は、高校を卒業して大学へ進みますが、金融知力を身につけることは続けたいと思います。

最後に、今回私たちが足下に及ばなかった頂点に、いつか地元三重から後輩たちがたどり着いてくれることを願っています。がんばれ未来の三重代表!!! 欲を言えば同じ商業高校出身者であってほしいと思っています。立ち上げられ商業高校生!!

三重大会代表 三重大立四日市商業高等学校 三年  
松崎 拓海

エコノミクス甲子園に参加して、私が何よりも感じたのは金融知力の奥深さでした。授業では経済学について勉強してきましたが、エコノミクス甲子園に向けて勉強するうち、保険や年金など将来必要となる分野や金融、投資など将来役に立つ分野と幅広い知識を得ることができました。しかしながら、全国大会では私の知識量は他校の参加者たちには遠く及ばず、自分の勉強不足を感じるとともに、金融知力の奥深さを知ることとなりました。私は3年生なので残念ながら来年からの大会に参加することはできませんが、これからも私たちの生活を豊かにする金融知力についてもっと勉強したいと思いました。

また、全国大会に参加したことで貴重な経験を得ることができたと思います。特に2日目に他県の参加者と力を合わせてプレゼンテーションを行ったことは私自身知らなかった自分の一面を知ることができ、ほかの何物にも代え難い思い出にもなったと思います。

エコノミクス甲子園に参加することで見識を広めることができ、主催・協賛して頂きました金融業界の方々や運営して頂きました大学生ボランティアの方々、紹介して下さった担当の先生や応援して下さった周囲の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも金融の勉強をして、また金融知力の素晴らしさを後輩たちに伝えていくことで後輩たちがエコノミクス甲子園に参加するきっかけに私になれるといいなと思います。



滋賀大会代表 滋賀県立膳所高等学校 一年  
片瀬 瑛司

「エコノミクス甲子園一緒に出ないか？」

友達からこう誘われたのは、十月のことだった。どうやら予定していたペアの人が用事で参加できなくなったらしい。エコノミクス甲子園? ああ、そういえばどこかでポスターを見たような。この時の僕は自分が全国大会へ行くとは夢にも思っていなかっただろう。

こんな状態で臨んだ地方大会。もちろん書きたいことは山ほどあるのだけれども、一応全国大会の感想なのでここでは控えておく。しかし、相方に頼ってばかりで自分の力不足を感じた日であった。

地方大会から数えることわずか二か月、全国大会に向けて東京へ向かう。本当ならワクワクしていたのだが、勉強が間に合わず新幹線のなかで本を読む羽目に。二か月前の自分を殴りたい。しかし、いざ会場へ着くと初めて会うライバルを見て、やはりドキドキが抑えられない。ああ、遂に来たのか。そう思いながら僕は皆と笑いあい、エコノミクスを楽しんだ。平和なスタートだった。

そう、今思えばエコノミクス甲子園の本番はこの次の二日目からだったのだ。

まず数時間にもわたるプレゼン大会が僕たちを襲う。慣れない環境のなかで自分の意見を伝えるのは本当に苦しかった。そして追い打ちをかけるかのような筆記試験。地方大会とは比べ物にならない難易度で心が折れそうになる。前夜祭さえ吹き飛ばされてしまうほどの怒涛の日であった。もちろん次の日には大会本番が待ち構える。予想していたよりも遥かにハードな、そしてハイレベルな内容だった。

二日目のプレゼンと筆記試験を終え、僕たちのチームは半分よりも下の順位。レベルの差を見せつけられた。その後、なんとか挽回し、準々決勝まで進んで最終11位となったものの、他グループの問題でわからない言葉が出てきたり、敗者復活戦を眺めながら一つわからない問題に震え上がったりと、かなりギリギリな状態で得た結果であった。

今回大会に参加したことで様々な知識を得たことは言うまでもない。しかし、それ以上に周りのハイレベルな同級生を見て自分が置いて行かれそうな危機感を感じた。プレゼンにも見られるように、エコノミクス甲子園に必要な力は社会でも必ず必要とされる力である。学んだ知識をどう活用していくかが重要であると強く感じた。今現在、僕は強い力に突き動かされている。それは最初、友達に誘われた時とは比べ物にならないほど大きなものだ。自分の力不足を感じた今大会。確かにそれは否定できないが、それ以上に本当にたくさんのものを得た。これをベースにまた一から勉強をやり直そう。そして、来年こそは本当の知識を使って全国の皆と戦おう。そんな強い気持ちで芽生えてきたのである。

滋賀大会代表 滋賀県立膳所高等学校 一年  
中西 奏太

私が地方大会に出場するきっかけとなったのは、S君の誘いであつた。しかし彼は部活と地方大会の日程が被り出場出来なくなつてしまい、片瀬君と出場することになった。

様々な幸運が重なり、全国大会に出場することになったが、なんと大会一日目が高校の中間考査と同日という過密スケジュールでなかなか事前学習の時間が取れず、また全国大会に集まってきた他県代表にも気圧されて不安と緊張が高まるばかりだった。

しかし、実際に全国大会に参加してみると、スタッフの皆さんや他県代表の方々は大変気さくにして下さり、緊張のほぐれた状態で様々なアクティビティ等に参加することが出来た。二日目にあったJALへのプレゼンテーション作成は、普段グループで一つの議題について話し合うことが少ない中で、意欲ある他県代表と有意義なディスカッションをしながらプレゼンを作り上げていくというのは、とても楽しく大変貴重な経験となった。また、一日目に誕生日を迎えていた相方の片瀬君へのサプライズドッキリの後に出席された、地方大会とは比べ物にならないレベルの筆記クイズには驚かされた。三日目のホールでの様々なラウンドでは、間違えることの出来ないプレッシャーの中ながらも、楽しく様々な問題に答えられた。

全国大会の三日間を通して、多くの人と出会い、様々な体験をすることが出来てとても楽しかった。まだ一年生なので、次回大会も出場し今回の結果を超えることを目指して金融知力を磨くと共に、もっとたくさん金融や経済の話題に触れるようにしていきたい。



京都大会代表 京都府立洛北高等学校 二年  
猪田 尚希

私は昔からニュースを見るのが好きでした。なので竹中くんからエコノミクス甲子園に出ようって誘われたとき、またとない機会だと思い参加を即決しました。クイズ経験なんてなかったのですが、でも、まさか京都大会で優勝するとは思ってもなく、優勝した瞬間は本当に信じていることができませんでした。

全国大会では3日間、とても貴重な体験の連続でした。もちろん大会自体私にとって貴重な経験でしたが、全国大会と名のつくものに出たことのない自分にとって何より良い経験となったのは、普段お会いすることのない人たちと交流することができたことです。

その中で特に心に残っているのは2日目のグループプレゼンテーションです。初対面の人達と協力合せて作り上げたときには、ものすごい達成感と同時にその日初めて出会ったとは思えない絆ができていたことはとても驚きでした。



続いての前夜祭では高校生はもちろん、銀行員の方とも積極的にコミュニケーションをとる機会が設定されていて、日本全国のご当地情報を聞くたびに驚きの連続でした。また期間中色々なタイミングで全国の方々とお話をする中で、自分の知らない、普段知ることのできない世界が大きく開けていきました。

3日目の全国大会本番ではもう少しできた、頑張れたって思えるシーンもありましたが、それと同時に自分たちより詳しい人たちがいることを知り、よい刺激を受けることができました。

このような機会を作って盛り上げていただいた大会の運営の方々、引率していただいた京都銀行の高野さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

京都大会代表 京都府立洛北高等学校 二年  
竹中 颯太郎

エコノミクス甲子園。そこで僕は、いままで知らなかった広い世界を見るという貴重な経験ができました。

僕がエコノミクス甲子園に参加しようと思ったのは学校に貼られていたポスターがきっかけでした。僕と相手はもともと社会やニュースが好きだったので、一緒に参加したのは自然の成り行きだったと思います。

時が過ぎ、気付いた時には京都大会で優勝していました。

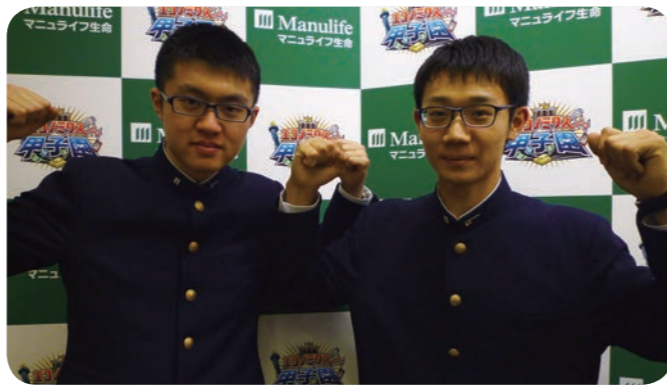
そして、全国大会。初めての経験ばかりであったという間に三日間が過ぎました。ですがその三日間は今でも、そしてこれからも忘れられない思い出になりました。これを読んでいるということは、全国大会でどういふことをしたのかはすでにご存知でしょうから、ここには僕が特に印象に残った三つのことを記そうと思います。

まず、経済や金融の知識を得られたこと。これは将来必ず必要になることであり、かつ、知っていなければ必ず困ることです。それを高校生の間に学べたことはとてもいい経験になりました。

次に、同じような思いを持つ同年代の人達と出会えたこと。ここに参加した人たちは僕と同じで社会のことに興味がある人ばかり。そんな人達と三日間、時には互いに競い合い、時には各都道府県の違いで笑い合ったりできたのはとても楽しかったです。個人的には特に高知県や宮城県代表の人にとってもお世話になりました。

最後に、様々な人との出会い。普段生活していたら決いて関わることのない協会、銀行員、大学生、来賓の方々、京都銀行の高野さんと出会えたことはとても貴重な経験になりました。特にこのエコノミクス甲子園を運営している大学生スタッフの方達の熱い思いに感動しました。ここまでのものを作り上げるにはただならぬ苦労があったと思います。このエコノミクス甲子園に関わった人全員に感謝したいと思います。

このエコノミクス甲子園で学んだことを一生忘れず、日々の勉強に精進していきたいと思います。



大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 二年  
内河 隼希

きっかけは学校の掲示板に貼られていたポスターでした。何の気なしにそのポスターを眺めていた時に横から、相手となる谷口君が声をかけてきてくれたことで僕のエコノミクス甲子園が始まります。どっさりど地方大会用の資料が届き、準備した後、相手にも運にも頼ったところも多々ありましたが何とか優勝し、全国大会を迎えることになりました。昨年全国大会に出場された先輩から話を聞き、対策を練っていきながら、ついに全国大会のために東京へ向かう日に。

全国大会の中でも特に印象に残ったのは2日目のプレゼンです。テーマは「JALを利用したことのない人に初めてJALを利用してもらう」というものですが、なかなか頭を悩ませられました。谷口君と、「自分たちが中心となって話を進めていこう」と話していたのですが、自分たちの力不足からなかなかうまくまとめ上げることができず、まだ経験が足りないことを痛感しました。プレゼン後には前夜祭があり、ご来賓や銀行員の方々、他都道府県の代表の人たちいろいろな話をし、またとない貴重な経験でした。

今回の全国大会は、決していい結果だったとは言えませんが、それ以上に得られたものも多かったと改めて感じられました。出会って間もない8人で一つになってプレゼンを完成できたし、今の自分の良いところ・悪いところがいろいろ見え、何より自分がこれまで見てきた世界の小ささに気づかされました。そういう意味ではとても有意義であり、なぜ高1のころにも参加していなかったのかと、後悔の念すら感じました。来年は参加する余裕があるかわかりませんが、少なくともこのエコ甲の良さを周りに伝えていければと思います。相手の谷口君や銀行の方々、学生スタッフのみなさん等々、本当にみなさんありがとうございました！

大阪府大会代表 大阪星光学院高等学校 二年  
谷口 雄太

当日8時過ぎに現地入りしました。受付を済ませて、寝室は秋田県の方と一緒にでした。仲良くなれるかな？と思っていたのですが、出身有名人の話題や方言の話題で盛り上がり、その後は対策をして過ごしました。

2日目、まずJALの今北さんという方によるプレゼンを拝聴した後、それぞれのグループに分かれてプレゼンの作成に取り掛かりました。しかし、途中でアイデアに重大な欠陥があることがわかり、練り直す形になりました。なんとか完成されることは出来ましたが、上位3チームに呼ばれることはありませんでした。その3チームのプレゼンを聞いたのですが、内容の充実さ、スライドの完成度、喋り方…どれも目を疑う程のクオリティだったので、この大会のレベルの高さを痛感しました。さらに、前夜祭後に行われた筆記試験でも想像以上に難しい問



題が出て、驚かされました。

3日目、これまでのディスアドバンテージを跳ね返して進もうと相棒と話していたのですが、色々調子が悪く、結局僕は負けてしまいました。その後の戦いを見ていると、僕らの知らないワードが次々出てきて、まだまだ精進が足りなかったと自省しました。ですが、普段は決して会うことが出来ないような全国の猛者たちと相見えることができ、将来こんな素敵な大会に僕もスタッフとして携わりたいと思いました。大変貴重な経験をさせて頂いたこと、本当にありがとうございます。



兵庫大会代表 灘高等学校 二年  
北口 智章

「優勝は果たせなかったが、NY研修旅行にも劣らない『価値あるもの』を、僕は手に入れることができた」。多くの方の期待を裏切り3位という結果に終わった「惨めさ」を噛みしめ、絞り出したコメントは、自分でも驚くほど当時の心境を表現できていたように思う。ただ、ここで言う「価値あるもの」の具体的な内容について、言葉が尽くされていなかったと思いついたので、この場を借りて、簡単に説明したい。

一つ目は、人との繋がり。エコノミクス甲子園という大会を通じて、僕は多くの人にお世話になり、あるいは友情を結び、互いに刺激があった。JALラウンドでは、後に準決勝で対戦相手として争うことになる3チームと、レベルの高い発表を完成させることができた。前夜祭では、この大会を支えている大勢の方々の存在に気づかされた。そして何より、運命共同体として頼りあった、菊池先輩・伊藤君と絆を深めることができた。

二つ目は、勝負の「難しさ=楽しさ」の再確認。優勝を目指して真剣に準備を進めてきた僕は、大会当日には、自らの知識にある程度の自信を抱くようになっていた。だが、いざ勝負となると、思った通りには上手く行かない。対戦相手のことを意識して緊張したり、ちょっとした記憶違いからミスをしたり、ルールが苛烈な向かい風となったり。しかし、クイズ全体を通じて、焦燥・緊張・後悔といった勝負の機微を、どこか楽しんでいる自分があった。勝負が必然的に有する厳しさこそが、勝負をより面白くするのだと実感した。

最後に、エコノミクス甲子園という素晴らしい大会を作り出してくれた、全ての方に感謝を述べて筆を擱きたい。2年間、どうもありがとうございました。

兵庫大会代表 灘高等学校 二年  
伊藤 公洋

これまでのどんな試験より、クイズの大会より、真剣に勉強した。この2人で戦えば、絶対に優勝できる、そこまでの努力をした、はずだっ

た。しかし実際には僕たち「ビッグドーナ2。」は決勝で敗れ、3位に終わった。確かにそこには「負けた」という事実が厳然と横たわっている、が決勝最後の問題が終わった時も、そして今も、何より「エコノミクス甲子園は本当に楽しかった」という思いが胸の中にある。それはスタッフの皆さんが僕たち参加高校生を楽しませようとして下さったのは勿論のこと、自分が本気でこの大会に向き合うことができたからであろう。「本気で努力して、それを活かそうとすることってこんなにも楽しいんだ」ということを僕はこの大会を通して学ぶことができた。チームが一丸となって協力し優勝を勝ち取ったJALラウンドにしてもそうだ。必死にやってきたからこそ、2日間にわたるこの大会をより楽しむことができたのだと思う。「努力は裏切らない」とはよく言われることだが、その本当の意味がこの大会を通してようやく分かったような気がする。本気の努力というものは、たとえ目に見える「結果」に結びつかなくても、ずっと残り続ける確かな「手応え」を僕たちの心に与えてくれるものなのだ。それを教えてくれたこの大会と、スタッフの皆さん、他の高校生たち、関わった全ての方々本当に感謝したい。改めて、このエコノミクス甲子園、本当に楽しかったです！



奈良大会代表 東大寺学園高等学校 二年  
上林山 大吉

はじめに、今大会を用意して下さったスタッフ、金融機関、企業等の方に御礼申し上げます。企画も大変洗練されていて、最初から最後まで何が起るかが読めない展開に一参加者として大いに楽しませて頂きました。

何よりも嬉しかったのは、自分が培ってきたスキルが応用できたことです。

2日目のプレゼンで、JALを使ったことがない顧客層をいかに確保するかについてまとめました。僕は母校で生徒会長を務めていて、プレゼンを準備して発表することは得意分野でした。議論の進行を進める際も、ポストイットを使用して各自の意見を書き出して貰い、黒板に論点を整理させながら話していくことで、班員が積極的に話せる空気作りが出来ました。普段とは違うジャンルのプレゼンだったので満足いくパフォーマンスを発揮することが出来なかったのではないかと不安になりましたが、銀行員の方の投票では1位、来賓の方の投票では3位と十分な結果を残すことが出来ました。

培ってきたスキルがこんな場所で役立つとは思いませんでした。今まで自分が取り組んできたことが別のフィールドでも通用することが実感できました。

ですが、勝負には何が起るかわかりません。全国大会の予選でも2位と実力校の名に恥じぬ成績を残せた…はずでしたが、4択クイズの最後の最後に上位から陥落し勝負の舞台から姿を消すこととなりました。悔しかったです。運も実力のうちとはまさにこの事です





ね…  
 来年は受験生なので、僕のエコノミクス甲子園に挑戦するのは今回で最後ですが、今回得た金融知力は大学生（僕は経済学部志望なので）、そして社会人になってからも役立つ物であると信じています。  
 今回の経験を糧にして広い視野で経済情勢を見渡すことができるように頑張ります！

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 二年  
**中尾 友彦**

全国大会に参加して一番印象に残ったのは、2日目の「JAL×はじめて」プレゼンテーションクイズでした。もちろん今までも学校等でプレゼンテーションはしたことがあったのですが、ここまで短時間で結果を求められるのは初めてでした。そこで最強の武器となったのが「チームプレー」です。グループメンバーは、茨城代表、富山代表、沖縄代表、そして奈良代表でした。今回のプレゼンテーションの話題は「今までにJALに乗ったことのない人にJALを使ってもらうためのビジネスマーケティングプランを考えよ」というものだったのですが、各々の県が飛行機の利用に関して特徴的だった点が役立ちました。というのも、僕のグループでは「ニッチマーケット」よりも「マスマーケット」をターゲットにしようという方針で話し合いを進めたので、飛行機が優勢の地域（沖縄）、飛行機が劣勢の地域（奈良、茨城）、そして飛行機優勢から飛行機劣勢に変化した地域（富山）の各々の意見を聞いたことは非常に大きかったです。そして、能力をそれぞれが最大限発揮できる雰囲気準備を進められたのも良かったです。

紆余曲折もあったものの、チームプレーのおかげで、何とか制限時間までに完成させることができました。タイトルは「新しい家族に『はじめて』を」。小さい子供連れの家族に、長く記憶に残る旅をしておおうというプランです。そして、予選の結果は、なんと予想もしなかった1位。決勝では残念ながら3位となってしまったものの、チームプレーで得られる経験や達成感、そして友情は、個人プレーで得られるそれよりもはるかに大きく、強いものであることを学ぶことができました。3日目の大会での結果は不本意だったものの、このプレゼンテーションクイズを含む全国大会を経て感じたことはこれからも大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、金融知力普及協会の皆様、大会を援助してくださいました皆様、スタッフの皆様、参加者の皆様、そして南都銀行の皆様、良い経験をさせていただき本当にありがとうございました。



鳥取大会代表 青翔開智高等学校 二年  
**川村 新樹**

「ニューヨーク研修と同じくらい価値のあるものを僕は手に入れま

した。」灘の北口さんは、決勝戦で金沢大学人間社会学域学校教育学類附属に負けた後、そう語った。金大附属の人たちとは、2日目のプレゼン班で行動を共にし、仲良くしていたので、優勝したときは、まるで自分が優勝したかのように相方と喜びあった。この瞬間は一生忘れることはないだろう。そして同時に、冒頭の言葉が私の心のノートに記された。

振り返ってみると、日々の学習に追われるなか、休憩時間も削って経済の勉強をしてきた。そして今ここにいる自分は、明らかに今までとは違う自分だ。かつては、全くといっていいほど興味のなかった経済という分野だが、エコノミクス甲子園が終わった今では気になることがあるたびにネットや、新聞で調べるようになっていた。動画サイトの「あなたへのお勧め」も今まではアニメやドラマばかりであったが、今や経済番組で占められているのを見た時には親ですら驚いていた。だが、一番の変化は、今の自分は、学問は繋がっていると知っているということだ。3日目の本戦で出てきた用語に、「フィンテック」というものがある。また、「IoT・ビッグデータ」という用語も経済の用語サイトでよく見かける。これらは、金融とITの分野が融合した 現代において使われるようになった言葉だ。実際、人工知能が株の取引を行ったという話も耳にするほどだ。つまり、今社会は複数の専門分野が融合するような時代へと突入しているのだ。よく、π型人間という言葉が使われるが、今まで私は気にもかけなかった。だがこれからは、一つの分野を知っているだけでは通用しない。そんなこれからの社会に求められているスタイルを理解できたことこそが自分にとってのニューヨーク研修に匹敵する賞品である。自分の人生を変えてくれたエコノミクス甲子園、そしてその大会開催を支援してくださいました銀行員の方々、スタッフの皆さまに感謝して止まない。

かなり話が個人的所感になってしまったが、エコノミクス甲子園について少し述べて終わりにしたい。私自身クイズ研究会に属しててもなければ、日々高校生クイズなどのようなクイズ番組に興味があるわけでもなく、最初は場違いな気がして緊張し、あまり会話できずにいた。だが、周りの高校生の積極性と、チームごとに分かれて白熱したプレゼンなどのイベントのおかげで3日目には純粋に大会を楽しむことができた。同時に、クイズに答えられなかった時、今まで体感したことのないほどの悔しさを覚えた。来年も、出たいと強く願うほどに。（まあ、おそらく来年は受験でそれどころではないだろうが）本当に楽しい3日間だった。この大会の良さをこんなありきたりの言葉でしか語れない自分の語彙力のなさが悲しいが、ぜひこの作文を見ている大会未経験者にはすぐにもエントリーシートに名前を書いてもらいたい。最後に、いずれ日本の金融業界を引っ張っていくであろう金大附属のお二人、そして、共に戦った46チームの高校生の皆さんと、楽しく過ごせたことに感謝し終わりにしたい。

鳥取大会代表 青翔開智高等学校 二年  
**秋田 尚輝**

地方大会を勝ち抜くと、あっという間に全国大会になり、あっという間に敗退しました。エコノミクス甲子園の問題の傾向を読みきれなかった自分の読みの甘さと、勉強したからといってうまく行くとはい限らない社会の厳しさを思い知らされました。鳥取で育ち、鳥取から外に出ることなく生きてきました。いわば「大海を知らない」状態でした。エコノミクス甲子園は、大海を知るためのいい機会でした。事前のプレゼンや本戦における他県のレベルの高さだけでなく、礼儀や常識の面でも、社会に出る上で身につけておくべきものを見せつけられました。いかに自分が「しっかりしていない」かがよくわかりました。

県外もそうであるかは知りませんが、鳥取では高2の10月ごろになるとよく「意識改革」をすべき時期だと言われます。今まで競争社会に関わることなく、ぬるま湯に浸かり切った県内の高校生が受験と



いう現実を突きつけられる時期という意味です。私たちは県外に出る機会が減らないため、数字的な架空の現実を突きつけられることはあっても物質的な現実を突きつけられることはありません。ましてや、公立高校なら意識改革された大勢の生徒の雰囲気にも圧倒されて、自ずと意識改革の方へ向かっていきますが、我が青翔開智は少人数クラスの高校であるため、数に圧倒されることもありません。

エコノミクス甲子園は、私にとって意識改革の最大の機会となりました。生徒の数ではなく、質による雰囲気にも圧倒されました。甲子園本戦でも、我が青翔開智の誇りであるプレゼンでも、「どうかなる」と高を括っていた自分の考え方を叩き潰されました。甲子園は、金融知力を高めるという面だけでなく、意識改革という面でも自分がこれから社会に出るのだということを実感させられる大会でした。エコノミクス甲子園に出場できて、本当に良かったと思います。



島根県代表 島根県立情報科学高等学校 二年  
**内田 千尋**

私がエコノミクス甲子園に参加しようと思ったのは、ちょっとした好奇心からでした。今まで金融や経済についての知識や興味がほとんどなく、事前学習を始めた当初は戸惑うことばかりでした。しかし、私の全く知らなかった金融・経済について学べることは、自分の新しい世界が広がっていくようで非常に楽しいものでした。

1日目はエコノミクス大会でしたが、私たちのペアは非常に焦りました。会場に到着するまで、エコノミクスを開封したことがなかったからです。ですが、スタッフの方が丁寧にルールを教えてくださいました。戸惑いながらも対戦することが出来ました。多くの方々と交流しながら対戦するカードバトルは、とても面白かったです。

2日目は、大変な1日となりました。素敵な前夜祭が終わり、サプライズとしてお誕生日会をした後で、追加サプライズの筆記が…。これほど嬉しくないサプライズは初めてでした。地方大会の筆記テストとは比較にならないほど難しく、勉強が足りなかったと痛感しました。また、2日目には、グループに分かれてプレゼンテーション用の資料作りをしました。自分たちでマーケティングプランを考えるとところから始めるということは難しく、息詰まることもありました。入賞は出来ませんでした。良い体験ができたと思います。

3日目の本番、見ているだけでもワクワクする大会でした。特に決勝戦の逆転劇は見ているだけで思わず拍手をしてしまいました。知識だけではなく、知識を活かせる思考力を持つことが大切だと改めて思いました。全国大会という舞台に立ち、たくさんの高校生と戦って、結果こそ残せなかったのですが、非常に良い経験をすることが出来ました。これまで指導してくださいました先生、そして、ペアの足立君のおかげです。今回、エコノミクス甲子園に参加できて本当に良かったです。

島根県代表 島根県立情報科学高等学校 二年  
**足立 裕亮**

先生からの紹介で初めてエコノミクス甲子園の存在を知り、新しい知識を得たいという知的好奇心から参加することを決意しました。最初から優勝することなどは頭になく、ただ単純に金融について学ぶことを楽しんでいたので、気付けば地方大会で優勝を修めており自分自身非常に驚いたのを覚えています。私はこれまで、県の代表として全国を相手にするという経験をしたことがなかったので、全く見通しがきかず不安と緊張を抱えていたのですが、親身に支えてくださった先生や温かく迎えてくださったスタッフの皆さん、気さくに話してくれた他県の代表の生徒の皆さんのおかげですぐにそれは解消されました。そして何よりも、未知の環境の中で私の心の支えとなってくれたのは一緒に戦ってきた相方の存在でした。私が堂々としていられたのも彼女がいたからだと思います。

初めて全国を目にして感じたのは、格段なレベルの違いでした。大勢の前でも堂々と意見を発表されるのはもちろん、その内容も非常に成熟しており、恥ずかしな当り自分たちと同じ高校生なのかと思ってしまうほどでした。いかに普段緩やかな空間で生きているのかを実感したと同時に、負けるわけにはいかないかと奮起する良いきっかけにもなりました。出題された問題もまた、ただ知識と記憶だけで乗り越えられた地方大会と違い、思考力と応用力を試されるもので、一筋縄ではいかない形式のクイズはどれも非常に面白く、心から楽しむことができました。2日目の筆記試験には度肝を抜かれましたが（笑）

他県の選手の皆さんとは、短い間ですが共同生活した中で親近感が芽生えたのを実感しました。3日目にルームメイトから「頑張ってるよ」「おめでとう」と声を掛けられ心が温かくなったのをよく覚えています。また、普段なかなかお目にかかることのない方々とお話させていただくことができたのも良い経験となりました。

このエコノミクス甲子園を通じて、単純に知識を増やすというだけでなく今まで知らなかった世界を知ることで視野が広がり自身の大きな成長につながったと思います。この機会を与えてくださった先生や運営の皆さんに感謝しつつ、この大会が更に発展しもっと有名なることを願っています。



岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 一年  
**谷 尚俊**

私は以前にも同じような全国大会に出場したことがある。そのときは自分の力が通用したので自信を持って岡山に帰ることができた。しかし今回は違う。「全国の壁」というものを感じずにはいられなかった。我々岡山県チームは毎日のように放課後を共にして対策に励み、各



## 全国大会感想 Final tournament report

自でもそれに加えた勉強に取り組んで本大会に備えた。できることはやって東京に乗り込んだので、結果を残すことができる自信があった。しかし結果は予選敗退で、目ぼしい成績を残すことはできなかった。精神力やプレゼン能力にくわえ、ある程度自信があった知識量においても、全国レベルは現段階の我々では到底追いつくことができないほど高かった。

本大会のレベルの高さは私にとって良い経験になったと考えている。いずれ受験などで相手にする人々がこれほどに強者なのだ、ということを感じることができたし、彼らの「勉強を心の底から楽しむ」という姿勢を学ぶことができた。今後学業に励む際は全国レベルを意識したより充実したものにしていきたいし、彼らにより近づいてみせる、という気持ちで取り組んでいきたいと思った。

今、私は全国の強者達に敬意を抱いている。何事にも好奇心をもって、一生懸命に努力する彼らの姿は、ある種高校生の鑑のように私の目には映っている。しかしずっと敬意を抱いているようでは駄目だ。彼らと等しく対峙するために自力を付け、まずは来年のエコ甲でその成果を発揮したい。

岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 一年  
**三谷 孝太郎**

私にとってエコノミクス甲子園は、大きな経験をさせてもらえる最高の場だった。経済の知識をほとんど持っていなかった私にとって、全国大会に見合う力を得られたとは到底思わないが、多くの時間をかけて知識を身につけたその中に必要でないものは一つもなかった。

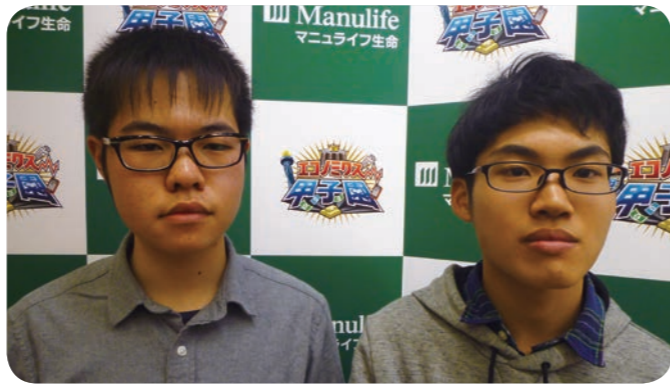
初日は、経済に関する知識をカードゲームとして楽しく学ぶことのできる大会だった。その会場は和気あいあいとしながらその中に多くの燃える闘志があることを肌で感じた。この中で多くのことを経験することができると思うと、とてもうれしかった。

2日目は、プレゼンの他のチームの完成度に感動し、また、悔しさを感じた。どのチームも多くの意見を出し合い、試行錯誤をした結果だということは皆の満ち足りた顔から読み取れた。しかし、私たちのチームは上位に残ることはできなかった。残念な気持ちもあったがチームのメンバーと交流を深めることができ、楽しい時間を過ごすことができた。夜に行われた前夜祭では、普通に生活をしていたら会うことのできないような人と話、活発な意見交換ができたのは強く印象に残っている。

3日目は、ホールでの決勝。私たちは勝ち上がることができなかったが、同じチームでプレゼンをした石川代表の2人が残っており、応援をした。結果、プレゼンで大きく出遅れたものの彼らは優勝した。

努力というものは自分を裏切らず、その結果が目に見えてわかる。その結果はどこまでも残酷で、どこまでも正しいものだった。まだ私たちには来年があるので、ペアの信頼を裏切らないよう、また、このような舞台に立てよう、努力をしたい。

このような機会を与えてくれた谷。そして、応援をしてくださった中国銀行の方々、友達。本当に、ありがとうございました。



広島大会代表 広島大学附属福山高等学校 二年  
**村上 将紀**

私の得意科目は政治・経済です。エコノミクス甲子園に出ているくらいだからわざわざここで書く必要もありませんが、自分の得意な公民を試験以外でも活かしたいと思っていたところにエコ甲のポスターを見つけ、そして相方を誘い、広島大会で優勝した次第です。

全国大会では想像通り私と同様経済に関心をもつ人たちがたくさんいました。宿舎で同室となった神奈川県代表の方など、金融・経済という同じテーマで多くの方と交流できたことは思い出に残っています。

また、他の方も書いていらっしゃると思いますが、問題の難易度の高さも印象に残りました。事前学習教材に書かれていない難しい経済用語や時事問題など、いろいろなところにアンテナを広げていないと答えられないような問題が出ました。受験の世界ではよく「政治・経済は直前でもできる科目」と言われます。確かに数学など他教科と比べると点数は伸びやすいかもしれませんが、この大会で良い結果を残すためには日々の勉強が大切であると感じました。

全国大会は結果こそ敗者復活戦であと一步というところで勝ち抜けられず、悔しい思いをしましたが、全国大会に向けての勉強はおそらく無駄にならないと思います。私自身、エコ甲の勉強をして保険会社等のCMを身近に感じられるようになったし、ニュースを見た後社会にどのような影響があるのか、経済の面から深く考えられるようになりました。そのようなところが経済の学習の上での面白いところだと思っています。

最後になりますが、もみじ銀行や運営の方々、そして3日間仲良くしてくださった各都道府県の代表の方々、大変貴重な経験をさせていただきました。視野が広がり、本当に出て良かったと思います。ありがとうございました。

広島大会代表 広島大学附属福山高等学校 二年  
**村上 遼樹**

もともとクイズができるからという単純な理由で経済が苦手にも関わらず参加したこの大会ですが、エコノミクス甲子園を通して金融知識に関すること、そして協力することの大切さがわかりました。

今までは2日目の朝にやると聞かされていた筆記クイズがなくプレゼンに入り、このプレゼンも案が容易に思い浮かぶものでなく難題でした。また、全体プレゼンのチームはレベルが高く魅了されました。そして夜になってサプライズと共にやはり筆記がありました。地方に比べて難易度が高いのでビビりました。

3日目は早押しクイズから始まり、予選通過発表で通過できず、そのまま次のラウンドに行くことに。問題文の前半後半を別々に相手と真偽を判断するもので、分からなかったらしょうがないなんて言いな



## 全国大会感想 Final tournament report

がら本当に分からないのが出て敗者復活戦になりました。敗者復活でも惜しいところで負けてしまい残念でしたが、チームの結束力は強まったと思います。

エコノミクス甲子園で僕は社会の至るところでこんな金融が起こっているんだ、こんな知らない世界があったんだと自分の知識のなさを知ることができ、社会に対してより広い視野を持つたと思います。これはこれから生きていく糧にもなるのではと思っています。

最後に素晴らしい場を設けてくださった金融知力普及協会の方々、地方銀行の方々、学生スタッフの方々、あと問題作成したり経済の本貸してくれた同級生、そして相手方には心から感謝致します。ありがとうございました。



山口大会代表 山口県立下関西高等学校 二年  
**西島 維希**

2泊3日のエコノミクス甲子園全国大会。結果としては全く歯が立たなかったが、得たものは非常に多かった。

まず全国の生徒との交流。47都道府県の人が一室に会する機会というのは少なく、これだけでも有益であった。話す人全員が自らと異なった方言を使うことに文化の違いを感じた。食事やグループワーク、風呂や共同の宿泊部屋など高校生同士の交流の時間も多く、同じ高校生でも考え方、感じ方が異なるのを実感できた。自校には居ない種類の人と関わったのは大きな収穫に思える。

そして、様々な業界で一流の人と直接話せたこと。本来ならば絶対に会えないような人と会い、共に会話、食事をするというのは非常に貴重な体験となった。

歯が立たなかったと書いたが、全国大会に向けての勉強は決して無駄ではない。本来経済には興味がなかったが、勉強して内容が分かるようになるとその面白さに気づくことができた。

思えばエコノミクス甲子園に参加したことで、本来ならば出来なかった多くの体験をした。心残りなのは全く結果が残せなかったことだ。上位の人達は個人で資料を集めて予習していたが、僕たちにはそんな考えすらなかった。この無念は後輩に伝え、来年こそ結果を残してほしい。頑張れ山口。

山口大会代表 山口県立下関西高等学校 二年  
**坂下 洋平**

僕がこの作文で書きたいのは地方大会のことでも、2人でコツコツ勉強してきたことでも、多くの強豪たちと争った全国大会のことでもありません。もちろん、宿舎のバイキング形式の食事のことでもありません。では何を書きたいか、それは3日間僕達を支え続けてくださった山口銀行の中原さんのことです。僕は溢れ出る彼女への感謝や

尊敬の念を未だ忘れることができません。もちろん、エコノミクス甲子園が印象に残っていないわけではありません。本当に良い経験となりました。しかし、このエコノミクス甲子園が素晴らしい催し物になったのも、ひとえに中原さんをはじめとする銀行員の皆様のおかげです。エコノミクス甲子園の一番の功労者は彼女たちであるということ僕は是非とも多くの人に知ってほしいと思います。特に印象深かったのはその気配りです。地方大会で出場者に話しかけて緊張をほぐしてくださった山口銀行の方々は僕は忘れません。全国大会においても中原さんは僕達をあたたく迎えてくれ、会場まで案内してくださいました。クール&ビューティーな印象の中原さんの放つハートフルな笑顔には心を奪われました。会場内でもことあるごとに声をかけて下さり、精神的に支えてもらったことを強く覚えています。また、中原さんをはじめとする銀行員の皆さんは僕達の面倒を見る傍ら、大会進行に尽力してくださいました。銀行員の皆さんのいないエコノミクス甲子園はもはやエコノミクス甲子園ではないでしょう。これだけ書くと銀行員の皆さんの偉大さが伝わったと思います。

最後になりましたが、中原さん、その節は本当にお世話になりました。ご迷惑をおかけしてごめんなさい。のりちゃんずは中原さんのことが大好きで、中原さんの御幸せを祈っております。



徳島大会代表 徳島市立高等学校 二年  
**加藤 彰人**

学校に掲示されていたチラシをきっかけに、僕は第10回エコノミクス甲子園徳島大会にエントリーしました。しかし、決勝に進むことはできなかったものの、首位に圧倒的な差をつけられて敗退しました。この時の悔しさ、第11回大会までの僕のエコノミクス甲子園に対する姿勢を変えたと思います。これまであまり興味を持っていなかった金融・経済について、積極的に学ぶようになりました。

しかし、第11回全国大会で僕を待っていたのは“全国の壁”でした。筆記も早押しも、思うように解答することができず、悔いの残る結果に終わってしまいました。経済に関する資料や、時事問題の対策だけでは補えない、実践的で、根本的な部分の理解が浅かったのだと思います。予選での敗退が決まったときは、応援してくださった方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

そして今、僕は全国大会を振り返り、様々なことを学べたと感じています。JALのビジネスプランを考える課題では、どうすれば飛行機を利用したことのない人に魅力を感じてもらえるか、真剣に考えることができました。また、他の都道府県の高校生と交流する経験も、大変貴重でした。

全国大会を終え、様々な思いがありますが、エコノミクス甲子園に参加してよかったということが、今の率直な感想です。エコノミクス甲子園への参加を通して学んだ金融・経済の知識を、社会の中で生





きるうえで、しっかり活用していきます。大会の運営にかかわってくださったみなさん、本当にありがとうございました。

徳島大会代表 徳島市立高等学校 二年  
小川 拓泰

ただ何となく出場した徳島大会。そして、幸運にも優勝し全国大会に出場できました。全国大会に出れてラッキーとぐらいにしか思っていなかった私は、全国の猛者達にただただ圧倒されるばかりでした。初日のJALのプレゼンについては事前に知っており心構えはできているつもりでした。しかし、いざやってみるととても難しくこういった企画を考えることを生業としている人をすごいと思いました。私達のグループもそんなに悪いものではないんだろうと思っていました。実際予選一位のグループと視点は似通ったところもありましたので。しかし、決勝のプレゼンを見てその思いは見事に吹き飛ばされました。東南アジアの生徒を顧客に取り込むという案も素晴らしいと思いました。やはり地域創生のマイレージがとくに素晴らしいと思いました。

プレゼンの後は夕食のパーティーを楽しみました。夕食はおいしく各地の物産品交換などをしたその流れであのやりかたで筆記試験は今となっては笑い話で済ませられますが、その時は驚きと怒りさえ感じました。

二日目は早押しクイズなどがありました。周りのレベルが高く答えられませんでした。敗者復活のリスクヘッジクイズではほとんど答えられませんでした。周りの人はかなり分かっていたみたいでつくづく自分の見積り甘さを実感しました。

敗退が決まってからは観客として見ていましたが、それぞれのクイズの形式がとても面白かったです。本当にクイズには実力と運、さらに決勝に関して言えば戦略も必要である優れたクイズであると感じました。

密度が濃く、忙しくて疲れた二日間でしたが、本当に貴重な経験をさせていただいたと感謝しています。また、経済への接し方も大会に参加する以前と以後では全く変わりました。この経験を生かしていきたいです。



香川大会代表 香川県立観音寺第一高等学校 三年  
高木 佑輔

エコノミクス甲子園に出るきっかけは、所属している地歴部での活動でした。観音寺第一は第4回以来、全国出場をしていなかったの、何とかして勝ち抜きたいと思い今年で3年目、やっと念願の東京への切符を手に入れることができました。その時の喜びは味わったことがなく今でも鮮明に思い出されるものとなっています。

しかし、いざ全国大会が始まると(陳腐な表現ですが)第一に周り

のレベルの高さに驚かされました。聞いたことのない言葉をすらすらと答えていく姿に、自分の勉強不足を痛感させられました。それでも何とか〇×クイズを勝ち抜き、準々決勝まで進むことができました。その後もレベルの高いクイズに答える皆の様子を見ることができ、貴重な経験ができた満足しています。

エコノミクス甲子園に参加した3年間で、自分でも大分知識がついたように思え、ニュースを見ること(食事の片手間だが)も増えました。これらの知識は今後生きていく中で十分に活用されるものだと感じます。

余談ですが、今回の勉強はセンター試験で使った現代社会の復習にもなり、この報告書を書いている今現在、無事志望大学に合格し、のんびり大会を思い出さずできています。来年からはスタッフとしてこの大会に携われれば、と考えています。楽しい2日半をありがとうございました。

最後になりましたが、今回参加するにあたって様々な協力をしてくださった金融知力普及協会・百十四銀行・スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

香川大会代表 香川県立観音寺第一高等学校 一年  
高木 明日実

「苦手な科目は？」と聞かれたら「社会！」と即答していた私がエコノミクス甲子園に出たのは、昨年、一昨年とこの大会に参加していた兄からの誘いがきっかけでした。

全国大会に参加して驚いたのは、地方大会とは段違いのレベルの高さ。県代表として恥ずかしくないように、と部活や課題の合間を縫って私なりに勉強したつもりでしたが、同室になった他県代表の先輩の書き込みと付箋がいっぱいのテキストを見て、勉強不足を痛感しました。

けれども相性の良い問題に当たったおかげで準々決勝まで進めたことは良い思い出となりました。敗退してから観戦していた、知識と戦略の両方が必要とされる準決勝や決勝は、見るだけで興奮して楽しかったです。あのゲームを考えた方たちやルールを数分で理解し作戦をたてた決勝進出チームは本当に凄いなと尊敬しました。

また、二日目に体調を崩してしまったのですが、スタッフさんたちの丁寧な対応のおかげで本番は目一杯楽しむことができました。有難う御座いました。

今回参加して対策を重ねたことは、現代社会や家庭科の授業の予習にもなり、普段聞き流していた政治・経済関連のニュースも自然と頭に入ってくるようになりました。また、ハイレベルな高校生たちや来賓の方々や交流できたことは、私の人生に於いてとても貴重な経験となりました。是非、これからもたくさんの人に参加して欲しいと思います。私も来年に向けて相方を探します！

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった金融知力普及協会の方々、大学生スタッフの方々、金融機関の方々、そしてチームメイトの兄に心より感謝しています。本当に有難う御座いました。



愛媛大会代表 愛光高等学校 二年  
兵頭 美咲

全国大会では様々な人と関わり、普段滅多にする事の出来ないであろう、貴重な体験ができました。とても楽しく、良い刺激となり、得たものは金融知力に留まらず多くあったのですが、その中でも私が最も強く感じたことは、いい意味でも悪い意味でも「努力した分だけ返ってくる」ということです。

経済に関する知識が皆無であった私でも、ある程度の勉強で地方大会は優勝できましたが、全国大会は予想していた難易度を遥かに上回るものでした。大会直前になって、昨年全国大会に参加していた先輩に作ってもらった「NO経済NO生命強化テスト」と問題集で必死に勉強するも、本番では全く良い結果を残すことは出来ませんでした。しかし、これは全国大会の問題がわからないものだからで、全く歯が立たなかったという意味ではありません。予選で敗退してしまったものの、その後答えられる問題もたくさんありました。自分たちが勉強してきたことは確かに身につけていたのです。もちろん大会での負けという結果には変わりありませんが、身につけた金融知力が今後の人生において役に立つことは少なくないと思います。

このように、エコノミクス甲子園を通して深く実感した「努力した分だけ返ってくる」ということを心に留めて、今後にも活かしていきたいです。

最後に、このような素晴らしい大会を運営して下さった金融知力普及協会、大学生スタッフの皆様、エコノミクス甲子園に携わる全ての皆様にとっても感謝しています。そして、経済について何もわからない私に一人から丁寧に教えてくれた先輩、こんな私とここまで一緒に頑張ってくれた相方の長谷川さん、本当にありがとうございました！

愛媛大会代表 愛光高等学校 二年  
長谷川 綾

つい3週間前なのになんだか昔のこのように感じるエコ甲。とはいえ密度の濃い3日間だった。

中間試験3日目を終え、空港に直行。空港では母と共に鯛めしを食べたり、飛び立つ飛行機を眺めたり、お土産を買ったり、俳句ポストに投句してみたりしてのんびりと過ごした。空港はいい場所だなと思った。夢と希望に満ち満ちた自分がいつも通過する場所。あの夏もこんなにきれいに晴れた青空だったなあ感慨にふけていた。わくわくした気分で、いざJALの飛行機で東京へ。東京には初上陸であった。大荷物を抱え移動。着いたら早速エコノミクス大会。ルールを理解するには時間がかかった。スタンダードデッキではない強いデッキには驚いた。

二日目。JALの方の説明はとても興味深かった。飛行機が運ぶものには非常に共鳴した。飛行機は人々の想いも運ぶ。当然私は

このプレゼンを上手くやろうと張り切っていた。地方路線で若者にもっと大都市を身近に感じてもらうっていうのを押していたが中々賛同が得られなかった。伝える力が大切だと常々思っている。友人喋っているときも然り。案が中々まとまらず、右往左往していた時、手ぶらでトラベルという案が出た。はじめて聞いたとき、これや!と思った。旅の準備は嫌いだった。着の身着のままで行けたらどれほどいいだろう。ただ掘り下げていくと、微妙なことが出てくるのだ。

プレゼンをし終えたあと質疑応答のときに答えるのに困った。んー悔しい。奇抜さを求めすぎるのはよくないだろう。上位のプレゼンを聴くともっと現実性があったと思う。折り合いが大切だ。

このように一番プレゼンテーションが心に残っている。自分の興味のある飛行機分野で非常に楽しかったし、よく考えた。その分うまくいかなかった悔しさは大きい。ただ航空業界に魅力を感じるようになった。

大会を通して、いろんなことを経験した。地方大会、幸運なことに優勝できた。東京にも行けた。伊予銀行のお姉さんと3人でとても楽しかった。愛光っていう学校の名前を胸にクイズをしたのは新鮮だった。決勝戦は観ているだけでハラハラした。クイズに懸ける情熱がすごいと思った。相方の兵頭さんとももっと仲良くなった。いろんな高校生と会った。本当にラッキーだった。もっと勉強しておけばと思った。これから先の愛光の後輩たちに優勝してほしい。



高知大会代表 高知学芸高等学校 三年  
岩崎 七緒

初めてのエコノミクス甲子園は、私にとって貴重な経験になりました。

高三ということもあり、受験勉強との両立が忙しくもありましたが、学校では習わないような内容についても触れる機会となり、さまざまな地方からきた友人たちと三日間過ごすことで、たくさんの刺激をもらえることもできました。

印象深いのはプレゼンテーションです。一つの議題について、少人数で徹底的に話し合うことは、さまざまな物の考え方が見えてきて、とても興味深く、翌日の本大会に向けてのモチベーションも上がり、友人も増え、とても盛り上がり楽しいものでした。

私は予選落ちしましたが、プレゼンテーションで知り合ったグループが決勝戦に進んでおり、ライバル達に向かって必死に考えている姿に感動もしました。

地方大会と違って、さらに見る視野が広がり、今後の生活にも生かされることだと思います。

たった三日間ではありましたが、帰らなければいけないのが名残惜しいくらい、思い出深いものになりました。

サポートして下さったスタッフの皆さん、仲良くしてくれた全国のみ



んな、楽しい時間をありがとうございました。  
またいつかどこかで会いましょう!

高知大会代表 高知学芸高等学校 三年  
**森下 勝**

エコ甲を振り返って、反省すべき事、自分の成長につながった事、沢山ありましたが、引率の四国銀行員の方、また大会運営の方に感謝申し上げます。大会を終え一番感じたのは、本当に経済の力を必要としている人、つまり貧しさやそれゆえに起こる争い、戦争などに苦しんでいる人がエコ甲に参加している訳ではないという事でした。もちろん、皆さんが同じ経済事情ではないですから、参加者の中にも経済的に厳しい家庭がいるとは思いますが、本当に経済の苦しみの中にある人が、経済のクイズに参加しようだなんて思う人は少ないでしょう。これはエコ甲を批判しているのではなく私たち参加者が考えなければならない問題ではないかと考えました。経済をただ知識の吸収に使うのではなく、これからの時代は経済を学ぶ者こそが経済で苦しんでいる者の気持ちを考える必要があるように思います。エコ甲を通して得られた物は大きいです。ありがとうございました。



福岡大会代表 福岡県立修猷館高等学校 二年  
**須賀 公平**

福岡大会で優勝し、全国大会に行くことが決定した後、僕は学校の勉強を捨てて、金融・経済の勉強に本腰を入れました。青い三冊の事前教材だけでなく、日経キーワード2017や経済用語辞典を購入し、大会前日まで読み込みました。

しかし結論から言うと完全に不発でした。理由は二つあります。一つは勉強していた範囲がかなり偏っていたことです。筆記試験を初めに見て驚きましたが、広い範囲から出題されていました。

二つ目は、自分と相方で勉強を分担していたことです。相方は保険、自分は金融経済と分担したことが功を喫して地方大会では優勝できましたが、全国大会ではそれが仇となりました。筆記クイズは二人別々で解かなくてはならないので結局個人で勉強する必要がありました。そんなこんなで、筆記&プレゼンでは14位。12位まで自動的に準決勝に上がれるのであと一歩でした。

ただ4チームによる決勝はとてレベルが高く、自分の勉強不足を痛感するとともに、同い年でもこんなにすごい人たちがいるのか、という刺激を得ることが出来ました。優勝したのは、同じ部屋の金大附属の二人でした。確かにぎゅーりと用語が書かれたノートを見てびっくりしていましたが、まさか優勝するとは思っていませんでした。大会前にはクラスメートが寄せ書きをくれたり、また大会本選もyoutubeで見てくれたり、こんなにもたくさんの人、先生、部

活のメンバー、家族に応援してもらったことはなかったので、そういう意味では大会の結果以上に大きなものが得られたなと感じています。本当に貴重な経験をさせていただきました。

スポンサーのみなさん、スタッフの皆さん、そして相方の吉本くんありがとうございました。

福岡大会代表 福岡県立修猷館高等学校 二年  
**吉本 力人**

全国大会に出場して感じたことは「レベルが高い」、これにつきます。問題は地方大会と比べて圧倒的に難しいと感じましたし、他の都道府県の代表の人達も、さすが地方大会を勝ち抜いてきただけあって非常にレベルが高い人ばかりが集まっていました。しかし、レベルが高いだけでなく、問題の形式も地方大会より楽しく参加できるようなものでした。

また、普段は決して関わる事のない他県の高校生とも交流する機会が多くありましたが、初対面にもかかわらず学年など気にせず気軽に話しかけてくれる人が多くて、すごく良い雰囲気だなと感じました。

僕は今回一緒に出場した相方と、前回の第10回大会にも出場したのですが、そのときは惜しくも全国大会には進めずに悔しい思いをしました。次こそは、と今回は早めに申し込み、早めに勉強にとりかかりました。その甲斐あって、去年の雪辱を晴らして全国大会に進むことができ、一層気合いを入れて臨んだのですがさすがは全国大会、事前に配布された教材だけでは全く歯がたたず、今回もまた悔しい思いをしました。来年は受験生なので出場できないのが残念ですが、来年以降出場する後輩たちに思いを託したいと思います。

最後に、相方をはじめ、地方大会・全国大会を共に戦った人達、応援してくれた友人達、そして、この大会を企画・運営してくださった方々、すべての人に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。



佐賀大会代表 佐賀県立致遠館高等学校 一年  
**山田 愛翔**

僕は今回、エコノミクス甲子園の全国大会に出場して多くの貴重な経験をすることができました。その中でも特に印象に残った経験は、2日目に開催されたプレゼンテーションクイズです。ここでは、JALに対する経営提言を行うという内容の課題が与えられました。僕たちは、限りある時間の中で出来る限りのプレゼンをしたつもりでしたが、結果は振るいませんでした。

その後、上位3チームの発表を聞いて、周りの人たちのレベルの高さに驚かされました。その中でも特にエコマネーを活用した経営提



言は、「飛行機に搭乗するお客様の人数を増やす」ということだけにとらわれていた、自分たちの発想とは一線を画すものであり、「知識を持っているだけでなく、それを実際に活用する」ということの大切さを強く実感しました。

また、3日目のクイズ大会でも、「ペティ・クラークの法則」や「FTAAP」など、僕が知らないようなことをすらすらと答えていく人たちがいて、全国の人の知識量に驚きました。

このように、僕はこの大会に参加して、今まで周囲の人としか比べてこなかった自分の金融・経済に関する知識を全国レベルの人と比べて、自分がまだまだたいしたことはない、ということを知ることができました。

この経験を活かし、今後も貪欲に学んで次回のエコノミクス甲子園に臨もうと思います。

佐賀大会代表 佐賀県立致遠館高等学校 一年  
**松尾 悠平**

僕は今回のエコノミクス甲子園に出場して、多くの貴重な経験を積むことができました。その中でも、特に有意義だったと思うことが2つあります。一つは、レベルの高い全国のライバルたちと切磋琢磨できたことです。2日目のプレゼンテーションクイズや3日目のホールで行われたクイズ大会で他の参加者のレベルの高さに、とても驚きました。それらを見て、自分に足りないことや自分がこれから努力していくべきことなどが少しではありますが、見えてきたと思います。もう一つは、金融・経済を学ぶモチベーションを上げることができたことです。僕は11月ごろにこの大会の存在を知って勉強を始めました。そこでは普段ならなかなか勉強しないような、けれども社会の中で生きる上でとても重要なことを学びました。今までは、興味がある本を時々手に取って読む程度でしたが、ハイレベルなライバルたちと競うことができる場を与えられたことで、最後までモチベーションを落とすことなく勉強を続けることができました。このように、僕はエコノミクス甲子園に参加して多くのことを学びました。多くの方々のおかげでこのような機会に恵まれたことを忘れず、今後も来年のエコノミクス甲子園に向けて、金融・経済の勉強を続けていきたいと思っています。



長崎大会代表 長崎県立長崎西高等学校 一年  
**山口 温大**

学校の廊下に張ってあったエコノミクス甲子園のポスターを見て、「クイズ大会に出たい!」という気持ちで出場したエコノミクス甲子園でしたが、全国大会まで出場し、本当に、たくさんのことを学ぶことができました。

まずはもちろん、金融知力。地方大会、全国大会に向けて、事前

学習教材や経済の本で勉強し、財政、金融、税、保険、投資...など今まで知らなかった多くのことを学ぶことができました。エコ甲に入る前も少しは経済に興味がありましたが、この機会に多くのことを知り、経済について考え、更に経済に興味を持つようにもなりました。身の回りの経済のことを考えるのも楽しみになったほどです。今回身につけた、この「金融知力」は、今後の世の中を生きていく上で、必ず役に立つと思います。

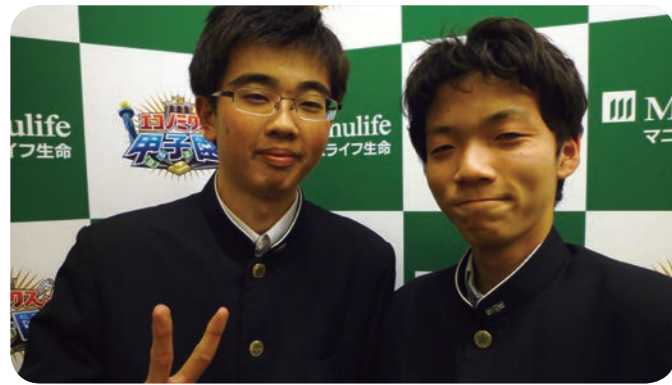
そして、全国大会では、人とのコミュニケーションも学ぶことができました。全国大会に集まった日本中の高校生のすごさに圧倒されながらも、多くの人と交流をすることができ、とても楽しく感じました。前夜祭では全国の高校生や銀行員の方と会話することもできました。そして、プレゼンラウンドでは、チームの高校生とともに、アイデアを出し合い、話し合いながら、プレゼンをつくりあげることができ、とても刺激になる貴重な経験ができました。このような素晴らしいとても充実した経験の機会を作ってください、本当にありがとうございました。また、奨学金の対象にも選んでくださり、本当に感謝しています。来年も、更に金融知力を身につけ、この全国大会にまた挑戦したいです。

長崎大会代表 長崎県立長崎西高等学校 一年  
**深松 恵杜**

今回、私がこのエコノミクス甲子園に参加したきっかけは、学校で担任の先生から紹介されて、「東京に行きたい」と思い、相方の山口くんに出てみようかと話し合っ出て出場することになりました。そして、まさかの全国大会の出場権獲得。嬉しかった反面、新たに配られたテキストを見て「本当に私に出来るのだろうか」という気持ちもあり、全国大会が近づくとつれてその気持ちも段々と強くなっていきました。

そして、ついに全国大会1日目。私達はエコノミクス大会に出るため早めに会場に行きました。そして、そこでまさかの9位。とても驚いたのですが、今思えばここが私のピークでした。2日目、JALラウンドでは、まず今北さんの講話を聞き、そしてプレゼン作り、「JALにどのようにしてはじめてのお客様を増やすか」というもので私には全くといっていいほどアイデアが浮かばず、また同じチームの人にアドバイスもできず、ただ意見を聞くに徹するしかありませんでした。そして、JALラウンドの決勝、私達は選ばれませんでした。上位3チームの発表を聞いて、私には全く浮かばないようなものばかりで発想力の違いをはっきりと感じました。そして前夜祭、私は勇気を出してご来賓の方や、各銀行の方と色々な話をしました。とてもためになるお話ばかりでこれからの生活に活用していきたいと思いました。またビンゴ大会では素麺が当たりました。とてもおいしかったです。そしてこのまま2日目終了かと思いきや、不意打ちの筆記テスト。地方大会とは比にならないくらい難しく、全く歯が立ちませんでした。やはり勉強不足だと思いました。そして、運命の本番、1stラウンドではチーム2人とも分からない問題に当たり解答できず、2ndラウンドへ。ここで私だけごとく間違え、足を引っ張ってしまいました。昼食時間中も自分の不甲斐なさをただただ責めていました。

3rdラウンドではかなり助けてもらい、なんとか勝ち残り準々決勝へ。ここでも解答できず敗退しました。準決勝からはほとんど知らない言葉ばかりで次元が違うと思いました。今回のエコノミクス甲子園を通して、金融知力はもちろんのこと、人と協力することの重要性、自分から行動していく積極性がこれからの将来においても大切だと改めて感じました。まだどうなるかわかりませんが来年の大会に出場出来るのなら、今回の結果よりも良い成績になるよう努力したいと思っています。最後になりますが、十八銀行の皆様、金融知力普及協会の皆様、学生ボランティアの皆様、その他関係者の皆様、今回は良い経験をさせて頂き本当にありがとうございました。



熊本大会代表 熊本県立八代高等学校 二年  
橋本 信朗

私がエコノミクス甲子園の存在を知ったのは5月ごろの事でした。ここ数年、熊本大会が実施されていないという残念な事実を知ったのもその時でした。ですから、ネット大会の参加しか無いと思いつつ、8月ごろだったかもう一度ホームページを見たところ、熊本大会が実施されるということで、参加を即決しました。

普段は歴史を偏愛する相方も参加を快諾し、県大会は余裕だという謎の自信にも支えられたのでしょうか、無事に全国大会の出場が決まりました。と、そこまでは良かったのですが、だんだんと地方大会の結果が公開され、各都道府県で一番だろうと思われる学校名が続々と並ぶのを見て焦りました。初参加でどんな問題が出るかもあまり分からなかったため、十分かは疑問がありましたがFPの参考書で対策することにしました。

さて、全国大会の話です。1日目は宿舎の同室が長野県の方々とお互いに田舎でよかったと安心したことが一番記憶に残っているように思います。いつ本番に直結するクイズがあるか分からず怖かったので、他の記憶が曖昧にしか残っていないように思います。2日目のプレゼンテーション作成でも同じチームとなる人でしたので過ごしやすかったように思います。ところが、そのプレゼンテーションでは私がやりやすいように途中から強引に押し進めた気がしないでもない、いくらか同じチームだった人たちに申し訳なく思っているところ。そして何とも衝撃だったのが筆記テストでしょうか。なぜかその日は非常に眠かったので、21時からの実施に全国大会とはかくも苦しいものだったろうかと思っていました。3日目の本番では最初の早押しクイズで早速通り(?) 準々決勝までの確約権からは漏れて、2回戦でその進出を決めました。準々決勝では1問間違えたが為に第2グループの5位で準決勝には進めませんでした。たぶんもう二度とFTAAPは忘れないだろうと思います。地方大会参加前から、せめて入賞はしたいと思っていただけに悔しかったです。

今回この大会に参加しているんなことに手を出しました。税法を読んだり、簿記をやってみたり、資産運用についての本を読んだりしました。結果は満足いくものではありませんでしたが、この大会で学んだそういった物事はいつかきっと役に立ってくれると思うので、参加の意義はあったかと思えます。最後に、受験との兼ね合いが可能ならば来年も参加したいと思っています。そのために、第12回大会も熊本での地方大会開催を期待しているところです。

熊本大会代表 熊本県立八代高等学校 二年  
杉原 諒

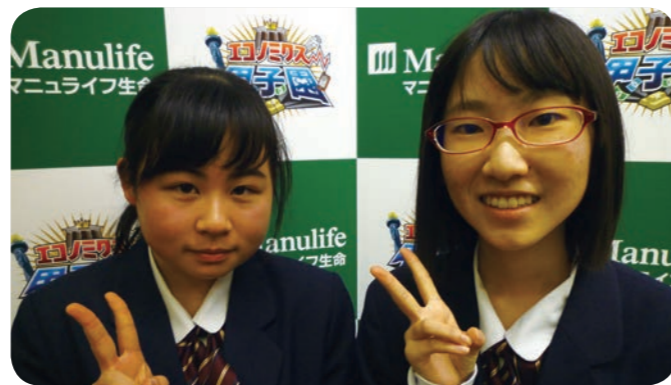
2月3日私は、エコノミクス甲子園への期待と不安を抱きながら羽

田行きの飛行機に乗って東京へと向かいました。気分も晴れ晴れするくらいに晴天で、富士山もよく見えました。そして、宿舎へ到着しました。エコノミカ大会の会場には、すでに、多くの高校生が集まっていた。みんな頭が良さそうに見えたのは言うまでもありません。

次の日、多くの時間をかけてチームごとにプレゼンを作成しました。こんなに長い時間、議論し意見を出し合うのは初めての体験で、貴重なものでした。また、このプレゼン作成も含めて違った環境で過ごしている高校生たちと話すこともでき、とても楽しかったです。筆記テストもあんな時間に受けるのは初めての経験でした。

最終日、いよいよ全国大会らしくなってきた。ここまで来ることができて、本当に良かったと感じました。なにより、全国の高校生や大学生スタッフの皆さんやスポンサーの皆さんとお話して、人との出会いやコミュニケーションの大切さを感じました。また、この全国の舞台では、あと一歩踏み込んで勉強しておけば良かったと悔やむことも多く、結果も、もう少し頑張っていたらというものだったので、終わった頃には、受験を投げ打ってでも来年も出ようかなと考える自分がいました。

最後に、わざわざ熊本までいらして、熊本大会を開催していただいた金融知力普及協会の方々に感謝するとともに、是非ともこの素晴らしい大会を広めるために、第12回大会以降も熊本大会を開催していただけたらと思います。



大分大会代表 大分県立安心院高等学校 二年  
荒金 那奈子

大分県大会を勝ち抜いて全国大会に出場することができ、とてもいい経験をすることができました。私は世界史の授業の時、先生が「こういう大会があるんだけど出てみない?」と言われたことがきっかけで応募してみました。初開催の大分県大会で優勝して全国大会に行けたことはとても光栄なことです。

そして全国大会一日目、到着したらエコノミカ大会は始まっています。ですが、最終ラウンドには間に合い一回だけ参加することができました。あまりカードゲームなどしないので心配だったのですが楽しくゲームすることができました。

二日目、プレゼンテーションでは『JAL×初めて』ということで今までJALを使ったことがない人に対してどうやったら使ってもらえるかということグループ別に考えました。私はあまり役に立つことができませんでしたが、とてもいいものができました。その後の前夜祭もいろいろな方とお話することができてとてもいい経験となりました。

三日目、全国大会当日は私たちのペアは全然いい結果を残すことができませんでしたが、あんな大舞台になかなか立つことはないです。

私はこの大会を通して経済についてもっと知りたいと思いましたし、

ニュースを今まで以上に見たいと思うことができました。今後社会に出たときに役立てていきたいと思っています。

大分大会代表 大分県立安心院高等学校 二年  
尾立 和香

私がこのエコノミクス甲子園を知ったきっかけは、授業の際に担当の先生から教えていただいたことからでした。私は進路を教育学部か文学部を希望していましたが、より広い知識を少しでも身につけることができたいと思い参加を希望しました。正直あまり自信もなく、このような大会などで大きな成績を残したことはなかったので、全国大会に進出することが決定した時は信じられない実感も湧かず、不安が募る一方でした。ですが、地方の高校で勉強しているため、都市圏や他の地方の同年代の方々の様子がわかる機会はこれから先ないだろう、これはいいチャンスだ。と思い、全国大会に参加しました。1日目は遅くについたのですが、全体が集まって初めて、「この人たちと一緒にこの3日間過ごすのか」と実感が湧き緊張しました。またどの高校の方も地方大会を勝ち上がった人達ということで迫力があり、気後れしてしまいました。2日目は、JALのマーケティングプランを各グループで考えてプレゼンするというもので、他の高校の人どうまく連携していけるのか、話についていけるか…と非常に緊張しましたが、話し合いを重ねた結果、無事に出来上がりました。とても難しいお題で、こんな本当にできるのだろうか、と始める前は思いました。残念ながら私たちのグループは予選落ちしてしまいましたが、やりきった後の達成感はとてもいいものでしたし、なにより同じグループの皆さんの考え方や話の内容などに圧倒されっぱなしでした。同じ2年生の方がほとんどでしたが、本当に同学年なのかとずっと思ってしまいましたし、予選通過の3チームの方々も想像していたレベルとは大きく異なり、自分の席で話を聴いていても「すごい…」しか考えられず、終始感心していました。そこで、自分がいかに低いレベルに居るか、こんなはまだ氷山の一角に過ぎないだけで、まだまだすごい人たちが全国にはたくさんいるんだろうと衝撃を受けました。前夜祭では、他校の方との交流を少しですがすることができて、いろいろな話を聴くことができました。しかしその後の筆記では、全くとっていいほど点を取ることができず、翌日の大会に対しての不安がまた一気に押し寄せ、かなり焦りました。そして迎えた3日目のホールでの大会。予想していた通り、ほとんど何をすることもなく予選敗退。敗者復活でも振るわず、あとは客席からずっと観ていました。すごく不甲斐なかったし、もっと勉強すればよかったと後悔していました。自分の情けなさ、無力さなどがいろいろと湧き出てきましたが、この大会を最後まで楽しむことができたと思います。仲良くなった子を最後まで応援したり、問題を一緒に考えてみたり、観ているだけでも、とても勉強になった有意義な時間だったと思います。この3日間はとても短かったですが、自分にとって貴重な時間であったと思います。この大会を通して、多くの知識、全国の高校生のレベルの高さ、そしてこれからの自分の勉強に対する意欲など、様々なものを得て、知ることができたと思います。この経験は、今後の学校生活においてだけでなく、日常の場面でも生かされてきていると思います。大会に出るまではあまり見ることもなかった経済関連のニュースにも目を向けるようになり、少しずつではあるけれども理解が深まっていると感じます。このような場を紹介してくださった先生、応援してくれた友人、そしてスタッフや協会の皆様に、厚くお礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。



宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 二年  
山口 博将

私にとってのエコノミクス甲子園全国大会は振り返ってみると、「つながり」と「感謝」を感じさせてくれた大会だったと思う。

1日目のエコノミカ大会では勝ち負けを競い合い、ギリギリの試合が多く、その度にコミュニケーションが弾み、楽しむことができた。

2日目のプレゼン作成では、福島・仙台第一・浦和の3校と合同で取り組んだが、おそらくほかのどの班よりも打ち解けていたのではないだろうか。入賞はできなかったものの、強い「つながり」を感じる事ができた。また、前夜祭では多くの方と話すこともでき、少なくともこれだけの方が関わっている大きな大会だということに認識した。

3日目の本番は、前日の筆記からの緊張と、前日までの仲間と競い合うことに対する複雑な気持ちでいっぱいだった。しかし、そうばかりは言っておられず、自分たちの出番では堂々としていられた。地方大会の時から見玉さんに大きく助けをもらいながらだったので、とても感謝している。

この大会を通して、陸の孤島と呼ばれる宮崎からは遠く離れた地域の高校生とつながりを持てたことは、私にとっては大きな思い出となった。もしかすると、またどこかで再会するかもしれない。次に会うときはもっと成長していきたい。そう思いながら宮崎に帰ってきた。このような機会をくれた金融知力普及協会様並びに大会運営のスタッフの方々、金融関係者の方々など大会に関わった皆様、本当にありがとうございました。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 二年  
児玉 優希

全国大会と名が付くものに出場したのは初めてだったため、大会中はずっとワクワクしていました。大会2日目のJALラウンドから話を始めます。初めましての人と一緒に初めてのプレゼンを作ったことで、私の脳がとても喜んだことは言うまでもありません。グループでプレゼンをする際に重要なのは、各人の性格や能力に応じて仕事をし、それをやりきるのだと思います。我々のグループは異次元のチームワークの良さを発揮しましたが、本戦には届きませんでした。大会3日目には、2日目に仲間だった人たちがライバルに変わりました。しかし、ライバルではありましたが、プレゼンチームのことはしっかり応援させて頂きました。自分のチームの出番の時はワクワクで頭がいっぱいで、プレゼンチームの出番の時は応援することで頭がいっぱいで、おかしい話ですが、自分の時よりも他人の時の方が緊張しました。結局我々は予選敗退に終わりました。それでも私は、状況を悲観しませんでした。なぜならば、宮崎第一には、我々の結果をきっと超えてくれるであろう期待できる後輩がいるからです。自分は後輩のために何が出来るのか。後輩への確かなアドバイスをするためにも、自分の身を



守るためにも、これからより一層金融知力の勉強に励むことを決意した次第です。最後になりましたが、エコノミクス甲子園に関わった全ての方、宮崎第一を応援してくださった方、本当に有難うございました。



鹿児島大会代表 鹿児島県立鶴丸高等学校 一年 松藤 義尚

正直に白状します。私がエコノミクス甲子園への出場を決意した最大の理由は、「東京に行きたかったから。」というものでした。実は私、この大会まで東京に行ったことがないどころか、九州から出たことも皆無。未踏の地・本州にいざ旅立たんという非常に不純かつ自己中心的な動機で出場した僕が、エコノミクス甲子園を通して以下に成長したかをこれから書きたいと思います。

一日目は、エコノミカを楽しみそのまま就寝。二日目に私たちを待ち受けていたのは、見知らぬ他県代表の方との共同プレゼン制作でした。人見知りの私はかなりビビっていましたが、他県の先輩方が議論をリードしてくださり、私自身も少しずつ話の輪に入れるように。ベスト3には届きませんでしたが、初対面の人と約5時間で一つのものを作り上げられたことは大きな自信になりました。

三日目、いよいよ本大会。私もかなり勉強してきてはいたのですが、知らない用語の嵐。第3ステージではあと一步のところまで行きましたが、準々決勝に進むことはできませんでした。失意の中で他県の戦いを見ると、一人ひとりの方が時間をかけて対策を重ねてきた様子とその戦いっぷりから感じられました。「自分にはまだ努力が足りない。」

自覚した私は、現在すでに来年の大会へ向け対策をスタートさせています。本州上陸だけを目的としていたあの頃の私はもうここにはいません。残念なことに、日本の若者の金融知力は他の先進国に比べて低い状況です。「東京に行きたい!!」最初はそんな理由でもいい。多くの高校生が、エコノミクス甲子園に出場し、金融知力の重要性に気付く、それを周囲に還元してほしいと思います。まあ、来年は私たちが優勝させていただきますが。最後に、今回このような素晴らしい経験をさせてくださったすべての方々、来年もともに戦ってくれる相棒に、この場を借りて感謝の気持ちを申し上げます。

鹿児島大会代表 鹿児島県立鶴丸高等学校 一年 植村 要

僕は、鹿児島県代表として第11回エコノミクス甲子園に参加させていただきました。今までクイズに関わったことがなく、何しろ初めての東京で、1週間前からずっと緊張していました。今、こうしてエコノミクス甲子園を回想している僕の心には楽しかった記憶と少しの後悔が思い出されます。不思議なことに、僕が1番の名場面と思っているのは、2日目のプレゼンの準備です。最初は話し合いが順調に進み、時間が余るとたかを括っていました。しかし僕たちのアイディアは、実際にも行われているものでした。残り時間がなく、焦りよりも絶望が広がる中、僕は高校生の底力を見た気がしました。

あつという間に次のプランが出来上がり、それぞれが自分なりの役割を果たして、遂には新しいアイディアでプレゼンが完成しました。あの時の感動は忘れることはないでしょう。さて、話は変わりますが、僕はあの素晴らしい3日間を過ごすにあたって、一つ後悔があります。それは僕自身の勉強不足です。さすがは全国の猛者が集まっただけあり、自分の知識の薄さに気づきました。まだ1年生だったからという言い訳もできないほどでした。相方にとっても申し訳ない気持ちでいっぱいでした。ただ、これだけは宣言させていただきます。「絶対に、来年、優勝しに行きます!」では、また勉強し直します。



沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 一年 久米 智尋

私がエコノミクス甲子園を知ったのは中3の頃、校内の廊下のポスターでした。その当時ちょうど経済に興味を持ち始めた頃で気になってはいたもののどうせ無理かな、と記憶の隅に追いやっていました。そして高1になり参加資格があるにも関わらず尻込みをしていた私に「経済に興味あるよね?」と声を掛けてくれた相方。今回全国大会に出場することが出来たのは相方のおかげです。地方大会では参加者のほとんどが高2・高3生の中、ビギナーズラックで優勝し、全国大会へのチケットを手にした私達でしたが全国大会でもこの幸運に恵まれました。プレゼンではくじ運に恵まれ素晴らしいプレゼンを行うことができ、ペーパーテストの結果はあまり芳しいものではありませんでしたが、3日目の本大会を予選9位



で通過することができました。敗者復活戦の「一蓮托生〇×クイズ」は観覧席で見えていましたが一問目で間違えてしまい本当に勝ち抜け出来たことに相方と2人で胸をなで下ろしました。最終的に準々決勝敗退という結果で終わってしまいましたが、今の実力を最大限に出し切ることができたのでこの結果に悔いはありません。問題が難しくなるにつれてルールも複雑になっていき、1日目に行われたカードゲームを模した「エコノミカ」や部品を買いスマホを組み立てる心理戦を組み合わせたものなど見ていて飽きることもないので楽しく見ることができました。

また、今大会ではエコノミカ大会や前夜祭として行われた立食パーティー、お名前ビンゴなど交流の場が多くあり、他の高校生や銀行員の方とお話出来たことが嬉しいです。友達も増え、得るものが多い大会になったと思います。今回は運で出場した全国大会でしたが、来年は実力でここまでして優勝を狙いたいです。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 二年 平良 世良

県大会を優勝できたのは偶然が重なった奇跡でした。ちょうどテスト期間の後で、まともに勉強出来たのは前日のみ。なんとか予選3位で通過したものの、決勝最終問題直前では漢字のミスで正解ならず、私は半ば諦めていました。しかし、最終問題を聞いたとき、「ベーシックインカム」私は今日この一言を書くために此処に来たのだと思いました。おばあちゃんが教えてくれたおかげです。ありがとう。優勝したというよりは優勝してしまったという感じの県大会。全国大会はほとんど記念のようなものつもりで参加しました。エコノミカ大会、JALラウンドのプレゼン、サプライズの筆記テストを経て、3日目。早押しクイズが一回あっただけでその時点で上位12位の準々決勝進出が決まると聞いて驚きました。前日の筆記テストに相方共々自信がなく、多分無理だろうな、と思っていました。しかし予選を9位で通過、なんと準々決勝まで出てしまいました。相方と二人で話したところJALラウンド3位が効いたのだらうという結論になりました。良いグループに恵まれたと思います。くじ運に感謝して、Lグループの皆さん、本当にありがとうございました。

結局私たちは準々決勝で敗れ、その後は応援しつつ見ているだけだったのですが、ユニークなクイズ方法や、笑いあり涙ありの展開で楽しむことが出来ました。今回高校一年生の女子チームは私たちと東京代表のみでしたが、皆さん学年、性別隔てなく接してくださり、とても過ごしやすいかったです。

記念のつもりで出場した全国大会でしたが、またここに来たいという欲が出てしまいました。そしてあわよくば優勝したい。それは相方も同じだったようで帰りのJALの飛行機のなか、「また来年も出ようね」と鬼に笑われそうな約束をしました。また来年、今度は運でなく実力でこの場所に来れるよう精進して行きたいと思います。



インターネット大会代表 甲陽学院高等学校 二年 長岡 将太郎

多くのエコノミクス甲子園参加者がこう口をそろえて言う。「エコノミクス甲子園は私にとって貴重な経験となりました」と。参加前、私はこの言葉を単によくある感想としてのみとらえていた。しかし実際に参加してみると、私もまた他の多くの参加者と同じ感想を抱いた。すなわち、エコノミクス甲子園はまさに「貴重な経験」となったのである。以下は自分が大会の中でも特に印象に残ったことを書き記していく。私の拙い感想文によって、未来のエコ甲参加者が一人でも多くなれば幸いです。

大会二日目のプレゼンテーションクイズは本当に新鮮なものだった。他の学校の生徒—それも地方大会を勝ち抜いた精鋭である—とのディスカッションには今までにない楽しさがあった。意見を出し合い、時に衝突し、最後は皆が力を合わせて一つのプレゼンを作り上げる。この過程で私は、他校の生徒がいかに優秀か、そしていかに熱意を持っているかを実感した。「将来自分も成長して、彼らと渡り合えるような人材になる」そう決意させる瞬間でもあった。大会三日目、私のチームは幸いにも準々決勝への出場権を獲得した。プレゼンでの最終結果が二位であったことが良かったのである。準決勝に進もうと意気込みつつ、準々決勝の舞台に立った。そこで私は大きなミスをする事となる。絶対に間違えてはいけない重要局面で、簡単な問題を間違えてしまったのだ。こうして私にとってのエコノミクス甲子園全国大会は終わりを告げた。しかし大会終了後の私に残ったのは悔しさだけではなかった。大会を通じて得た金融知力、そしてここでは書ききれないほど数多くの経験は私の中に残り続けるのである。

最後に、こんなにも貴重な機会を私たちに提供してくれた大会参加者の皆さまには深く感謝申し上げます。今後この素晴らしい大会がさらなる発展を遂げることを切に願っております。

インターネット大会代表 甲陽学院高等学校 二年 田中 蒼斗

1日目、相方が2月3日は節分だからと言って、移動の新幹線の中で恵方巻を食べ始めたことにまずは驚きました。宿舎に着いた時には既に22時近くになっていたため、その日はガイダンスを受け、お風呂に入り眠るだけでした。まだ全国大会の実感が湧かないまま1日目は終わりました。2日目、ランダムに分けられた4組1チームで、JALからの指令に対してプレゼンを作成しました。作業時間は、昼食休憩も含めて約6時間でしたが、その6時間が長いのかそれとも短いのか最初は分かりませんでした。各チームごとに割り当てられた部屋に入ると、まずは自由な意見を出し合うことから始めました。そして、次第に一つの意見





へと集約させていく所までは、思っていたよりもスムーズに進みました。しかし、それを他人に伝えるプレゼンという形へ変える所で停滞してしまい、最終的には終了時刻の間際で完成しました。初めて出会った人とチームを組んでプレゼンを作成する、ということは非常に良い経験になったと思います。プレゼンが終わり、前夜祭も終わって、後は明日に備えて休むだけだと気を緩めていると、突然筆記テストが始まりました。プレゼンと前夜祭で疲れたためか体調を崩していたため、結果はあまり良くなかったと思われます。

3日目、体調はあまり回復しないまま全国大会の会場へ向かいました。今まで全国大会のような場に立ったことが無かったため、酷く緊張してしまうのではないかと考えていたのですが、実際、当日になってみると自分の体調に気を向けることで精一杯になり、むしろ緊張している余裕がありませんでした。これには自分でも驚きました。結果は、前日のプレゼンとテストが思いの外良かったためか準々決勝へ進みましたが、そこで敗退してしまいました。

インターネット大会、全国大会のために配布されたテキストで勉強していくうちに、自分が知らないことの多さに気づかされました。それらはこれから社会で生きていく上で必要となる知識ですが、もしこのエコノミクス甲子園に参加していなければ、それらを知らないということさえ気づくことができなかつたと思います。知らないこと、知っておくべきことに気づく機会を与えてくれたエコノミクス甲子園には感謝しています。



中国代表 上海甘泉外国語中学 三年 童 菲

私は書類審査でこのエコノミクス甲子園に参加できましたが、各地方大会から勝ち抜いてきた代表者たちほど実力もなく、クイズ大会そのものにも未知でした。一か月前に配られた資料十七冊とエコノミクスを私は一から理解しようと努めましたが、クイズ大会のための効率的な勉強ではなかったです。本番の大会では自分の知識の不足を痛感しました。このままだと日本へ留学した時、もっとレベルの差を感じる事が怖いです。これからはその怖さを大切にしながら、努力を積み重ねていこうと思います。

私は大会で熱く戦っている日本の高校生たちを尊敬するばかりでした。弾力を蓄積している弓のように、みんな自信満々で、夢や希望に満ちていました。私は敗者決定になっても、見ているだけで楽しくて、手が赤くなるほど拍手をし、ドラマを見るように一分一秒も見逃したくない気分でした。

今回は初めての中国代表として、注目されたり取材を受けたりして、とても貴重な体験をしたと存じます。大会だけでなく、NHKスタジオパーク、花王工場、朝日新聞、日本銀行、東京証券取引所、貨幣博物館など数々の見学をさせていただきました。そして渋谷で鍋を、築

地で大好きな刺身をごちそうになり、とても幸せです。沖縄の大学生たちにも仲良くコミュニケーションすることができて本当に良かったです。水谷さんと金融知力普及協会の皆さんとスタッフの末武さんと岡本さんに大変お世話になりました。ここで感謝の意を伝えたいと思います。

東京の寒さを吹き飛ばす暑いエコ甲を、今度はスタッフとして楽しみたいですね。その時にまた、今回出会った優秀な代表者たちや優秀なスタッフ、そして優しい協会の皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

今回は本当にいろいろとありがとうございました。

中国代表 上海甘泉外国語中学 三年 伏 詩宣

今回は初の外国チーム、中国代表としてエコノミクス甲子園に招いていただき本当に感謝しています。学生スタッフの皆さん、金融知力普及協会及び銀行の皆さん、対戦相手の高校生の皆さん、本当にお疲れ様でした。とても楽しかったです。

最初、事前学習用の資料が届いたとき、正直に言うとうっかりしました。こんなに来るとは思わなかったです。一瞬大会まで読み終えるかどうかの心配もありましたが、パンフレットを開いたら思ったほど難しくなくて、内容がとても分かりやすかったです。保険のことだったり、貯金のことだったり、「金融」という言葉は以前ずっと自分とは無縁の遠い存在だと思っていましたが、まさかこんなにも私たちの生活に関わりを持っていると思うと、とても楽しく勉強することができました。

私にとって、今回は初めてのクイズ大会です。日本人はクイズが得意なイメージがあるので、勝てるかどうかの前にまず一番早くボタン押せるかどうか心配しました。結果、第一ラウンド運がついていて10ポイントが取れてうれしかったです。

最終的に準々決勝にも入れなかったですが、今回の大会で日本各地の選手と切磋琢磨ができ、良い刺激となりました。金融のことについても詳しく勉強できましたし、友達もできました。とてもいい体験となりました。ありがとうございました。できればこれからは中国大会も増やして、もっと多くの中国の高校生たちにも金融・経済について知ってもらいたいです。

エコノミクス甲子園最高！



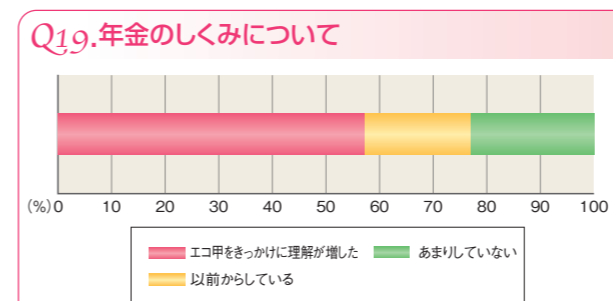
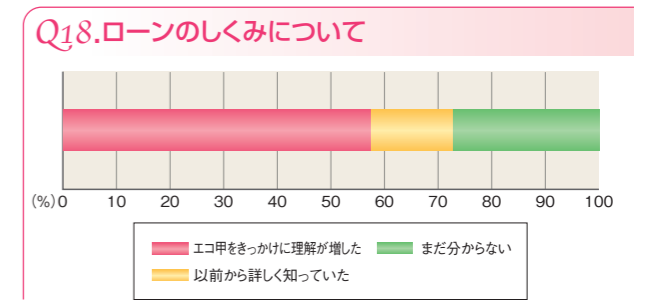
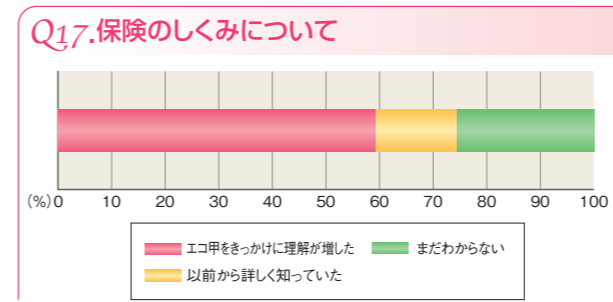
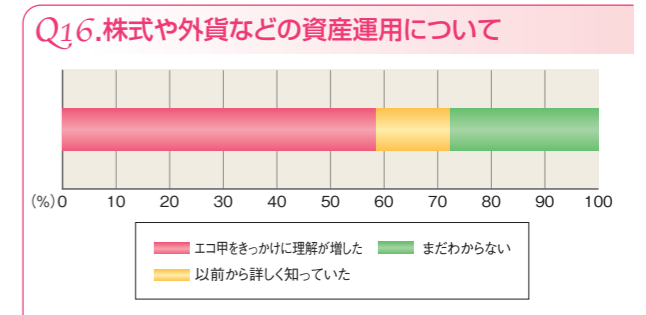
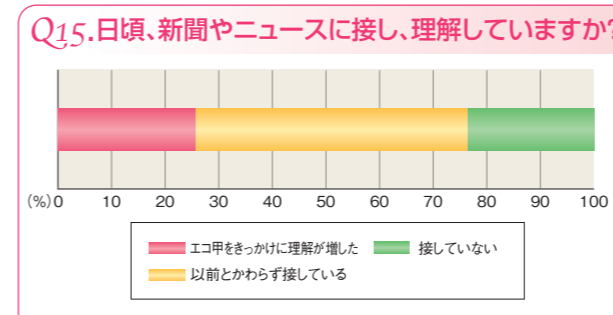
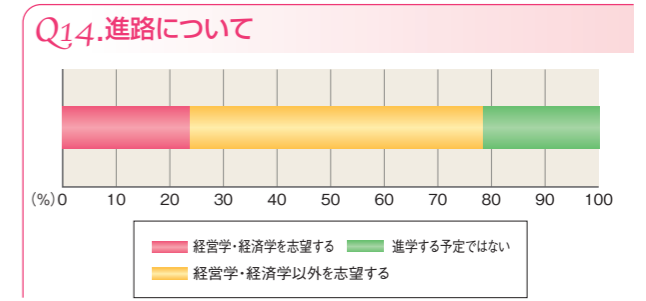
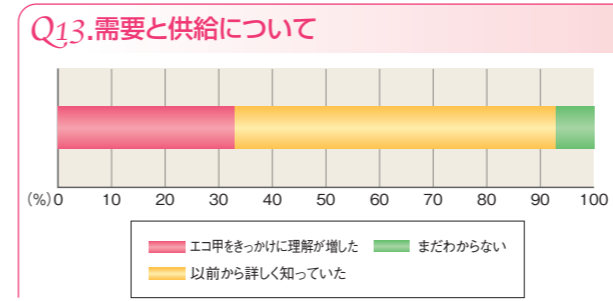
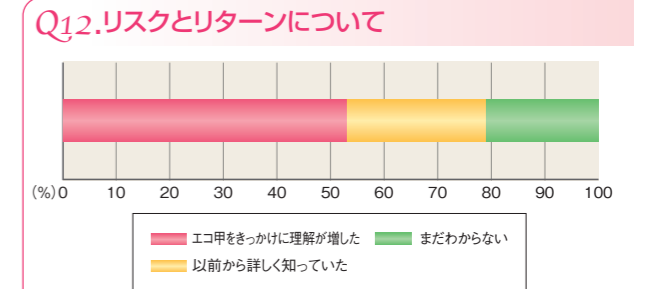
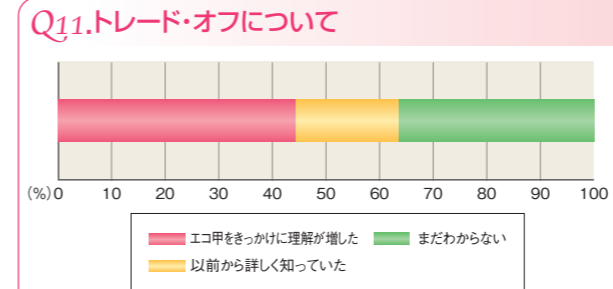
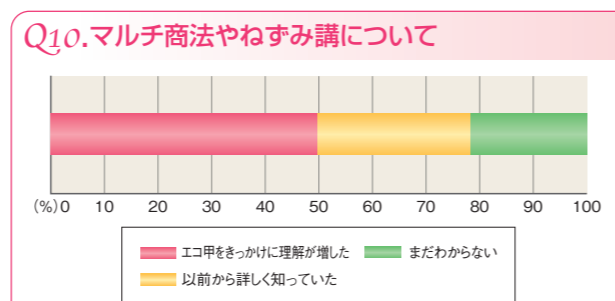
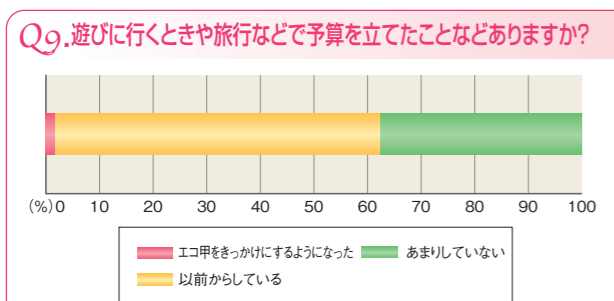
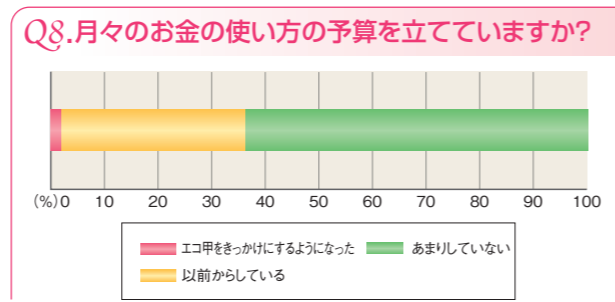
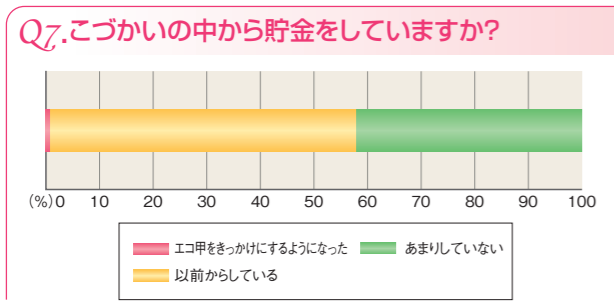
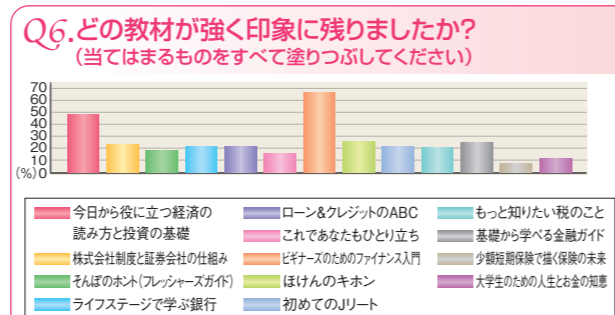
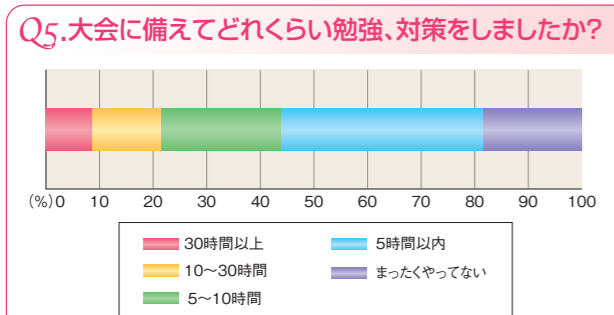
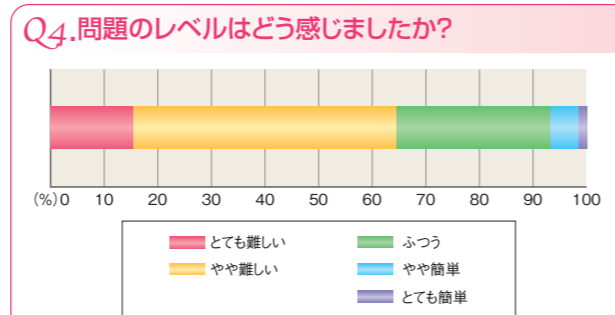
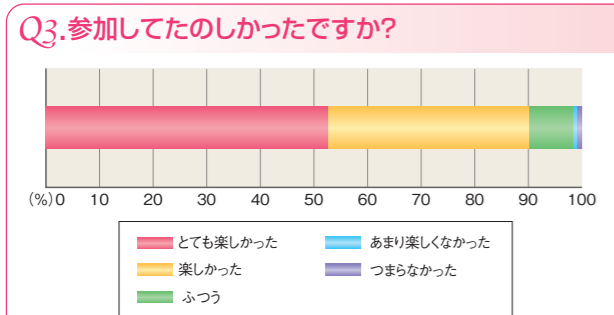
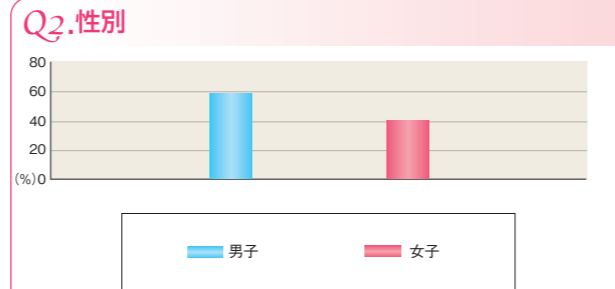
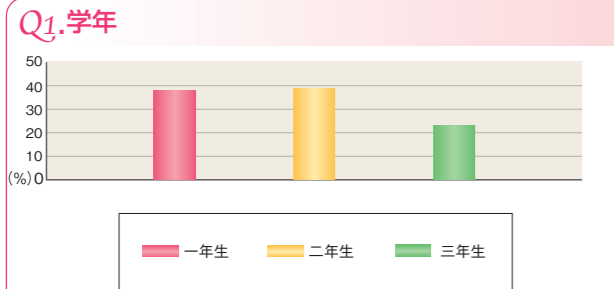
エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。

単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティ) シティホームページ <a href="http://www.citigroup.jp/jp/">http://www.citigroup.jp/jp/</a></p>	 <p>■ ビギナーズのためのファイナンス入門 (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>	 <p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ <a href="http://www.shiruporuto.jp">http://www.shiruporuto.jp</a></p>
 <p>■ ライフステージで学ぶ銀行 (作成:寄贈:全国銀行協会) 全国銀行協会ホームページ <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>	 <p>■ ローン&amp;クレジットのABC (作成:寄贈:全国銀行協会) 全国銀行協会ホームページ <a href="http://www.zenginkyo.or.jp">http://www.zenginkyo.or.jp</a></p>
 <p>■ そんぼのホント(フレッシュャーズガイド) (作成:寄贈:日本損害保険協会) 日本損害保険協会ホームページ <a href="http://www.sonpo.or.jp">http://www.sonpo.or.jp</a></p>	 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成:寄贈:日本証券業協会) 日本証券業協会ホームページ <a href="http://www.jsda.or.jp">http://www.jsda.or.jp</a></p>
 <p>■ ほけんのキホン (作成:寄贈:生命保険文化センター) 生命保険文化センターホームページ <a href="http://www.jili.or.jp">http://www.jili.or.jp</a></p>	 <p>■ 初めてのJリート (作成:寄贈:不動産証券化協会) 不動産証券化協会ホームページ <a href="http://www.ares.or.jp">http://www.ares.or.jp</a></p>
 <p>■ もっと知りたい税のこと (作成:寄贈:財務省) 財務省ホームページ <a href="http://www.mof.go.jp">http://www.mof.go.jp</a></p>	 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成:寄贈:金融庁) 金融庁ホームページ <a href="http://www.fsa.go.jp">http://www.fsa.go.jp</a></p>
 <p>■ 少額短期保険で描く保険の未来 (作成:寄贈:日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会ホームページ <a href="http://www.shougakutanki.jp">http://www.shougakutanki.jp</a></p>	 <p>■ 外資系運用会社が明かす投資信託の舞台裏 (作成:寄贈:ドイチェ・アセット・マネジメント) ドイチェ・アセット・マネジメントホームページ <a href="https://funds.deutscheam.com/jp/Home">https://funds.deutscheam.com/jp/Home</a> ※全国大会出場者へ寄贈していただきました。</p>







大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
北海道 渡島・檜山 地区予選		函館新聞社 北海道新聞社	
北海道 十勝地区予選		十勝毎日新聞 北海道新聞 帯広支社	
北海道 オホーツク地区予選		北海道新聞	経済の伝書鳩
北海道 釧路・根城 地区予選		北海道新聞社 釧路新聞社	
北海道 石狩・空知・後志・ 日高・胆振地区予選	J:COM	ニッキン	
北海道	HBC(北海道放送) J:COM	北海道新聞 十勝毎日新聞 函館新聞 ニッキン	
青森	NHK	東奥日報社 デーリー東北新聞 社	
秋田	ABS (秋田放送)	秋田魁新報社	
山形		山形新聞	
福島	福島中央テレビ (司会協力) 福島テレビ	福島民報新聞 福島民友新聞社	
茨城	ACCS (つくばケー ブルTV)	茨城新聞社 常陽新聞	
栃木	とちぎテレビ	下野新聞 朝日新聞	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞	
埼玉		埼玉新聞	
千葉		千葉日報	
新潟		新潟日報	
富山	北日本放送 富山テレビ チューリップテレビ	北日本新聞 北陸中日新聞	
石川		北國新聞社	
福井	福井放送 福井テレビ	福井新聞	
山梨		山梨日日新聞	
長野		長野市民新聞 長野日報 信濃毎日新聞	
岐阜	東海テレビ 名古屋テレビ 岐阜チャンネル CBC	岐阜新聞	CCN



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、  
各社様のご支援により成り立っています。  
感謝の思いを含め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



ゴールドスポンサー



シルバースポンサー



ブロンズスポンサー



オフィシャル エアライン





Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様

2月4日(土)

日本航空株式会社 コーポレートブランド推進部 アシスタントマネージャー <b>今北 恭平 様</b>	日本航空株式会社 コーポレートブランド推進部 部長 <b>小西 一史 様</b>	神田外語大学 外国語学部客員教授 <b>安達 精司 様</b>	ドイチェ・アセット・マネジメン 株式会社 代表取締役会長 <b>阿部 託志 様</b>	SMBC 日興証券株式会社 執行役員 <b>櫻井 歩 様</b>
近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員 <b>高川 雄二 様</b>	マニユライフ生命保険株式会社 代表執行役 <b>森田 均 様</b>	PwC コンサルティング合同会社 パートナー <b>渡部 達 様</b>		

金融知力普及協会をお支えいただいている各社  
 オリックス株式会社 株式会社経済法令研究会 サンメッセ株式会社  
 シティグループ・ジャパン・ホールディング合同会社  
 SMBC日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会  
 日本証券業協会 三井不動産株式会社



2月5日(日)

マニユライフ生命保険株式会社 代表執行役 <b>森田 均 様</b>	株式会社ウィーン 代表取締役社長 <b>森 正文 様</b>	株式会社TOC 代表取締役 <b>作田 忠 様</b>	認定NPO法人 金融知力普及協会 副理事長 <b>萩原 清人</b>	三井不動産株式会社 日本橋一丁目オフィス 所長 <b>佐伯 正人 様</b>
マニユライフ生命保険株式会社 常務執行役員兼 CMO <b>浅井 鈴美子 様</b>	ラッセル・インベストメント株式会社 ポートフォリオマネージャー <b>鹿子木 亨紀 様</b>	ドイチェ・アセット・マネジメン 株式会社 代表取締役会長 <b>阿部 託志 様</b>	近畿日本ツーリスト株式会社 常務取締役 <b>高浦 雅彦 様</b>	株式会社一休 内部監査室長 <b>大橋 広樹 様</b>
認定NPO法人 金融知力普及協会 理事長 <b>金子 昌資</b>	認定NPO法人 金融知力普及協会 シニアアドバイザー <b>吉田 憲三</b>	シティグループ・ジャパン・ ホールディングス合同会社 会長 <b>田中 達郎 様</b>	マニユライフ生命保険株式会社 取締役代表執行役社長兼 CEO <b>ギャビン ロビンソン 様</b>	認定NPO法人 金融知力普及協会 理事 <b>野中 ともよ</b>

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

ボランティアスタッフ

御手洗 伸	金 玄鎬	井上 桃子	杉本 安里紗	深田 耕司	大城 奈々	多賀谷 光	渡邊 光輝
又吉 康雅	澤田 昂大	岩田 翔	住吉 康大	古谷 和弥	小野 峻	寺谷 研人	帯包 彩加
中原 大	濱元 貴大	大森 菜央	地崎 裕人	宝蔵 花穂	神谷 涼介	水出 海斗	西川 陽之
浜田 浩考	船越 大雅	岡本 秋星	並木 亮	堀田 瑠子	亀山 尚輝	山田 颯人	尾崎 眞史
宝蔵 蓮也	松田 直晃	岡本 尚樹	縄田 寛希	松山 博幸	齋藤 賢太	山田 怜旺	北島 拓哉
宮川 輝	松原 尚生	窪津 浩倫	西郡 萌加	三浦 正基	仙田 晴紀	山村 玲雄	中村 賢史
岩崎 翔大	山根 有輝也	佐藤 賢斗	羽藤 晶	横山 智紀	高場 理人	由井 恭輔	
小川 夏	池田 麟太郎	末武 大河	林 杏子	恵谷 建介	高橋 明也	吉峰 広貴	

ユークレイル・エイト



第11回 エコノミクス甲子園  
スタッフリーダー  
池田 麟太郎

はじめまして。第11回エコノミクス甲子園にてボランティアスタッフリーダーを務めました、池田麟太郎と申します。  
第11回エコノミクス甲子園では、全国46都道府県に加え、インターネット大会、中国大会代表の計48チームが2月に東京に集い、熱い全国大会が繰り広げられました。我々ボランティアスタッフは、全国大会の運営、そして各金融機関の皆様にご協力いただき、地方大会の運営に携わっております。  
ボランティアスタッフは、過去のエコノミクス甲子園に出場した人たちが構成されています。私自身も、第8回エコノミクス甲子園に出場しました。「金融知力」なんて聞いたこともない平凡な高校生活を送っていましたが、学校の先生の紹介でエコノミクス甲子園に出場し、そこで多くの刺激を受け、このような機会をくれたエコノミクス甲子園に少しでも恩返しできればと思い、ボランティアスタッフを行っております。こうした思いは、おそらくほかのボランティアスタッフのメンバーも同じでしょう。皆、エコノミクス甲子園での思い出を大切にしている人ばかりです。  
先述の通り、エコノミクス甲子園は、今やほぼ全国の都道府県で地方大会が開催できるほどに大きな大会となりました。しかし、エコノミクス甲子園の本当の目的は、全国津々浦々の高校生に、これからの時代を生き抜くうえで不可欠な「金融知力」を少しでも身につけてもらうことにあります。全国大会の様子を見てみると、大人でも簡単にはわからないような深い知識まで勉強してきてくださる高校生もいます。もちろん優秀な彼らも貴重な人材ではありますが、私個人としては、もっと多くの高校生に金融知力を知ってもらいたいと思っております。  
今現在この報告書をお読みになられている方、周りに高校生や中学生のお知り合いがいらっしゃいましたら、是非エコノミクス甲子園の存在をお伝えいただければと思います。我々も日々、より多くの高校生に金融知力を知ってもらうためにどうしたらよいか考え、広報活動なども行っておりますが、それだけでは足りないところも多々あります。皆さんのお力をお借りできれば幸いです。



第11回 エコノミクス甲子園  
スタッフサブリーダー  
住吉 康大

第11回エコノミクス甲子園学生スタッフサブリーダーを務めました、住吉康大と申します。  
出場者とスタッフとして、2つの面から3回の大会を見て、感じたことがあります。  
エコノミクス甲子園は、夢の舞台です。  
緊張感と楽しさが入り混じる地方大会。同じ目標を目指してきたライバルと、時に争い、時に助けあう全国大会。「エコノミクス」という一見堅苦しい言葉に、身構えてしまうかもしれません。僕自身、最初に友人に誘われた時にはおじけづいたことを覚えています。でも、取り組み始めてしまえば、知らないことを学ぶ楽しさ、努力が結果につながる喜びに、引き込まれていくはず。学校とは違う世界を覗くチャンスがあります。まさに夢のような体験が、待っています。  
そして、もう一つ。  
エコノミクス甲子園は、夢をかなえるための舞台でもあります。  
夢、という言葉は、希望に満ち溢れていて、でもどこか、ふわふわとつかみどころのないものです。思い描くだけでは前に進めない。「現実」を考えることも、次第に求められてきます。  
その第一歩となる知識を、この大会が教えてくれます。家や学校では聞けない「お金」のこと。生きていく上では避けて通れないことなのに、実はまだ知らない、教えてもらっていないことがたくさんあります。夢に近づくための大切な知識を楽しく学ぶことができる。だからこの大会は、夢を「かなえるため」の舞台なのです。  
エコノミクス甲子園の夢は、スタッフになってからも続きます。今回、サブリーダーとして大会を作り上げる過程にかかわり、多くの大切なものを得ることができました。一つのことを仲間と作り上げる経験は、かけがえのない財産になりました。  
第12回の大会も素晴らしい舞台となることを祈っています。



第12回エコノミクス甲子園  
スタッフリーダー  
亀山 尚輝

こんにちは！第12回エコノミクス甲子園ボランティアスタッフのリーダーを務めます、亀山です。  
僕がエコノミクス甲子園に初めて出場したのは高校2年生の時でした。  
単調な高校生活が続く中で、年に一度の金融・経済知力日本一を決める大会「エコノミクス甲子園」のお誘いを受けたのです。  
地方予選に参加すると、少し勉強していたこともあって決勝まで進みましたが、1位しか全国大会に進出できない地方大会で「2位」というとても悔しい結果に終わりました。  
「来年こそは絶対1位を取るぞ」という決意と共に、前年に増して事前学習教材を読み、挑んだ高校3年生の12月。高校生活最後の決勝のつもりで地方大会に再挑戦し、神奈川大会を制し、全国大会に進むことができました。  
全国大会では決勝まで進んだものの、3位止まりで夢のニューヨーク研修旅行へは行けませんでした。  
しかし、エコノミクス甲子園で得た知識はすでに日常生活で活かされており、これからも活用するときは多いでしょう。今、僕が大学で経済学部所属しているのはこのエコノミクス甲子園の影響だと思えますし、大学生スタッフとなってエコノミクス甲子園の運営に携わっていることに深い感慨を覚えます。  
この大会は、高校までの授業ではあまり扱われないものの、社会に出たときに必要になる金融や経済の知識を教えてください。またエコノミクス甲子園は、勉強すればより高い順位を目指せることを、身をもって知りましたし、高校生にはこのような恵まれた機会を活用して知識を増やしてほしいと思います。  
参加する高校生のみならず、このエコノミクス甲子園を見てくださる大人の方、参加者の友達など幅広い人々に金融・経済知力が広まっていくことを願っています。



第12回エコノミクス甲子園  
スタッフサブリーダー  
齋藤 賢太

はじめまして。第12回エコノミクス甲子園ボランティアスタッフのサブリーダーを務めます、齋藤賢太と申します。私は第9回で全国大会に出場し、結果こそあまり良くなかったのですが、刺激的で、経済や金融に触れる良い機会となりました。そして、第11回よりスタッフを務めております。  
さて、高校生が経済の知識をつける意義は何かと思う方も多いでしょう。たしかに、高校生ができることは少ないです。しかし、高校生は進路を決める大きな分岐点の一つで、人生でお金は不可欠な存在である以上、経済の知識があると考えやすいですし、ニュースなどをみるときに用語の意味を知っていると理解しやすくなります。大学生、社会人からでも間に合いますが、高校生から知っておくことによるアドバンテージは大きいと考えます。ただ、これは私個人の考えであり、人により異なるとは思いますが、エコノミクス甲子園にある程度対策して挑めば必ず収穫があると思えます。  
最初は3都市でしか開催されなかったこの大会が、第11回ではほぼ全国で開催され、参加者は2000人を超えるなどエコノミクス甲子園は成熟期に入りつつあるのかもしれませんが、そのような状況で高校生のみなさんがより楽しめ、より実力を発揮でき、参加して良かったと思っただけのように努力してまいります。第12回エコノミクス甲子園に期待してください。そして、高校生のみなさんの1組でも多くの参加を心からお待ちしております。



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校





エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧

回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回		
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017		
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南	札幌南	札幌南	3年連続 3 回目	
青森								青森	青森	青森	弘前	初出場	
岩手				水沢	盛岡第三						盛岡中央	初出場	
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華	仙台二華	仙台第一	7年ぶり 2 回目	
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西	秋田	秋田	2年連続 3 回目	
山形							山形東	山形南	山形東	山形東	鶴岡南	初出場	
福島		福島【東北】	福島【東北】			会津学鳳【関東】	福島	福島	福島高専	白河	福島	3年ぶり 5 回目	
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一	土浦第一	並木中等	初出場	
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮	宇都宮	宇都宮	3年連続 4 回目	
群馬							富岡	前橋	高崎女子	前橋	ぐんま国際	初出場	
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東	栄東	浦和	7年ぶり 3 回目	
千葉	東立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	東立千葉	渋谷幕張	柏	東葛飾	初出場	
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷	早稲田	お茶大附属	初出場	
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀	慶応義塾	聖光学院	3年ぶり 5 回目	
新潟								国際情報	新潟明訓	新潟	新潟	2年連続 2 回目	
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	富山	初出場	
石川		金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢泉丘	金沢大附	金沢大附	金沢大附	3年連続 9 回目	
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島	高志	羽水	初出場	
山梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	初出場	
長野								長野	諏訪清陵	松本深志	松本深志	2年連続 2 回目	
岐阜					東立岐阜	東立岐阜	東立岐阜	岐阜東	東立岐阜	東立岐阜	東立岐阜	3年連続 6 回目	
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉	静岡	知徳	4年ぶり 2 回目	
愛知	南山女子【関西】	滝	名大附	名大附	名大附	旭丘	東海	東海	滝	滝	滝	3年連続 4 回目	
三重						津	三重	川越	川越	宇治山田商業	四日市商業	初出場	
滋賀										水口東	膳所	初出場	
京都									洛北【ネット】		洛北	2年ぶり 2 回目	
大阪	星光学院					清風南海	星光学院	開明	金蘭千里 星光学院【10 回記念】	星光学院	星光学院	3年ぶり 3 回目	
兵庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】	関西学院【ネット】		灘	灘	甲南【ネット】	2年連続 6 回目 初出場	
奈良			東大寺【関西】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良 C	智辯奈良 C	智辯奈良 C	東大寺	東大寺	2年連続 5 回目	
和歌山													
鳥取								鳥取西	鳥取西	湯梨浜	青翔開智	初出場	
島根							松江北	浜田	松江商業	隠岐	情報科学	初出場	
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思	倉敷精思	倉敷天城	初出場	
広島						広大福山【中国】	修道	広島学院	修道	広島学院 近大東広島【ネット】	広大福山	5年ぶり 2 回目	
山口							宇部	宇部	宇部	下関西	下関西	2年連続 2 回目	
徳島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立	城東	徳島市立	2年ぶり 3 回目	
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松	高松	観音寺第一	7年ぶり 3 回目	
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西	愛光	愛光	2年連続 4 回目	
高知								高知学芸	高知小津	土佐	高知学芸	3年ぶり 2 回目	
福岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘	大年田	修猷館	3年ぶり 3 回目	
佐賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】					致遠館	致遠館	2年連続 4 回目	
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台	精道三川台	長崎西	初出場	
熊本						熊本【九州】					八代	初出場	
大分											安心院	初出場	
宮崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	2年連続 3 回目	
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【後援校】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸	国分中央	鶴丸	2年ぶり 4 回目	
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	3年連続 8 回目	
中国											上海甘泉	初出場	
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40	44	48		

【 】内は所在地の県以外で実施された予選（第一回）・地方大会名。第二回のラ・サールは 2 チーム出場  
 □ は全国大会優勝校  
 \* 静岡【知徳】は前校名「三島」

■第1回



■第2回



■第3回



■第4回



■第5回



■第6回



■第7回



■第8回



■第9回



■第10回

